

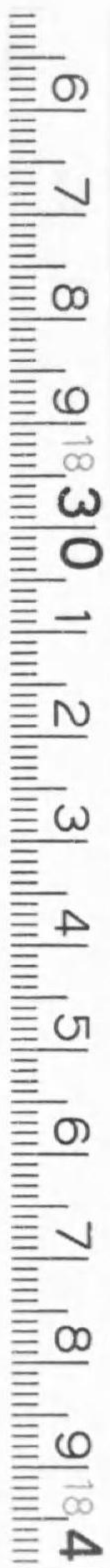
特216

977

特別講習會講義錄

620

神理教大教廳



始



特216  
977



凡例

一、本書は本教特別講習會に於ける諸先生の講義速記を集輯したるものなり

二、本書は本講習會に参加せられたる聴講生及講習會加盟會員教師諸氏の現時局下に於ける布教資料の爲めに輯録せしものなり

三、本講習會は時局に對する教師再教育の目的を以つて特に管長依命の下に、昭和十三年十一月二十一日より同二十三日に至る三日間本院大教殿及び清聚殿に於て開講せしものなり



謝 言

一、本講義録上梓に當り最も重要な公務を割愛され本講習會の爲め貴重なる講義を賜ひたる諸講師に對し深甚なる感謝の意を表すると共に、開講に際し御聲援を賜はつた小倉市長島中將閣下、小倉在郷軍人分會長吉田大佐殿、九大學生主事前田稔靖先生に對し謹んで敬意を表します

一、猶藤井先生講義の日本精神は都合上他日單行の豫定でありますから豫め御諒承を願います

目 次

聖戰の意義と最後の勝利………	陸軍少將 黒田周一………	一
輝く軍艦旗の下に活躍する海軍の現状………	海軍大佐 中尾八郎………	三
時艱克服の原理………	九州帝大教授 鹿子木貞信………	四
明治維新の精神と神道………	九州帝大教授 竹岡勝也………	七
戰爭と國民生活………	大阪朝日新聞社 經濟課長 岡崎主計………	八



## 聖戦の意義と最後の勝利

陸軍少將 黒田周一

本教會の一方ならぬ御世話で此席上に罷り出まして、時節柄敬神崇祖の信念を以て、時局を救済すべく努力されておられる皆様方に對して、一場の御話を申上ることは、私の誠に光榮と存するところであります。

御話申上る大体の事柄は『聖戦の意義と最後の勝利』といふ標題を掲げて時局談の一端を述べたいのであります。どうか暫くの間御静聽を煩はしたいと存じます。

支那との戦ひは實に國家の重大事でありますが、此の戦ひの情況を知る爲には、先づ支那に對する大体の概念を持つて頂きたい、支那とは一体どんな所であるか……御承知

の通り皆さんは此の北九州に住んで居られる(地圖を指す)此處が朝鮮之が滿洲、之が支那、之がソビエトロシアが占據して居る外蒙であります。之がイギリスの勢力下にあるチベットで私の話を申上る支那は大休支那本部の範圍であります。さうして此支那を北支、中支、南支の三つに分けて居ります。此北支とは黄河と云ふ河が流れて居る。黄河と云ふ河はドロ／＼の水が流れて居り、所に依つては河底が普通の土地よりも高い所があります。此黄河の北滿洲國の南にあるのが北支で山東省、綏遠省、察哈爾省、内蒙等を含む範圍であります。此の北支と云ふ所は我々日本國民

として忘れてならない所である。明治三十三年義和團事件で血を流し、大正三年青島にて骨を碎き昭和三年の濟南事件で犠牲者を生じ滿洲事件で又々血を流して居る。北支は我々同胞の尊い血潮の染んで居らぬ所は無いと云つてもよい。さうして地利的に云ふと北支は日本、滿洲、朝鮮から非常に近い。又經濟的から云ふと日本人が澤山行つて居るのみならず鐵、羊毛、綿、石炭等、之等の原料は、どうしても日本に無くてはならぬ大事な物である。さうして此處には八千萬の人間が居る。此の八千萬の人間の購買力といふものは見捨ててはならぬ大事なものであります。滿洲國が獨立した時は、我々の生命線、簡單に申上ますと我々の茶碗、箸は滿洲國にあると云はれたのであります。滿洲國に有る原料を日本が買つて来て、日本で造つた品物を滿洲國に賣つてやる。さうして共存共榮の實を擧げてゆくと日本の命の種になると云ふのである。躍進日本には滿洲國も勿論必要ではあります。北支八千萬の人間の購買力といふものと北支に有る鐵、羊毛、綿、石炭等之等の原料を買

つて来て加工して造つた品物を向ふに賣るといふ様なことを考へた時、北支といふ所は我々の大切な第二の生命線であると云へるのであります。

此の大切な生命線の南が中支那であつて、中支那には西から東に流れて居る揚子江がある。此の川は五千籽も流れてゐる。此の中支那の各省には何れの省も麥、米が二千萬石以上も取れる。支那は世界の寶庫と云はれてゐるが其の中のみ米庫とも云ふべきところは中支那である。さうして此の中支那は東洋の米倉であり支那の米倉である。其の米倉の中にある鐵は、どうしても日本に無くてはならぬ物であります。其の米倉の中支那には二億の人間が住んで居る。此の二億の人間の購買力といふものは見逃すべからざるものであつて世界の文明國が支那に向つて資本を投ずるのは地上の特産もあるが主として二億の人間の購買力に目をつけて居るのであります。世界の何れの國もそう云ふものに目をつけて居る。今日アメリカ、イギリス、フランスが揚子江の航行權を彼之云つて來るのも、やはりそこにあるの

であります。將來此の二億の人間が皆日本の品物を買ふことになつて來れば、之は大變なことになる。躍進日本の産業が益々盛になつて商賣は益々繁昌することになるのでありますから將來の日本の生命線は全く北、中支那であると云はねばなりません。中支那は日本の將來の生命線であつて、九州から最も近い所であり、將來九州の人間が此の中支那に向つて進むと云ふ氣分を起さねばならぬ所であつて實に大切な所は中支那であります。

中支那の南に山脈を越へると我台灣の北西に福建省、廣東省、貴州省、雲南省等があるが面白いのは山が秀て谷が深く、滾々として水が流れて居り日本に歸つた様な感じがする所であり、さうして此南支からは澤山の出稼人が南洋に行き成功して居る。三百萬の華僑が居り數千萬の富を爲して其金をどん／＼郷里に送つて居る。此の南支那には何千萬の人間が居り、之又非常な購買力を持つて居る。さうして此の山の中には金、銀、鉛、錫等日本に最も必要なる礦物が澤山ある。之等の礦物は日本にはどうしても無

くてはならぬものばかりであります。こういうことを考へれば南支那といふ所は日本として見逃すべからざる大切な所であるが、斯く觀じ來れば北支那、南支那を通じ支那といふ所は日本に取つて不必要な所は無いいふことになるといふことを考へねばならぬのであります。日本は支那に依つて生きるといふ考へを持たねばならぬほどの價値を持つて居るのが支那である。

斯くの如く大切な支那に、どういふ人間が住んで居るかといふことを考へれば、漢、滿、蒙、回、藏の五人種が住んで居る。詳細に言へば他にも人種があるが大ざつぱりに云ふと大体以上の五人種が住んで居る。其の内漢人種が昔から地位が進んで居る。有名な聖人、君子、學者、武人は凡てが漢人種である。滿人種其の他を叩き出して支那の良い所は全部漢人種を持つて居る。資金を持つて銀行を興して經濟を握つて居るのは漢人種である。政治をなすもの、軍を率いるもの悉く此の漢人種で此漢人種が三億何千萬と

いふ多数な人間が居る。我々の聖戦は此の漢人種の眞只中に飛び込んで奮戦して居るのであります。然し我々の聖戦の目標は此の三億何千萬の漢人種を相手にして戦つて居るではありません。そこで我々の交戦目標は何か、之を明かにしなければならぬ。それでは我々は其の三億何千萬の全漢人種を相手にして居るかといふと決してさうではない。三億何千萬の漢人種を握つて居る権力者が居る。之は所謂百萬の國民黨といふものが居つて、之が支那を振り廻して居る。若干の共産黨が居つて之を後押しして居る。此の國民黨と共産黨が三億何千萬の支那人を誤らせて居るのであるが只今では大体に於て之が四つに分れて居ります。北京に出来た中華民國臨時政府、南京に出来た中華民國維新政府、湖南の南方に逃げた蔣介石のやつて居る國民政府、共産黨の四つに分れて居るが其の中で北京と南京に出来た兩政府は日本型即ち親日型で日本の正しき進みを信じて居る者に早變りした者であります。共産黨はコミンテルン型國民黨政府はイギリス型であつて四つのものが只今では三

つの型に分れて來て居るのであります。支那には政府が四つあるが、三つの型に今日では分れて來て居るのであります。其の中で我々の聖戦は此國民黨と共産黨といふ所謂支那良民を振り廻して居る奴を叩きつけて居るのであつて、それが聖戦であります。外國人がエチオピアを取つたやり方とは一寸違つて居る。そこで蔣介石の握つて居る百餘萬の國民黨の代表等がどう云つて居るかといふと日本は怪しからぬ、支那から朝鮮を取り滿洲を取り、今や支那全土を取りに來ると云つて居る。又共産黨は我々は東に進まねばならぬ。それには日本を倒さねば進めないと云つて居る。其の意思が相通じて一緒になつて日本に引掛つて來て居る。そこで我々の考へねばならぬことは我々は朝鮮、滿洲、支那を取りに行つて居るのかどうかといふことで、之が最も大切なことであると思ふのであります。何時滿洲を朝鮮の様にするか、早く支那を外國人がエチオピアを取つた様にしてしもうがよいではないかと云ふ人があるが、我々の聖戦の目的は朝鮮、滿洲、北支那を取りに行つて居るので

はない。神の救の手を進めつゝあるのである。斯ういふ信念を固くしなければならぬと思ふのであります。

私は戦の起る前に上海から南京、北支那を歩いて來たが當時南京で……丁度雨が降つて居りましたが……南京では雨の中で演習が行はれて居つた。私はこれは不思議なことであると思ひました。支那人は雨が降れば戦ひでもやめるのに、これは變であると思ひながら、よく見ると驚いた。十六才以上六十才までの者が雨の中で盛に演習をやつて居る。青年團、官公吏、婦人など國民全部擧げて演習をやつて居る。之は不思議であると思つて理由を聞いて見ると日本が我が朝鮮、滿洲、支那を取りに來るから我々はこうして舉國一致して所謂人民戦線を張つて居ると云つて居た。舉國一致日本に對抗しなければならぬと蔣介石が訓示をやつたので、さう云ふ風な意氣込で演習をやつて居ると判つた。彼等は全く日本が支那を取りに來るのであると思つて居る。共産黨がそれと一緒にたつて全く其の通りであると云つてゐる。彼等は日本が全く支那を取りに來るのだと思つて

居る證據には小學校の書物を見ても克くわかる。小學校の教科書に日本が台灣、朝鮮を併呑したと教へてある。斯の如く誤り教へて日本をやつゝけねばならぬと指導して居るが、果して我々は滿洲、支那を取りに行つて居るのかどうか、決してさうではないのである。神の救の手を進めて居るのである。聖戦をやつて居るのである。此の觀念を明かにしなければならぬ。然らば何故の聖戦であるか、又聖戦は如何なる意義を有して居るのであるかと云ふ事に就て更に一步を進めて述べて見たいと思ふのであります。

御承知の如く神の御子であらせられる神武天皇さまは九州を統轄されて七、八年もかゝつて近畿に御入りになつて大和に御入りにならうとなされた時、長髓彦と云ふ者が居つて神武天皇さまは神の御子と云つて我々の土地を取りに來る者である。不都合であると云つて弓矢を向けて其の勢い當るべからざるものがあり御兄君の五瀬命は敵の流れ矢にあたつて御果になられました。そこで神武天皇さまは道御轉じになられまして海路大和に御入りになられます時

金の蔭が現はれ雷光があつて敵が降伏した。饒速日命は神武天皇さまは正しく神の御子であらせられるといふことを拜しまして、長髓彦は間違つたことをやつて居る。悪い奴であるから平げねばならぬといふので長髓彦が討たれたと記されてあります。此の神武天皇さまの御東征は日本民族が正しい、之を沮害する悪い奴が居るからそれを除いてやらうといふ御精神で御東征の歩を御進めにならせられたのであります。此の信念がありまして二千年前橿原の宮に『六合ヲ兼ネテ都ヲ開キ八紘ヲ掩フテ宇ト爲ス』と詔されました。國中には一人の餓る者、寒がる者の無い様に平和な樂土を作り外には家を作つてやると仰せられたのであります。實に宏大無邊の御意圖であると存じます。人に依つては神武天皇時代に世界のことなど考へては居らないと制限を加へる人があるが、私は此のことは、さうまで小さく考へる必要はないと思ひます。國內を平和の樂土とし四方八方に家を作つてやるといふことが長髓彦を除いて日本民族の正しいものを助くるといふ氣分が現はれて居る。神武天

皇さまから景行天皇さま迄十四代一貫して此大御心が傳はり給ひ景行天皇さまの御代に、九州で熊襲が跋扈した、其の背後を調べて見ると朝鮮が糸を引いて居つたので神功皇后さまが男装あそばされて香椎の海岸から討伐に向はせられたと記されてあります。釋迦に説法の様であるが、神功皇后さまは天照大神の偉大な御心持、神武天皇さまの教へを以つて熊襲が良民をしいたげる、其のものを尋ねて見ると朝鮮が糸を引いて居るので其の根を絶ち良いものを生ひ立たせようといふ御精神で海外に兵を御進めにならせられたのであります。それは正しく神の教へであり神武天皇さまの八紘爲宇の御精神の現はれであると拜察申上げられます。歴代の天皇さまが此の御精神で御進みになられておます。明治天皇さまは滿洲にロシヤが出て來て我まゝをするので韓國の保全期し難しと仰せられ對露宣戰を布告されました。大正天皇さまは〇〇國が青島に根據を置いて彼之とするので東洋の平和方に危機に頻すと仰せられ出兵されました。今上天皇さまは『今にして積年の禍根を斷つに非ず

むば東亞の安定永久に得て望むべからず』と仰せられて聖戰の御軍を御進めになられて居るのであります。今にして積年の禍根を除かねば東洋は永遠に平和にならないぞと仰せられました。支那で國民黨と共產黨が良い者をしいたげ悪者を跋扈させるので斯様なものを今にして除かないと東洋は永遠に平和にならないぞと仰せられました。全く神武天皇さまの八紘爲宇の大精神と變らないのであります。農家は稻の中に生へた草を取る、草も植物である稻も植物であるのに何故に草を取らねばならないか、草を取らぬと田は草だらけになつて米は取れない。米は崇高なる人類の生命であり又神佛に供へる實に大切なものである。其の米を作る爲には田の草を取らねばならない。草を取るのを怠ると米は取れない。稗だらけになる。之は天地自然の玄理である。神武天皇さまが長髓彦を討つたのは稗の如きものを抜いたのである。神功皇后さまが韓國に兵を御進めになつたのも、明治天皇さまが滿洲に兵を御進めになつたのも、大正天皇さまが青島に兵を御進めになつたのも、今上天皇

さまが只今百萬の皇軍を以つて蔣介石と共產黨をやつつけて居るのも全く稻の中の稗を抜いて居るのであつて、今にして此の稗を抜いて置かないと東洋は稗だらけになつて永遠に平和が來ないぞと仰せられてゐるのであります。自分の田の中の稗を取るのはいが人の田の中の稗を抜かないでもよいではないかといふ議論がありそうであるが、此處に我々は考へを持たねばならない。支那の稗を取らねば支那の民衆が立つて行かない、支那の民衆を見れば實に哀れなものである。とても我々は見捨て置けない。蔣介石は月給を澤山やるから兵隊になれと云つて連れて來て戦線に送つて其の後に督戰隊や鉄條網を張つて戦はして居る。死んだ者は犬猫同様に扱つて居る。月給は不拂、遺族には一文も金はやらない。死体は何時まで放つてある。全く人間扱はして居らない。戦ひに負けて逃る時は燒土とし掠奪をやつてしもう。それは鬼よりもひどいやり方をして居るのであつて、蔣介石の如き者は絶対に生かして置くことは出來ない。又共產黨はロシヤの人間をあの通りひどい目に遭

はして居る。絶対にスターリンの如き者を生かして置くことは出来ない。支那は他所の田畑とは云はれないのである。此のことを我々はよく理解しなければならぬのである。神武天皇さまは極く小さい範圍の稗を抜かれた。神功皇后さまは朝鮮まで行かれた。明治天皇さまは満洲まで、今上天皇さまは支那まで御進みになつて居るといふことは日本帝國の國是であります。國是といふことは所謂國の根本方針であります。國是といふものは内閣が決めるのではないかと云ふ人もあるかも知れませんが國是、國の根本方針に基き此の問題をどうすると決めるのが國策であります。日本帝國にはちやんと國の根本方針が大昔から決まつて居る。日本帝國には天照大神以來の國の根本方針がある。神武天皇さまが國の根本方針を明かにされて居る。其の根本方針が只今朝鮮の満洲、支那に及んで居るのである。之を及ぼさなかつたら八紘爲宇といふことが行はれないのである。何故かといふと今の世の中を見れば恐ろしい分解作用と結合作用をやつて居る。南北アメリカを中心としたアメリカ

合衆國が中心になつて原料を取つて工場にかけて勞賃を得て出来た品物を賣却して有無相通じて共存共榮の實を擧げると云ふ形が漸次濃厚になつて來て居る。之がアメリカを中心とするブロックである。ヨーロッパではイギリスを中心として世界の人達が工場にかけて品物を作り之を賣却して田舎のものは原料を買つてもらつて喜ぶ、所謂有無相通する共存共榮、之がイギリスを中心とするブロックであり此の二大ブロックが今の世界に出来かけて居る。残つて居るのは東洋である。東洋は此のまま放つて置くと所謂長い者に捲かれ立ち上れないことになるのである。外國人の奴隷視される。原料を買つてもらつて喜ぶ、外國人が物を作つて、それを賣つてもらつて喜ぶと云ふ様なことで奴隷視されて居ると同じことになる。外國人が自分達の手に握つて居る領土は實にひどいことをやつて居る。佛領支那などは、とてもひどいことをやつて居る。アメリカもひどいことをやつて居る。丸で人間扱にはして居らない。其の一例として佛領印度の事をお話すると向ふでは汽車が一等、

二等、三等、四等とあるが、土人は四等にしか乗せない、土人は三等にも乗る資格がないのである。四等は屋根があつて側がない。側は鉄棒を入れてあつて牛馬を乗せるのと同様である。とてもひどいことをやつて居る。如何に日本が崇高な考へを持つて居つても神の救の手を廣めようと思つても、さういふものに押へつけられてしまつてどうしてもいけないのである。そこでどうしても此處に日本を中心とした東洋のブロックを設定して満洲の原料、支那の原料を買つて彼等を喜ばせ、日本の工場にかけて勞賃を得て、出来たものを賣却して彼等を喜ばせてやる。こちらも儲るといふ様に有無相通じて共存共榮の實を擧げねばいけないのであります。日滿支の三つが打つて一丸となる事が出来れば大きな東洋のブロックが出来る。さうすればアメリカのブロック。イギリスのブロックに對し世界の三大ブロックとして共存共榮の實を擧げて人類の福祉を擧げることが出来るといふ見透しがつき、之をやらねば支那が草だらけになるから何と云つても神の救の手を伸べなければいけ

ない。それには蔣介石や共産黨の如き惡草の根を切つて此處の人達に幸福を與へねばならぬ。之が我々の使命である我々日本國民の使命は何としても東洋を永遠に平和な樂土として行かねばならぬといふことであるから鮮人とか滿人とかチャンコロとかいふ様な觀念は之からスツカリ除かねばならない、朝鮮、満洲、支那人でも之等を打つて一丸として有無相通じて向ふの足りないものは補つてやる。向ふに餘つて居るものはこちらに貰ふといふ様にして日滿支が打つて一丸となつて行かねばならない。今までの様な草だらけにして置くことは出来ない、整然たる水田、畑として立派な米を取り幸福な世の中になければならぬ。此の大事業が國の根本方針から我々の双肩に振りかゝつて來て居るのであります。そこで何としても日本は我が朝鮮、満洲支那を取りに來ると云ふ國民黨を叩き潰してしまはねばならぬ。又日本を除かねば我々は東に進むことが出来ないといふ云つて居る共産黨を叩き潰してしまつて共産黨を東亞の天地に置くことは出来ないであります。斯ういふ意味から



考へた時、我々に鉄砲を向けるものは皆叩き殺すことは當然である。決して支那を取るのではなくして東洋を救つて家を作つてやり一家の如くに利益を受け、幸ひを受け、幸ひを受けさせて行こうといふ目的で北支、中支、南支に進んで居るのであつて之を聖戦と云ふのであります。

然らば此の戦ひの様子はどうかといふことを簡単に申し上げます。戦ひは戦場で戦ふ以外に國內でも經濟戦や思想戦や外交戦や宣傳戦をやつて居る、茲では戦場の戦ひ振りに就きまして申し上げます。戦場の戦ひは、空、陸、地下水上、水中の五つになつて居る。水上の戦ひ、水の中の戦ひ、之は海軍の方が御出席になつて御話になることと思ひますから省畧致しまして空と陸の戦ひに付いて話を申し上げます。空陸の戦ひが連戦連勝の所以は一体何處に其原因があるのかといふことを御話し申上げて置きたい。其の戦ひ振りは皆さん方はラヂオ、新聞、講演等で聞いて居らるゝでせうが、どう云ふ譯で連戦連勝して居るのかといふことを考へれば、それには大きな根本が二つあるのであります。即

が啞然とする技を爲して居る。四國の普通寺生れの柏村兵曹、此の人は敵とぶつゝかつて敵の飛行機と共に雖もみ状態になつて墜落した、こちらは持ち直し片翼の無い飛行機で緩るゝと凱旋した。之などは全く神技と言はれる様な腕の冴である。前述の日本精神と此の腕の冴とが空の戦いで確かに勝つて居るのであります。

陸上の戦ひを見ても北支、中支、南支の戦ひでも、此の間のパイアスでも、廣東に攻入つた時でも僅かの日數で取つてしまつた。西洋人はびつくりして居る。北支では山の中で奮戦を續けて居る、馬占山や共産軍がやつて来る、或は毛澤唐の軍隊がやつて来る。馬占山は死んだのではないかと云ふ人もあるが馬占山と云ふ名前の者は五人も居るから實際はどれが死んだのか、どれが生きて居るのか判らない。山西の山の中に入つて来た遊撃隊を叩き出してしまつて、ロシアから物を送つて来る隴海線を叩き潰してしまつて居る。天津から南に下つて徐州に迫つて徐州を東西南北から取巻いて之を中支方面では上海を攻撃し南京を取り

ち精神力が良いのと、腕が冴て居る、此の二つである。戰鬥力が勝つて居るからであります。飛行機に乗る場合は落下傘があるのでそれを着けるのが立前であるが日本軍人は落下傘は着けない。落下傘を着て降りて敵前に落ちて捕虜となるのを潔しとしない。此の頃では落下傘を飛び立つ前に放り出して行く。落下傘は初めから着ない覺悟である。

之は生還するといふ觀念を持つて居らないからである。そこに非常に崇高なる日本精神が躍動して居るのであります。支那の飛行機乗は今日一日乗ると幾ら儲ると勘定して乗る。ロシア人でもさうである。一日乗れば幾ら儲ると勘定して乗るものと命を捨て國を救ふといふ觀念とはとても比較にならない。此の精神が彼を壓倒したのであります。

又腕の冴へは非常なものである。或る飛行機が敵にぶつつかつた時は敵のプロペラに突かゝつて之を毀したので、敵は墜落した。落下傘で飛び降りて行く、戦友の敵、生かして置くことは出来ないと落下傘の紐を飛行機の翼に引つ掛て切つて落し敵を討つたといふ様な例は幾もあり外國人

揚子江を上り長江の南北から西に押寄せて漢口を十月二十七日に占領した。これには敵もびつくりし世界の人もびつくりし日本が勝つぞといふスタンプを押す様になつた。只今では湖南省の西北方に蔣介石が引込んで、もう一戦やろうと軍隊の立直しをして居る様である。斯くの如く陸戦に於ては至る所連戦連勝して居る。之を行つて見れば内地で見て居る様にスラ／＼とは行つて居ない。實に困難と日本精神と腕とが斯くの如き戰果を齎して居ると云ふことが判るのであります。只今久留米に来て居られる〇〇將軍は徐州の戦ひで奮戦された人である。此の時は實に小數の兵力で敵の大兵を引受けてやつて居る。山手の方に行つた部隊は食料が無い、食物を持って居ても水がない。生米、木の實、草の根を食つて戦つて居る。飛行機から食物を落してもらつて漸く命を繋いだといふ状態であります。上海方面では泥水の中に浸つて戦つた。一番長いのは五日五晩も泥水の中に浸つてゐたといふことで泥水を飲んで戦つて行く實に鉄石の体胃腸肺腑を持つて居らないと堪へられないと

いふ状態を忍んで戦つて居る。南京の光華門の戦ひに伊藤少佐の奮戦は誠に勇壯なものであつた。伊藤少佐は先陣を承つて敵の中に飛び込み之を占領した。此の時の少佐は非常な奮戦をして居る。向ふは何萬といふ大軍で押寄せ、取返そうとやつて来る。それを撃退奮戦中敵の手榴弾が頭に當つて即死を遂げたが、死の間際にどう云ふ精神を發揮したかといふと此の人は前の上海事變で眼を怪我して、皇陛下から義眼を御下賜されて居つた。死の瞬間に之を敵に渡すなと云つた。次に城門を離すな死守々々と云つて息を引取つた。此の精神は實に崇高な精神である。大楠公は濠川で七生報國の大信念を残した。休は死すとも魂は尊氏につきまとい敵を亡し忠義を立てねば置かないと云つた。伊藤少佐は全くそれである。占領した所を離さない。戦死者が續出し息のあるものを合はせて僅か三十幾人になるまで減つたが、とうとう頭張つた。十日、十一日、十二日と頭張つて、増援隊が来て光華門を占領し七萬の敵軍を叩き破つて十一月三十日日出度く南京が陥落したのでありま

す。伊藤少佐は此の崇高なる精神を發揮されたが日本の將兵は皆此の精神を持つて居る方々ばかりである。陸上の戦ひで勝つて居るのは日本の國體を三千年來續けて來た日本精神と鍛へ上た腕、少ない兵隊で澤山の兵隊をやつゝけると云ふのは日本精神の困難の中で鍛へ上げた腕とであります。飛行機は平均風速五米の中でやつて居る。蜻返りといふ様なことは世界の飛行機が通れない所で鍛へた腕である。空でも陸でも此の通り連戦連勝である、之は管ではない。國體を三千年培ふて來た日本精神と平素困難の中に鍛へた腕前とが合致して連戦連勝が出來たといふ事を痛感したのであります。我が日本の國は國內で出來るだけでは物が足りない。其の足りない不自由の中で心を磨き腕を練つて居る。さうしなければ此の非常時を切り抜けれられないのである。之は戦場に行つて居る人も國內に居る人も全く同一の精神であると私は考へて居るのであります。以上申上ましたことは戦の概念と連戦連勝の原因と聖戰の意義は如何なる意義を有して居るか、今度の戦はどういふ意味合か、國

是の示す所、神武天皇の八紘爲宇の大精神に基いた國是の使命遂行であるから徹底的に之をやらねばならぬといふことの骨子を申上げたのであります。之で五分間休憩して續いて申上ることに致します。(拍手)

之から支那と戦の起りました原因に就て申上ります。私は南京から歸る時は汽車で歸つて來ましたが、途中で支那兵の死体が澤山轉つて居るのを見受る。死んでから長いのは二ヶ月も放つてある。蒋介石は兵隊を人間扱にして居らない。金を澤山やると云つて騙して連れて來てこき使つて、死んだら犬の死んだものゝ様に放つてある。石ころ一つ、木の札一本も立てゝやらない。蒋介石といふ人間は廣東で破れ漢口破れ、殆んど支那の重要地帯を失ひ、只今四川、廣西、貴州、雲南の四省を一丸として何處までも日本に對抗しよう長期抗戦を續けよう、其の間には何等かの變化があつて我々が勝つのだと豪語して居る。そこで蒋介石を分解して見たい。さうすると、どう云ふ譯で斯ういふ戦になつて來たかといふことが判るのであります。蒋介石といふ

人間は今日は日本を仇敵視して居るけれども蒋介石のもとを考へると彼は親日である。日本が好であつた。どうして蒋介石が日本が好であつたかといふと、彼は日本の陸軍士官學校に入り越後の高田で隊附をやつて居つた。革命が起つてそれに參加したが日本の〇〇將軍の所に身を寄せたのである。それで日本嫌であつたと云はれないのである。彼が支那に歸つて革命に成功した時は日本に留學した人間を用いて外國人に強くあたり親日政策を施したのである。最初の彼は正しく親日であつたことは争はれない。然るに大正十一年になつて排日の看板を掲げた。之が問題である。日本が好であつたけれども嫌だといふ様に變つた。此處を我々はよく検討しなければならぬのであります。どういふ譯で彼がさうなつたのかといふと、蒋介石は支那人である斯うすると都合がよいと考へた時には心裡が變る。親日ではいけない、排日したが徳であると考へたから早速排日となつた。では何が彼をさうさせたのかといふとイギリスである。イギリスの政策が彼をさう考へさせたのである。日

本が好きであつたのを嫌だと云はせたのはイギリスである。どういふ譯で私がこんな講演場でさういふことを云ふかといふと、此れには澤山の證據がある。此の本を質すと長くなりませんが簡単に申上ると世の中は歐洲大戰から變つて居る。日露戦争までは陸海軍が勝つと其の國が勝つといふことになつて居つた。所が歐洲大戰ではドイツが西、東、南で勝ち陸軍の戦は連戦連勝の戦をしながら大正三年、四年五年、六年、七年と戦つて居るうちにドイツが負た。それは何が理由になつて居るのかといふと國の物資が足りなくなつて精神が毀され、魂が毀されて戦には勝ちながら遂にドイツが負けたのであります。そこで世の中の考へ方が變つて來た。將來の國防は軍人、軍隊が勝つただけではない。國の武、物、心を完備しなければならぬといふことになつて來た。反對に云ふと敵國の武、物、心といふものを豫め毀して置くといふことが大切である。自分の國の物を大切にしていかなければならぬといふことに目醒めて來たのであります。歐洲大戰でドイツを引括つてしまつたとこ

ろのイギリス、アメリカ、フランスが東洋に來て見てビツクリした。東洋では歐洲大戰中に日本の工業が非常に發達し日本の商賣が繁昌し、日本の銀行には澤山の金が出来た。さうして支那、インド、ゴウシユウ、アフリカ等大西洋の半分は日本が活躍し日本の商賣が繁昌して居つたのである。品物を見れば日本品が安い。大正八年、九年頃東洋に來た外國人はビツクリした。イギリスの經濟力も日本の經濟で風靡されてしまつて居る。之を見た時に彼等は非常にビツクリした。之は何とかして日本を抑へつけねば大變であるかと考へた。非常なショックを受けたイギリスは遂に日英同盟を引破つてしまつた。破れ草履でも捨てる様にイギリスは日英同盟を捨て、しまつた。イギリスはドイツを括つた様に日本を引括らねばならぬと考へたのである。さうしてワシントン會議が開かれ、又二十一ヶ條のあれがいけない、之れがいけないと云つて、日本の軍艦を三、彼は五、といふ様なことを持ち出した。五、五、三の比率を決めて日本の武力を押へて、ポイコットをやつて日本の品物を排

斥した。支那にあつた日本品を引出して焼いてしまふ、支那人が日本人の商店に物を買に行くといふキをつけたいもので頬べたを叩く。日本の船に乗れば國賊と云つて叩くといふ様な亂暴なことをやるので日本人の商店には客が來ない様になつて商賣は儲からない様になつてしまつて、歸るには歸られない。居つても食へないので身投をして死る、鐵道自殺をやらふかと苦しむ者が多數出來た。そこで日本には金が入らない様になつた。大正の終りから昭和の初めにかけて不景氣がやつて來て食へない様になつて來た。そこに今度は魂を毀す魔の手が廻つて來た。ソビエツトの手がアメリカやイギリスを経て日本の若い人達に廻つて來てそれがストライキとなり、勞働争議、小作争議、借家争議といふ様なものになつて現はれて來て、日本の國がダン／＼グラク様になつてしまふ。斯ういふことを指導したのはイギリスが發頭人である。斯くして遂に支那人をして排日といふ感じを持たせるに至つたのであります。此の本は民國二十年に出來たものである。之は昭和六年に支那人が書

いたものである。こんな書物が幾らでもある。此の本は上海書院で焼け残つたものを入れたのであるが、征倭論と書いてある。内容は日本をやつゝけることが出来るといふことが書いてある。そんなことを一々話をして居ると長くなるので要點だけを簡単に申上りますと日本は紙で作つた張子の虎の様な國である。戦をする力が無くなつて居る、日本は貧乏國であるから不賣同盟を作り間接に經濟封鎖をやれば物が足りなくなる、日本の思想は混亂状態になつて居る、日本は外交にも失敗して居る。支那には英米の援助があるから初めは支那が不利であつても終りには勝つ、英米の援助で最後の勝利は我々に來るといふ觀念を支那人に植へ付けた。小學校の書物にまで排日思想が一ぱい盛られてしまつて手も足も出ない様にしようとしたのである。又九ヶ國條約、不戰條約を作り何を書いてあるかといふと支那の主權尊重、領土保全、機會均等主義といふ様なことを云つて支那を持上て居る。彼の其の心根は日本を排斥

して支那で甘いことをしようといふのである。そこで日本は海軍を括られ、陸軍を大正十一年に減じ大正十四年に減じて経済はボイコットをやられて不景氣になつてしまつた貧乏國と認められてしまつた。斯くの如くなつた時支那人は、アメリカ、フランス、イギリスが日本には相手にならないと云ふ様に考へて日本を相手にしても駄目である、英米佛に乘替て排日をやつたが徳だと考へたから蒋介石が排日をやりに出したのである。又支那には共産黨が跋扈して居る、共産黨に對しては抗共である、日本を排斥し共産黨をやつゝけるといふ政策を十年も續けて居つたのである。日本を排斥しロシアの共産黨をやつゝけ様として居つた南京の西南方に共産黨の毛澤唐が根據を置いて南京政府を覆してやらう、共産黨の支那にしてやらうとして居つたが、討伐されて毛澤唐はとうとう西安の奥まで追詰られてしまつた。張學良と蒋介石が共産黨の討伐をやつて居つたが、共産黨の討伐をやつて居る間にミイラ取がミイラになつてしまつた。張學良の軍隊が共産黨になつてしまつて蒋介石が

飛んで行つて何をするかと云つた。それが一昨年十二月であつた。所が張學良が何を馬鹿なことを云ふかと云つて蒋介石に喰つてかゝつて遂に大口論となつて蒋介石は張學良の兵隊に襲撃され裸足で逃出したが遂に捕つて銃剣を突つけられた。そこで蒋介石は俺を殺せと云つたが殺しはしない、此の政策が悪い排日抗共政策をやめて『容共抗日』の政策を取れ、ロシアと手を握つて日本をやつゝける政策を取れと云はれた。其の時蒋介石は黙つて答へなかつたと云はれて居るが、之が一昨年の安西問題である。そこで張學良の所に宋美齡と宋子文が飛んで行つて二千萬元といふ龐大な身代金を出して蒋介石を救出した。其の時蒋介石が張學良にロシアと手を握つて日本をやつゝけるといふ内諾を與へた。そこで昨年三月になつて支那を握つて居る國民黨大會に諮つた。其の總會の席上に於て、ロシアと手を握り日本をやつゝけるといふ政策はいけないと云つた忠實な者もあつたがコミンテルンの手が動き遂に容共抗日といふことが決定されたのである。支那國民黨代表の決議の結果、舉國

一致ソビエツト側と手を握り日本をやつゝけるといふことに決定したのは一昨年三月のことである。此の時の蒋介石の決心は日本に取つては實に重大問題であつたけれども日本人は排日も毎日も抗日同様に考へて居つたのであります當時私は餘り日本人が殺されるので支那に行つて見ました。排日と抗日とは非常に違つて居る。抗日は日本人を殺すと云つて切りかゝつて居るのであつて排日とは其の内容に非常な相違があつた。併しそれが日本人には當時強く響かなかつた。抗日に決まつてからは彼は日本恐れるに足らずやつゝけるといふので日本人をだん／＼殺す様になつて來た。昨年七夕の晩蘆溝橋で事件が起つて其の談判をして居る間にあつち、こつちで事件が続いて起る。そこで現地司令官が、もうじつと堪へて居られないと云つて劍を握つて立ち上つたのが北支事變となつて現はれた。すると通州でも虐殺が行れた。それでも日本は現地解決不擴大の方針のもとに事を丸めようと誠意を披瀝したのである。併し彼等のやり方は日に増し無茶苦茶をやり出した。國際條規

も人道も何もない。どうしてさうなつたのかといふと、ソビエツトが今だやれ／＼と油を注ぐために益々亂暴なことをする様になつた。それでもまだ丸く納めようと考へて居つた。それはどうしてかといふと日本は十億の豫算を國民から貰つて軍備をやつて居るが日本の敵は支那ではなくロシアの共産黨、ロシアの壓迫である。之に對し對抗して居るのである。支那と戦をするのではない。ソビエツトであると考へて居つた。堪へられないのをじつと堪へて居つた彼は無茶苦茶に引掛つて來る。北支事變が片着かないうちに八月九日上海で大山大尉が殺されてしまつた。これは怪しからぬと談判して居るうちに之を機として五萬餘の大軍を以て押しかけて來て特別陸戰隊の近所に敵兵が一萬餘も來て居るといふことが判つた。斯うなつて來ると現地で丸く納めようとしても納まらない。敵が迫撃砲を撃ち、飛行機で爆弾を落し、とてもじつとして居られない様になつて上海はとても丸く納まらない。遂に火がついてしまつた。之が八月十三日であります。そこで日本の政府では十四日

に五省會議を開いて、斯うなつては仕方がないと云ふので天皇さまに事の次第を言上した。そこで天皇さまは膺懲の御戦を起され北支事變、上海事變は遂に支那事變となつて支那との戦が起つたのであります。此の戦は上海では御承知の通り非常な大激戦であつた。敵は實に五十萬六十萬の大軍を以て對抗した。上海の戦では大体日本が勝つてゐるか負けて居るのか外國人には判らなかつた時である。蔣介石が勝つて居ると外國人が考へた時もある。日本が勝つてあらうといふことが判つたのは十月になつてからである。上海の戦で日本が勝ちと判つた時ドイツの大使がやつて来て日本と支那と喧嘩をすることはやめてはどうかと云つて仲裁の橋かけをやつた。此の時日本は支那が自分が悪かつたと言ふならば許してやつてもよいと思つて居た様である。即ち東洋のブロック有無相通じて共存共榮の實を擧げるといふことを支那が理解して自分が悪かつたどうか堪へて下さいと謝つたら堪へてやつてもよいといふ氣持を持つて居た様であるが、蔣介石の方はなか／＼鼻息が荒い、

俺が勝つて居る、日本が兵隊を元の様に納めて話をすれば承つてもよろしいといふ様な挨拶振であつたと承つて居るそこでそんなことは外交でやることである、軍は軍でやつて行くといふ氣込みで十一月五日に〇〇將軍の統帥する大軍が續々と杭州灣に上陸し上海を守つて居つた張發桂の軍隊の後を突いた彼は浮足立つてイギリス、フランスの援助に頼つて居られず逃出した。日本軍は斯ういふ状態で快速部隊は逃る敵兵を追越して日本軍の後を支那兵が鐵砲をかついで歩いて居るといふ状態であつた。そこで蔣介石は之ではいけないと考へて都を移し武漢三鎮に大軍を移し一部を重慶、長沙に移し自分は南昌に飛行機で逃げた。蔣介石は南昌に逃たが、日本は向ふが悪かつたから堪へて下さいと云へば堪へてやつてもよいといふ氣持で支那事變といふ氣持を現はして居つたのである。南京が陥落したので此の際悪かつた、堪へて下さいと云つたがよいと云つた忠義者も居つたがロシヤ、イギリスがそんな事を云ふ必要はない、日本が長期戦をやつて居る間に堪へられぬ様になつて

お前が最後には勝と云ふので蔣介石が判断を誤つて遂に漢口に立籠つて日本に長期抗戦を續けるといふ決心をしてどうしても悪かつたと云はない。そこで一月十六日日本政府は遂に聲明書を中外に出した。それは蔣介石の政權を認めない。悪かつたと蔣介石が云つても、もう堪へないと云つた。北京に出來た臨時政府を相手にして日本をよく理解した政府と一緒に東洋を平和にする、蔣介石が悪かつたと云つても、もう斷じて堪へないといふ決心をした。これから支那事變の趣旨が變つて來て愈々長期戦といふ問題になつて來たのであります。向ふもどこまでもやると云ふし、日本も承知しないといふことになつて今日まで續いて居るのであります。もう一度簡單に申上ると日本が好きであつたのを嫌にさせたのはイギリスで、日本を殺せと切りかゝつたのは共産黨である。それが支那事變となつて現はれ長期戦となつて今日の戦となつて居るのであります。

どうなるか、日本は彼等が戦ふ間はやつゝける。蔣介石が四川、廣西、貴州、雲南の四省に立籠つて、ビルマ佛領から援助を受けて日本と戦ふといふことになるかと相當に長びくものと考へねばならない。支那の近き將來は日本、ロシヤ、イギリス、フランスの勢力範圍に分割されて行くのであるまいか。此のケリが着くのはなか／＼一朝一夕ではないと思ふ。蔣介石が雲南が盡きれば安南に逃げて行くといふ風に次々に逃げて行けば之を追詰めてしもうのはなかなか容易ではない。而も雲南は非常に恐ろしく高地である。そんな所に日本の軍隊が行けぬといふことはないが行くにはなか／＼短時日では行けない。そこ迄日本軍が行つたら彼等は何處に逃げるかといふとイギリスのロンドンに逃げて行くだらう。さうするとロンドン迄も追かけて行かねばならぬといふ事になるので一朝一夕には片着かない。又共産黨はウラルを越して行かねば彼等の止めを刺すことは出來ない。蔣介石が死んだとか逃亡したとか天祐のことが起つて支那との交戦目標が無くなることがあると假定しても現

在の状態が相當長く続く。それはどうしてかといふと支那との戦は丸で水の中に棒を突通して居る様な戦をして居るのである。占領地域には敵の遊撃隊、やくざな軍隊が澤山居る。泥棒が澤山居る。之等のものを肅清して良民を神の救の手にすがらせるには一年二年では出来ない。滿洲國でさへも五年かゝつて居るのであるから此の廣い所をやるには相當長期に亘ると覺悟しなければならぬ。之をやつて居る間に非常に大問題があるといふのは長鼓峰問題が起つた所から外蒙を通つて此の附近には赤色のロシア軍隊で塗り潰されて居る、今日でも赤軍が四十五萬から居る。これが一年十萬づゝやつて來ても五年すれば五十萬の赤軍となる。其の大軍と日本の十數萬の軍隊が頭を突合せて居るのである。それが一千二百里に亘る長い間であるから之が危い。之が五年もして居る間には何時かパチノと何處でやり出すか判らない。誰人がロシアと日本の間に問題が起らないと斷言出來ませうか、如何なる人でも之は斷言は出來ませまい。私は日本とロシアの間に必ず戦ひが起るとは申しま

せんが、起りそうにあると云ふのであります。ロシアと日本との間に問題が起つたら、それが本當の非常時である。日本とロシアの間に戦争が起つたらロシアの兵隊は支那兵よりも強い。それは日露戦争の状況から考へても、死傷者其の他の關係から見てもロシアの兵隊が支那兵よりも強いと思ふ。さうしてロシアは二百萬といふ機械化部隊を持つて居る。ロシアは今全國力を擧げて戦争の爲に重工業を起して居る。であるからロシアとの戦は支那をやつ、ける様に簡單には行かない。それと、もう一つの問題はドイツがロシアと日本とが戦争をするのを待つて居ると思ふ。ドイツはどうしても元のドイツになりたい。フランス、イギリスに取られた國土を返せと云つてもなか／＼返さないからドイツとしてはどうしても力で取返さねばならない。それと、どうしてもドイツが取らねばならぬものがある、それは何かといふとロシアのウクライナといふ所で、これは所謂ヨーロッパの米倉である。支那で云ふと中支に相當する所である。之をどうしてもドイツは取らなければな

らぬと考へて居る。そこでイタリーと手を握つて俺が東に行くのを邪魔しない様にせよと云つてドイツは種々畫策して居る。チエツコスロバキヤ、ズデーテン問題を起して居る。ドイツはオーストリア位を合併しても元通にはならぬ。他にドイツの實力を増す事の出來る處を求めねばならぬ。寝ても起てもドイツは人には云はぬが〇〇〇〇がほしいなとよだれを流して居る。日本とロシアが戦争を初めるとドイツが之に向つて飛つて行く。さうすると之は大變だと考へるのがイギリスとフランスである。ドイツをやるまいとする。そこで歐洲は亂れて來る。アメリカは嚴正中立と云つて高見の見物をするでせうが白人種が多いからフランスに好意を持つと見なければならぬ。斯うなつた時が本當の非常時である。日本はグルリが相手となつて日本に出來た品物を賣る所が無くなる。日本に入用な原料を買つて來る所が少なくなるといふことを考へねばならない。歐洲戦争でドイツは物が足りなくなつた。鍋や小刀の古物を利用して彈丸を造つたが、それでも彈丸が欠乏し紙の軍

服を着ても着る物が無くなり食ふ物が無くなつた。之ではたまらぬと思つて居るところに魂を毀すところの馬鹿な戦争をやめてはどうか、戦争をやむれば品物も手に入り幸福になるのだといふ宣傳に乗せられて遂にドイツ魂がぐらつき出してドイツが負けたのと同様である。日本はどういふ立場にあるかといふと足りない品が澤山ある。鐵、羊毛、綿、ガツリン等が足りない。其の足りない物が他國から入つて來ない。日本に出來た品物は買つてくれないといふことになる。と經濟的に負る。さうなつた時に馬鹿な戦争はやめてはどうか、戦争をやむれば品物も十分手に入る、幸福になるのだと云はれると、さうか知らんと思ふ、さうなる時になつて來るのである。さういふ時代が來ないとは誰も斷言出來ないと私は思ふ。さういふ時代が一步々近寄つて來つゝある様な感じがあるのであります。

今、世の中を遠觀すると日本とドイツとイタリーを結びつけた線と、イギリス、フランス、アメリカを結びつけた

線とがぶつゝかつて居る。此の線のぶつゝかりが危いのであります。自動車は眞直に行く時は間違はないが、汽車道を横切ると危い。日本とロシア、イタリーの線がぶつゝかつて居り此のぶつゝかつた線が漸次妙に動いて居る。日本が狙はれる。ドイツ、アメリカ、イギリスも日本をいじめようとする様な状態に動きつゝあるのであります。彼は嫌な奴だと思つて居ると何時何處でそれが勃發するか判らない危険が多い。斯う云ふことを考へた時に日本に取つて本當の非常時が刻々と近き將來に迫りつゝあるといふ感じがするのであります。此のことを考へた時、之に對處することを考へねばならない。之を怠ると歐洲大戦中のドイツの様になる。ドイツの様にならぬ爲には、どうしても國民全体が目醒めて最後の勝利を得る用意を完備しなければならぬのであります。其の用意とは一体どんなことであるかといふと銃後の護り、國の總力を増して國の防りを完備しなければならぬと思ふのであります。

勅語の中に『國の總力を擧げて此の世局に對處し速に初

るのは宣傳の力がなければならぬのであります。日本人は正直で支那人の様には宣傳が甘くないが我々は支那を取りに行つて居るのではない。侵略國と云ふのは間違つて居るといふことを國民が確り認識し彼等にも外國人にも知らしめるといふ道を取り蒋介石は一地方政權に轉落してしまつて力が無いものになつてしまつて居る。之を援助するのは間違つて居るといふことを知らしむるのが宣傳戦であります。此の宣傳戦を日本は十分にやらねばならぬが之は外交家の責任である。歐洲大戦ではドイツが外交戦がまづかつたから引括られたのでありまして外交は非常に大切なものがあります。日本國民は戦ひでは勝つ、パチ／＼云ふとやれ／＼と云つて力では勝つが外交になるとどうも力が足りない。もう此の時の時局の状態は大きい戦はない。小さな戦が方々である。何十萬といふ大軍を相手にしてやる戦はもう少ないだろう、然し掃蕩戦は是れからである。多きは萬少きも何百と云ふ奴をそこ、此處でやつゝけるるであつて之から盛になるのは外交戦であるから、甘く宣傳をし

期の目的を達せよ』と仰せられてあります。それはどういふことかと云ふと武物心の動員完備といふことである。此の戦は武力戦の外に謀略戦、宣傳戦をも考へねばならぬ、謀略戦とは敵に不利になる様に敵の背後を破壊するのである。飛行機で遠く敵の背後を爆するのは其の一つである。

日本は侵略國である、國際聯盟で十六條を發動して制裁を加へようといふ決議をした。それが宣傳戦である。日本は聖戦を行つて居るといふことを外國人にどうしても知らせねばならない。蒋介石は今や地方の一政權に轉落したと總理大臣は云はれて居る。然しイギリスの力が絶へず蒋介石を訪問し某々使節が彼等に協力して居る。外國は蒋介石を地方の一政權とは見て居ない。外國は依然として蒋介石を支那の主權者と見て居るのであります。イギリス、アメリカ、フランスは蒋介石を支那の主權者と見て居る。日本では支那の土地の大部分を占領して蒋介石は四川、雲南に逃げた、彼は地方の一政權であると日本では云つて居るけれども外國は之を認めて居らない。之を外國人に認識せしむ

なければならぬ。今や外交戦の端緒が現はれて來て居る。アメリカが占領した揚子江の中に入つて來ようとして居る、イギリス、フランスもそれをやらうとして居る。ソビエツトは漁業問題で頑張つて居る。こんな問題が種々起つて來て日本の力を沮害しようとして居る。之に對するの外交戦である。國民は此の外交戦に協力しなければならぬ。聖戦の目的を達成した陸海軍が其の聲價を納めるのは外交戦である、國民は宜しく外交戦に協力し我が事の如く思つてやつてやらねば外交が甘く行かないのであります。其の外交戦、謀略戦といふのは専門家が居つてやつてくれるので國民は之に理解を持ち十分の共鳴の意味を捧ぐれば大休よろしいと思ふのであります。國民各自の問題ではない、理解を持ち共鳴を持ち力強く聲援する。斯ういふことでよいと思ふのであります。最後に私が特に皆さんに申上げたいのは武、物、心、の完備は國民の國家を救ふところの道である、最後の勝利は武物心の完備であると認識を持つて國民が一体とならねばならぬと存するのであります。

す。之を細かく話をするので之だけでも相當の時間を要するので簡単に骨子だけを申上げて見たいと思ひます。武といふことは武力戦に勝たねばならない。物は經濟戦に勝たねばならない。心といふのは日本精神を磨き出して如何な思想にも毀されない様にして行く心の戦、精神力の戦に勝たねばならぬといふことであります。武力戦に勝つても物が足りないといふことがある。物資があつても心の戦ひが敗れると駄目である。心の戦は大切である。心が絶対に毀れてはいけない。之を要するに武、物、心の戦ひは其の内のどれでもが毀れてもいけないのであると、此のどれが一つかけても戦に負ける。總てに勝たなければならぬといふ認識を國民に持つてもらはねばならない。戦に勝つ爲には八十億といふ豫算を使つてやつて居るが來年度から之に正敵した位の經費を國民が出さねば戦に勝てないのであります。國民は武物心の完備に全力を捧げ而して出征の兵士に對し心からなる感謝と慰問とをなし、又留守宅に同情し遺族に誠意を持たねばならぬと思ふのであります。戦場に行つて

居る人はさういふ感じを持つのである。〇〇部隊の動員の時、私の家に十人の兵隊さんを二十一日間御宿を致しましたので私共は恩返しに出来るだけの御世話を行いました。私が私のところに毎月手紙を下さる。或る時子供に來た手紙に斯ふ云ふことが書いてあつた。「今頃は日本では櫻が咲いて居るでせう、然し内地の人達は我々の苦心して居るところを思つてくれて花を見に行く人がなくさびしかつて居るでせう」といふことが書いてあつた。さういふことを戦場に行つて居る人は考へて居る。五日五晩も泥水を呑み生米を食い木の實を食つて戦を續けて居るのに内地の人々は何を食して居るか、どうしてくれて居るか考へて居る。そこで内地の人は戦場にある人々の想ひやりをして事を行はなければならぬ。戦場に行つて居る人々のお蔭で平和の生活が出来ると感謝の生活をしなければならぬ、あなた方が活動、芝居見物に行つて居る状態が戦場の人々に何かの機會で知らされると戦場に在る人々は馬鹿らしいと思ふ。さうすると大變である。もう戦には負けである。或る

將軍の話によると先に行つて居る人達の後から補充兵が來て留守宅は斯ういふ風に慰問され斯の如くされて居る。銃後の守りは十分されて居るといふ話を聞かされるとさうかさういふことなら我々は尙一層働かねばならぬと云つて一生懸命やるといふことであつた。又戦場で間違を起すと、お前が重ねてさういふことをすればお前の親兄弟、村長に知らせてやるといふと非常に利く、それだけは堪へてくれもうこんなことはしないと云ふ。さういふことであるから銃後の人々が結束して、あなた方に勝つてもらはねばならぬといふ誠意が戦場に在る出征兵士に對する感謝の念と留守宅を守り遺族に對する感謝の眞心が現はされねばならぬと痛切に私は感じて居るものであります。そこで留守宅に於て取返しつかないことが出来ない様に全力を擧げて防衛しなければならぬといふことを私は常に叫んで居るのであります。其の取返しつかないこと、いふのは、どんなことであるかといふと残した子供が不具になつたとか、學校成績が悪くなつたとか、或は若い妻が白粉をつけ出し

たとか家が焼けたとか、折角凱旋したのに彼の世に行つて會へないとかいふ様なことは取返しつかないもの、一例であります。留守宅を守る人々は、さうした取返しつかない様なことをさせない様に全力を擧げて注意しなければならぬ。珍らしいものがあつたらそれを持つて行つてあげるといふ様な物質的のことも誠に必要で結構ではありますけれども、それよりも先づ氣をつけねばならぬことは留守宅を守るものに取返しつかないことを起させないといふことに氣をつけねばならぬと思ひます。それでは取返しつかないことが出来る場合にはどうするか、取返しつかないことが絶対に起らないとは云はれない。取返しつかないことが起ることがある。例へば炭坑などに働く人達は若い男女の間違が起ることがある。或は大怪我をしてそれが取返しつかないことになつたりすることもある。さういふことが起つた時どうすればよいか、さういふことが起つた時あわてふために戦場の人々に直接知らせることがはいけない。役場の兵事係とか其の他地方で有力な



人々に話をして善處する。さうしてよく相談をして所屬の隊長さんに云つてやるといふことにしなければならぬ。本人に直接に云つてやることは最もいけないことである。戦場に居る人々は内地に居る人々とは考へ方が違ふ。虫も殺さぬ様な神佛の様な心の持主が人殺をやつて居るのであるから心持が違つて居る。例へば息子が死んだとか女房が死んだとかいふことを知らせてやると間違を起すことがある。それで重大な問題は隊長さんに云つてやれば隊長さんが適當に扱つてくれる。戦場に在る人々には十分に働いてもらはねばならないから心配をかけない様にすることに氣をつけねばならない。取返しつかないことが出来ても確い腹を据て、どうしたらよいかといふことを先づ第一番に考へて決行することが大切であります。取返しのつかないことに更に上塗をせぬ様に注意をしなければならぬと思ふのであります。斯くすることによつて戦には勝つけれど物も足りない様になるとドイツの様になる。日本は幸にして食料は十分にある。着物も心配はいらないのであるが

只心配なのは戦場で是非使はねばならぬ品物をあんだ方が使つて居る。それが心配である。物を足りなくしてはならない。それで物の統制といふことが起つて来るのであります。八十億といふ大金を政府が使はねばならないが八十億といふ大金を政府が持つて居る筈はありません。八十億といふ金を積上ると富士山よりも高くなつて一番上の金は飛行機に乗つて取りに行かねば取れない。そんな澤山な金を政府は持つて居らない。それで皆さんが月々獻納するとか貯金をしなければならぬ。公債を買つてもらふ、皆さんが貸主で政府が借金する譯である。其の證據として證書を渡して政府が金を借りて使ふのである。さうしなければ日本は金が廻らない。品物を皆さんが無茶苦茶に使ふと物資が足りなくなつて外國から物を買ねばならない。外國から物を買ふと日本の金を澤山持つて行かれて日本の信用がだん／＼悪くなつて来る。さうすると爲替相場が狂つて来る。經濟に變動が来て生活が出来なくなるのであります。そこで政府は一シリング二ペンスを保つといふ根本方針を

立て、動搖を絶対にさせない様に努力して居るのであります。元來日本は物資が足りないから物の制限をしなければならぬ。さうしないと日本は動かぬから制限を加へるのである。これを物資の統制と云ふのである。統制經濟のことに付ては後から經濟學者が來て話を申上るから學問的のことは私は申上ませんが、兎に角物を尊ばねばならぬといふ關係から統制が行はれるのであります。そこで我々台所を掌るものは成るべく新しい物を使はない様に物を節約して行かなければならぬ。足りないものは代用品を使ふ。ガソリンは戦場では是非なければならぬ。ガソリンが無いと戦場で飛行機とか戦車が動かされぬ。それでガソリンの一滴は血の一滴であると考へて使はねばならぬ。どんな財産家でも勝手にガソリンは使はれません。どんな大きいバス會社であつても勝手にガソリンを使ふことは出来ない。そこで木炭を使ひ或は石炭を液化したものを使ふといふことになつて來て居るのであります。或は學校の生徒が靴を履いて居る皮が澤山戦場で入るので天氣の好い日に

は下駄を履かせ、草履を履く様にさせて居る。草履を造ることを學校で教へて居る所もあります。さういふ風にも廢品の利用と代用品を使ふ、さうして生活をして行く、これを戦時生活といふのであります。此の戦時生活をして行くといふことに皆さんが目醒めねばならぬのであります。物を節約して命を作る。着物でいふと今まで有る物を着て破れたら似た布でつぎを當て、使ふ。已むを得ない時になつて買ふといふことにして物資を出来るだけ節約して生活する。この戦時生活の半面に於て働き出すといふことが必要である。働き出して貯金をする。戦時生活をするといふことに依つて金が餘る。其の如く金で國債を買ふ、それが八十億といふ金になる。斯くの如くすることに依つて日本の經濟は外國から物を買つて來ななくてもよいことになる。さうなると金が廻るし國民は不自由ながら生活して行くことが出来るのであります。五年十年戦争が続いても大した影響はないといふことになる。或る一部の犠牲者が出来ても全般の國民は生活が出来ぬ。さ

うして戦が續けられドイツの様にならなくても済む。生活に困難を生ずると國民の心が毀れて来る。それではいけない。そこで國民精神總動員といふものが叫ばれて國民精神の緊張を叫ばれて居るのであります。此の國民精神總動員といふのは町内の常會といふ様なものを以つて日本精神を磨き出して行くといふ運動であつて、日本は外國の様に魂を注射しなくてもよい。日本は神様から魂を授かつて居るその精神を磨きあげればよいのである。日本精神とは神に通ずる真心である。然らば神に通ずる真心とはどんなものであるか、それは楠公さんがどういふ人、乃木さんがどういふ人、天神さんがどういふ人であつたかといふことを靜かに考へれば自から判ると思ふのであります。日本精神は神さまから授つて居るのであります。日本精神とは斯ういふものだといふ具体的には居りませんが軍人で云ふならば忠義、正義、質素といふものである。其の精神の源は真心である。此の真心がなかつたならば何にもならない。真心が軍人精神の種である。神さまの心とはどういふもの

であるとは示されて居らない。併し此の日本の國体を明かにされました天照大神が天孫降臨の時鏡を渡されて此の鏡を見ることは自分を見るのと同じである。此の鏡は自分の魂であると仰せられたのであります。であるから私は日本精神は鏡の如きものであると申上げてよろしかろうと思ふのであります。鏡、玉、劍とが相和して居る姿、鏡はどこでも神様の真正面に置いてある。今日宮中に鏡を置いてあるのはそれと同じ精神であらうと拜察申上げます。私の若い時代には婦人の使ふ鏡でも神様の前にある鏡と同じ様な鏡の鏡でありましたが鏡といふものは姿を寫す前に自分の真心を寫すものである。真心といふのは鏡の様なものである。鏡は正邪曲直が正しく寫るものである。それが日本精神の種であると思ふのであります。それを皆さんが持つて居る。戦場に行つて居る人は常に正しい心が出て居るが内地に居る人は動もすると曇がかかる。其の曇といふのは長年の間に外來思想、支那人根性が入つて來て居るからである。各種の過激な思想が入つて來て日本の正しいものに曇

がかゝつて居る。そこで常會を開いて互に寄つて正しい神を拜む時に「みそぎ」をする。さうしてすがすがしい心持で神を拜み勅語を奉讀し或は國歌を奉唱し或は出征軍人の武運長久を念じ戦死者に感謝する。正しい氣分となり心を正しいものにして家庭でどうする、町内でどうする、國の爲にどうするといふ様なことを決める。さうすると俺が云つたことを採用しなかつたら俺はやらないといふ様な外國思想は無くなる。さうして満場一致で事が決まる。反對があればやらないといふ様にして正しい心を磨き出して之を基礎として武物心の動員を完備する様に申合せ實行するのが今日の常會の性質であるが今日では日本の津々浦々に至るまで之が勃興しようとして居る。先般播州で高橋といふ人の指導せる常會を見せられました但其の村では大正七年からやつて居る。今日云ふ所のものを實際に指導して居り貯金もして台所の改善もやつて居る。精神修養をやつて勅諭を奉讀して日本精神を磨き出して相和して居る。相和するといふことが非常に大事なことである。家の中で

は夫婦が土台になつて相和して行かねばならぬといふので其の村では十年前から喧嘩をしないといふ申合せをし今日では四十三戸の部落民が一家の如くなつて相和して居る。一家一村さういふ風に日本精神を磨き一家一村、伸びて一國に及ぼす様にするといふことが今日の常會の趣旨であります。之が將來どうなるか知らないが其の精神に於ては變りはないと思ふ、何としても日本精神を磨き正しい鏡の様な精神に仕上げて行く、それに依つて戦に勝たねばならない斯ういふことにして下されば戦に勝つことが出来る。今日本は稻の中の稗を抜いて居るといふ信念を持つてもらはねばならぬのであります。斯くなつた時日本は大磐石となつたのであつて國家の總力を擧げて戦に最後の勝利を占る事が出来るのである。斯うなるとロシヤも手を出しきらないし、イギリスは日本の強い意思と經濟力の強いことを看破し支那が先に倒れると感じた時には乗替る。今でもイギリスはどうしようかと思つてぐらゝして居るのである。さうなると蔭介石は自ら倒れて行く。斯くなつた時神武天皇

さまの八紘爲宇の大精神が實現されるのである。神武天皇さまの八紘爲宇の大精神の實現は實に皆さんの力が實行出來東洋の平和といふ大眼目が達せられるのであります。斯の如く考へますれば結局我々は日本精神といふものを鏡の如き神の砥石にかけて磨き出すといふ事が最も大切なことであるといふことを私は深く痛切に感ずるのであります。どうか皆さんは此の點に御共鳴下さつて指導して下さい

それが土台となつて總ての人達が之を理解し總ての問題が解決して行くことになれば戦の最後の勝利を得るに至ると固く信じて疑はないものであります。賢明なる皆さんにつまりまらなことを申上りましたが御共鳴下さつて御實行下さることを御願ひ申上りました私の講演を終ります。(拍手)正午十二時三十分。



## 輝く軍艦旗の下に活躍する海軍の現状

名取艦長海軍大佐 中 尾 八 郎

### 仰ぎ見る軍艦旗の尊嚴

只今御紹介に預かりました軍艦名取艦長中尾でございます。各地方から御集まりになりました、さうして國民思想善導の重い使命を有つて居らるゝ皆様方の前に於きまして此の事變下に於ける帝國海軍の活躍状況を御話し申上げることには私の光榮と感じて、實は昨夜半に汽車で佐世保を出發當地へ参つた次第でございます。現代の戦争は既に御承知の通り武力だけの戦争ではなく、經濟戰、思想戰が伴ふて居るのであります。吾々軍人が家を離れ國を離れて第一線に立つて働かねばならぬ時、若し銃後の國民の思想が動搖して吾々軍人に對する強力なる銃後の後援がなかつたと致しましたならば、第一線の將兵は決して安心して一身を

國家に捧げることは出来んだらうと私は感ずるのであります。武力戰、經濟戰も勿論大事であります、最も大事なのは此の國民思想の健全と云ふことが一番大事である。殊に今後事變の解決が長くなればなる程思想戰が重要となり國民思想の健全さが長く續くかどうか如何に依つて最後の勝利も決するのだと考へるのでございます。御承知の通り今年には帝國海軍の軍艦旗が制定せられまして當に五十年の歴史を経たのでございます。今こそ日本の軍艦はあの輝く軍艦旗を掲げて居りますが、今から五十年前の明治二十二年頃までは軍艦も日の丸の國旗を掲げて居つたのであります。明治十五年に陸海軍人に御勅諭を賜はり次で明治二十二年に只今の軍艦旗が制定せられたのであります。日の丸だけ

では何だか物足らんから別に軍艦旗を作らうぢやないかと云ふやうな議が起つて、それぢやあの日の丸に何とかしやうと色々考へて、日の丸に光を放つやうにと云ふ話が出てそれぢや幾本赤い御光を附けたら好いか、斯う云ふ話もあつたんださうであります。丁度皇室の御紋章である菊花の花弁が十六であるから軍艦旗も日の丸に十六の御光を附けやうと云ふことに遂に纏つて、現在の如き十六の光が出て居る軍艦旗が明治二十二年十月七日に制定せられました、當時の天長節十一月三日に初めて帝國の軍艦總てに之を翻すことになつたのでございます。私共は若い時から海軍に入りつて宗教的の考へなど、甚だ幼稚でお恥かしい次第でございますが、私共軍人は只明治十五年に下し賜はつた勅諭を奉戴して軍艦旗の下に死ぬ、之が海軍に入りました時から教へ込まれた唯一の信念で、言はゞ私共の一つの宗教的思想となつて居ると考へるのでございます。今次事變に於きましても、我が海軍の軍人が身命を賭して軍艦旗を護つた事例は澤山あるのでございます。その一つの例と

致しまして福岡縣出身の海軍水兵で、本當に死を以て軍艦旗を護つた勇士を御紹介申上げませう。

福岡市出身の山下一等水兵は今尙佐世保海軍病院に於て療養中ではありますが、彼は肩を始め腕、腹部等に實に六箇の敵弾を受けて居るのであります。而も其の六箇の弾丸が今尙身体の内に残つて居るのであります。私は一週間ばかり前に病院で彼に會ひましたが、右手は繃帯を巻いて居て指先が不自由ださうであります。他の部分は何ともないさうであります。肩に入いつとる三箇の弾丸の爲指先が不自由になつたのださうであります。彼が敵弾を受けた時の狀況を申上げて如何に山下一等水兵が我が海軍の精神である所の軍艦旗を死守したかに付いてお話し申上げて見ませう。昨年十二月四日でございます。上海附近は矢張り十二月頃になりますと大變寒いのであります。其の寒い十二月四日の日に彼山下一等水兵の乗つて居りました小さい砲艦（六十人位の乗組員の有る）であります。軍艦旗を翻へして上海から南京の方へ遡航して行きますと、河岸にの

し上つてグンと傾いて居る一隻の支那の軍艦を發見したのであります。其處で艦長は其の軍艦を分捕つてやらうと思ひまして段々と近付いて行つたのであります。そうして誰かあの軍艦を分捕りに行く者は無いかと申しました所が、言下に山下一等水兵が飛出して來まして、私が行きますと申して彼は軍艦旗を腹部にくる／＼と巻きつけ拳銃を片手にボートに乗り移りました。そして件の軍艦に向つて近付いて行つたのであります。行つて見ますと軍艦の中には誰も居ないと見へて弾丸一つ撃つ者もありませんので、其處で彼は安心して敵の軍艦に移つて橋頭高く軍艦旗を翻がへそうとマストに攀登りますと、今まで靜であつた河岸の陸上からパチパチと俄に銃聲が起つて來ました、其處で我がボートからそれに向つて應戦致しました。其の時ボートに居つた一人の水兵は遂に戦死したのであります。其の裡に山下一等水兵はマストの上に登つてしまひました。支那の砲台からはどん／＼弾丸が飛んで來るのでボートは一人の戦死者を出して砲艦の方に歸つてしまふし、暫くする

と支那の兵隊が今度はマストの下から上に登つて來やうとする、其處で彼は拳銃を出してそれを追ひ拂ふと云ふ仕末になりました。之を見た我が砲艦の艦長は之は大變だと云ふので直ぐ海軍飛行隊に無電を打ちまして山下水兵が危険だから飛行機を出して貰ひたいと應援を頼んだのであります。航空隊では直ぐに飛行機を出して爆弾を以て陸上の敵を鎮壓せしめたのであります。其の間三時間と云ふ時間があつて居ります。其の三時間の間彼山下一等水兵は寒い江風に吹き晒されながらマストの上で敵の小銃弾を受け鮮血に染つた帝國海軍の軍艦旗を守つて居つたのであります。それだからマストの幅だけの所が敵の弾丸が當らないでマストから外に出た所だけに敵弾が當つたのであります。一番大事な所に弾丸が當らなかつた爲幸にして六弾まで身に受けながら生命に別狀が無かつたのであります。此の弾丸さへ抜いて貰ひましたならば再び戦場に立ちたいと彼は誓つて居るのであります。併し肩に三箇の弾丸が入りこんで居り軍醫の話を開けば其の弾丸を抜き取るには一

晝夜半も手術を続けなければならんと云ふ事であります。普通の斯う云ふ手術は二三時間か長くて四五時間でありませんが、それが一晝夜半も連続手術しなければ抜けないと云ふのであります。それで昨年十二月以來今日まで殆ど一年近い間病院で未だ手術もせずに榮養の恢復を待つて居る次第であります。彼の郷里には一人の母親と妻と一人の子供が居ります。私は斯の如き勇士が此の福岡から出たと云ふ事を大變に嬉しく感じた次第であります。日清戦争に於ても日露戦争に於ても我が海軍の勇士が軍艦旗を死守した例は澤山有るのであります。最も近い例として此の山下水兵のお話を皆様に御紹介して置く次第でございます。

先程申しました通り私共が軍艦旗に對しては斯の如く軍艦旗の下に死ぬと云ふ覺悟で居るのであります。陸軍聯隊旗は陛下御自ら御親授になるのであります。我が軍艦旗は御親授になつたではありません。それで天氣の好い場合には大きな軍艦旗を翻へし、海が時化て來て雨風が強いと云ふやうな時には小さな軍艦旗を掲げる事になつて居り

變前に私共が揚子江筋に居りました時にフランスやイギリス邊りの軍艦の士官が日本の軍艦に上つて参ります。そうすると彼等は私共と挨拶をする前に先づ艦尾の軍艦旗に向つて嚴肅なる敬禮をして然る後始めて私共に色んな挨拶を述べるのであります。之はイギリスやフランスに於ては一つの慣例になつて居るのであります。大變好い習慣と私共考へて居りますが、此の事は日本海軍としては實施して居りませんが日本の軍艦から外國の軍艦に行つた場合は矢張先方の習慣に従ふてさう云ふ事をやつて居るのであります。併し外國の軍艦に於てはさう云ふ外見的な事は善く出來て居りますが、日本の様に君ヶ代のラツバの吹奏を以て軍艦旗を掲げると云ふ様な嚴肅な儀式は時々缺いで居る事も有るのであります。

軍艦旗は御存知の通り軍艦の一番後に掲げられました。午前八時に掲げ日没と同時に降す事になる。私共乗員は軍艦旗揚方、軍艦旗降方の時には何時も上甲板に出まして軍艦旗を拜しまして、本日只今御奉公を始めます、本日滞り無

まして、聯隊旗とは大分違ふんでありますが、私共若い時分に山上海軍大將から斯う云ふお話を聞いて居るのであります。今上陛下御即位間も無い昭和二年七月二十八日の暑い頃、陛下には軍艦山城に御乗艦遊ばされました。小笠原群島方面に御航海を遊ばされた事がございます。丁度七月二十八日の朝碇泊中でありましたので午前八時の軍艦旗を掲げる其の時に、長くも陛下には矢張上甲板に御出ましになつて君ヶ代のラツバの吹奏と共に掲げられる軍艦旗に面し給ひ御敬禮を遊ばされたと云ふ事があります。陸軍の聯隊旗は陛下に對して敬禮をする、其處でそれに對して陛下が御答禮を遊ばされるのであります。所が海軍の軍艦旗に對しては、陛下御自ら敬禮を遊ばされる、之に由つても如何に軍艦旗が尊嚴であるか帝國海軍軍人が軍艦旗を身命を賭して守る其の信念の湧出づるのが之に由つても良くお解りになる事と考へるのであります。軍艦旗を大事にするると云ふ精神は日本ばかりでは無くてイギリス、アメリカ、フランスと何處の國に於ても變りはないのであります。事

く御奉公を終りましたと云ふ朝の希望夕の感謝を心の中に念じて軍艦旗に對して居るのでございます。戦時中急弾丸を打出す時になりますと此の軍艦旗を後のマストに掲げます。さうして軍艦旗が忽にして戦闘旗となるのでございます。今までは極く平和な軍艦旗でありましたものが忽一變して戦闘旗となるのであります。私共乗員は之を仰ぎ見ると時、之からやるぞと斯う云ふ事になつて來るのでございます。日露戦争の際あの日本海の時東郷司令長官坐乗の旗艦三笠は、澤山の敵弾を受け遂に後のマストも敵弾の爲眞つ二つに折れ戦闘旗が甲板の上に落ちてしまつたのであります。之を見た所の信號兵は直ぐに其の折れたマストに登つて再び其の戦闘旗を掲げたのであります。斯の如く海軍の乗員は軍艦旗は一刻も無くてはならぬものであります。その本當に死を以て守つて居るのでございます。

軍艦旗を掲げた艦は外國に行きましても非常な特權を持つて居るのであります。軍艦旗のある所全く日本の領土が其處まで延長されたと同じ様な特權を持つて居るのであり

ます。之は軍艦であるから特権があるのではなくて軍艦旗を掲げて居るが故に特権を持つて居るのであります。それだからして軍艦に積んで居る小さなボート一つでも軍艦旗を掲げて居る以上外國の領土に於ても大きな特権を持つて居るのであります。以上色々述べました事に由つて軍艦旗が如何に尊嚴であるか亦帝國海軍の軍人が此の軍艦旗の下に身命を賭して之を守つて居る事が大体お解りになつた事と思ふのであります。

### 海洋を制する者は世界を制す

次に帝國海軍がどう云ふ様な意気込みどう云ふ様な精神でやつて居るかを少し申上げて見たいと思ひます。今年の四月九日天長節の日に海軍の飛行機約五十機が漢口を空襲しました。さうして群り来る所の敵機八十機と空中戦を交へ遂に敵機四十機を撃墜して居るのであります。大敵たりとも恐れず小敵たりとも侮らず、之は御勅諭にある御言葉であります。帝國海軍は常に此の御言葉を休し如何なる

敵が現れるとも恐れず侮らず而して戦へば必ず勝つの必戦必勝の信念を持つて居ります。其の例は日清戦争、日露戦争にも常に見る所でありまして彼の赤城の奮戦或は又少し溯れば万延元年威林丸と云ふ小さな船が勝海舟先生が艦長になつて太平洋を横断し北米サンフランシスコまで往復航海をした如き實に我が帝國海軍の傳統的精神となつて居ります。彼のイギリス軍艦が鹿兒島灣に入つて來た事があります。薩英戦争と呼んで居るんですが、其の當時東郷元帥は十八才か十七才と思つて居ります。さうして鹿兒島の陸上砲台を守つてイギリスの軍艦と交戦したのであります。此の戦争の結果は兎に角陸上砲台を以て完全にイギリス艦隊を退却させて居るのであります。東郷元帥はイギリスの艦隊が強いには違はなかつたけれども敵として現れた以上之を撃たねばならんと、此の精神で薩英戦争に従軍せられたと云ふ事を聞いて居るのであります。今次の日支事變は支那だけで終るか或はフランス、イギリス、ロシアアメリカ、斯う云ふ國々が立ち上つて來るか解りません。

併し私共は其の何ヶ國が聯合して日本に双向つて來やうとも敵として來る以上は之と戦ふ、さうして必ず勝つの意氣を有つて居るのであります。今次事變に於きましては帝國海軍の極く一小部分だけが戦争に従事して居りましたが我が海軍の虎の子とも云ふべき聯合艦隊は悠々と訓練をして居るのであります。何も支那を相手にして帝國海軍の全力が行つて居る譯ではありません。

次に海と云ふ事に付て少しお話を申上げたいと思ふのであります。大正四年頃に私共東京に行つた時に巢鴨の精神病院を見に行つた事がありました。其處に菅原將軍と云ふ患者が入つて居たんであります。さうして海軍の軍人が來たと云ふので菅原將軍大いに喜んで色々話を致しました。日本の海軍も此頃大いにやつと居るけれども未だ考へが小さい。毎年良くやつて居るあの觀艦式を何時も東京灣や大阪灣でやつとるがもつと南の方へ出て行つて觀艦式をやれと云ふのであります。南の方とはそれちや鹿兒島灣位かと訊くといやもつと南ぢや、それちや台灣かと云つた所が

そんな小さい考へを有つて居るからお前達は駄目ぢやと大に叱られてしまひました。印度洋の眞ん中で觀艦式をやれと菅原將軍が申したんであります。其の當時は矢張精神病患者だけ大きな事を云ふと思つて居つたんであります。大正四五年頃帝國海軍は實に世界の海洋を征服して居つたんであります。大西洋には我が軍艦は出て居りませんが、太平洋以外の海洋と云ふ海洋は我が海軍の活躍舞台となり、地中海には今支那に居ります出雲以下驅逐艦が十五六隻を始めとし、遙に南の方アフリカのケープタウンからメキシコ、南米チリに到る海と云ふ海に殆ど日本の軍艦旗が翻へつて居つたんであります。當時もうイギリスは段々陸軍の兵隊が足りないで濠洲から陸軍をフランスに送つて居つたんであります。其の濠洲の兵隊を地中海に輸送するのを護衛したのは我が日本海軍であります。それだから大正四五年頃の海上勢力を以てするならば本當に日本海軍は印度洋の眞ん中で觀艦式をやつても何も恥しい事はなかつたのであります。所が歐州戦争が濟んで此の方

國民精神が段々弛んで参りましてもう日本は歐洲戰爭に於て大勝利をしたんだから陸軍も少し減らして良い海軍も減らせと云ふ事になつて、遂に彼の青島を失ひ日本の海軍はイギリス、アメリカの六割で我慢をしろ、東京に最も近い小笠原群島でさへも何んにも防備の施設をするんぢやないと云ふ様な、獨立國として誠に恥しい制限を受けながら日本國民が之に甘んずると云ふ様な大正末期の事態を現して來たのであります。私共は其の時に本當に菅原將軍は偉い事を言つたものだと思つたのであります。日本が彼の時印度洋で觀艦式をやる位の意氣が有つたならば、よもやワシントン會議で六割を押しつけられ支那に於ける權益を失ふ様な事は無かつたであらうと考へるのであります。今次の事變は未だく、此の解決は餘程長くかゝる事と思ふのであります。之をしつかりとかたをつけて置かんと又彼の歐洲戰爭の後と同じ様に列國から極めて不利な條件を押し付けられて遂に之に甘んずると云ふ様な風になりはせんか、此の意味に於て將來國民思想の統一、國民精神の振

興が愈々必要になつて來るんだらうと考へるんであります。スペイン、ポルトガル、オランダと云ふ様な國々も會つたのは海軍が衰へ海洋を制する力が無くなつたからであります。之を思ふ時日本の將來は決して海を忘れてはならんと思ふんであります。日露戰爭後には私共彼の日本海は日本の湖水であると云ふ事を聞かされたのであります。其の後三十年経つた今日亦其の湖水である日本海にロシアの潜水艦が活躍し始めて居るんであります。今度の日支事變でも、支那に潜水艦がありませんから支那沿岸の封鎖が心配無くやつて居るんであります。若し支那に一隻でも潜水艦を持つて居つたならば私共の勤務にも相當不安な点があつたのであります。況やロシアが支那と本當に手を握つて浦鹽に居るロシアの潜水艦が日本の沿岸に出没したと致しましたならば由々しき大事と考へます。それこそ北九州の皆様方も或は日本海方面の方々も決して枕を高くし

て寝る事は出來ないのであります。今ロシアが支那と手を握るとは申しながら積極的に浦鹽の潜水艦を出す所まで手が出せないのは、日本の海軍が儼然として控へて居りまごくすれば反つて浦鹽をやられる懸念が有りますから手が出ないのであると考へます。私共は今日斯うやつて自分が成長して來た過去を考へて見まして、矢張日本の強いのは海軍の力であると云ふ事をつくつく考へさせられるのでございませう。

### 偉大なる婦人の力

揚子江方面に勤務をして居りますと毎年五月十四日にはフランスの軍艦が滿艦飾をやるのであります。それに倣つて日本の軍艦でも矢張滿艦飾をやりませう。日本の軍艦が滿艦飾をやるのは御存知の通り二月十一日の紀元節、四月二十九日の天長節、十一月三日の明治節の三回であります。五月十四日にフランス軍艦が滿艦飾をやる理由は何であるかと申しませうとそれはジャンダルク、デーと云ふ日に當

るんだそうであります。其處で西洋歴史を繙いて見ますと矢張ジャンダルクと云ふ名前が出て來る。之は十九才のフランスの娘であります。イギリスとフランスが百年もかゝつて戦つたと云ふ英佛百年戰爭に於て、フランス軍はイギリス軍に敗られて愈々フランスが危ない、何とかオルレアンスと云ふ城が陥るともうフランスは降伏せねばならんと云ふ時に、此のジャンダルクと云ふ十九才の娘が皇帝の前に出て行つて、なんと情ないフランスの軍隊であるか、私を司令長官にして下さいと申し出たのであります。其處でフランス皇帝は大に喜んで其の十九才のジャンダルクを司令長官に任命したのであります。其處でジャンダルクは馬に跨つて三軍を指揮し忽ちにしてイギリス軍を追拂つてしまつた。さうしてチャールス六世とか云ふ人が即位の式を擧げたと云ふ事があります。斯くして十九才の妙齡の婦人がフランスの危急存亡の危機を救つたと云ふので今日に到るまで此の五月十四日にはフランスの軍艦が滿艦飾をしてジャ

ンダルクの爲感謝をするのであります。無論日本とフランスは國体が違ひそんな婦人が飛出して來た所で司令長官になれる話ぢやないが、併し婦人の力が如何に大きいかと云ふ事は日本に於てもフランスに於ても變りはないと考へるのであります。又昔スバルタと云ふ國が榮へた當時スバルタのお母さんと云ふものが實に徹底したものであつたと云ふ事が歴史に載つて居るんであります。或時一人の子供が出征しやうと云ふ時其のお母さんは子供に一口の劍を與へた。其處で子供は大に喜んで毎日々々其の劍を振つて敵に切り込む稽古をしつた。愈々出征と云ふ日になつて其の子供がお母さんの所に行つてどうも少し劍が短いからも少し長い劍が貰いたいと云ふ事を申しました。すると其のスバルタのお母さんが子供に向つて云ふのに『お前若し劍が短いと思ふならば一步踏込んで然る後に切り込め』とお母さんが云ふたのであります。一步踏込んで切込む此の精神が實にスバルタ精神の基をなして居るんであります。斯の如き勇敢なる精神が纏てお母さんの力に依て子供に傳つ

て行くんであります。山口縣の萩に参りますると吉田松陰先生の遺跡とか歴史上の見る可きものが澤山有るんであります。山縣元帥も萩の方であります。元帥に關する特に見る可きものは有りませんが只斯う云ふ話が残つて居ります。山縣元帥は小さい時にお母さんを亡はれまして伯母さんの手で育つて來たのであります。伯母さんは大變嚴格な方で非常にやかましい躰をせられたさうで、元帥が段々成長せられて二十三才の頃官軍の一部隊長になられて下關に居られた。其の時に元帥が萩の伯母さんの事を思出されて何かお禮をしなくちやいかんと云ふので縮緬を一反買はれて伯母さんの所に送つて上げた。其の時元帥が思はれるのに之で伯母さんも喜んで下さるだらう、此の次伯母さんにお目に掛つたらお萩の御馳走位有るだらうと喜んで居られたが、さて愈々其の後萩に行つて見ると伯母さんは大變に怒り且悲しまれた。お前を私が躰をして來たのは只小さな一部隊長になつてそれで安心をして、縮緬を買つて私に送つて呉れると云ふ様なそんな事ではお前はとても偉くは

なれんと云つて嚴しく元帥を諭され元帥が贈つた縮緬を着物にもせず其の縮緬と共に身を川に投じて死んでしまつたと云ふ話が残つて居るんであります。矢張偉人の蔭には必ずさう云ふ偉いお母さん偉い伯母さんが有るんであります。又伊藤博文公も小さい時には大變な苦勞をされた方で九才の頃には特に丁稚奉公にまでやられたんであります。或寒い晩にお母さんの事を思ひ出して丁稚奉公をしてゐる家から自分の家へ歸つて來た。さうするとお父さんは喜んでまあ上に上れと云ふて玄關から上げやうとした。それを見たお母さんはお前は御主人のお許しを得て來たか、いえ主人に黙つて参りました。それぢや家に上げられないと云ふて其の場で主家に歸したさうであります。併しお母さんも矢張子供可愛さに公が去つた後格子戸を明けて去り行く公の姿を見たと云ふ其の格子戸が未だに残つて居るのであります。さう云ふ風に實に一人の人間を偉大ならしむる爲には其處に矢張婦人の力が有ると云ふ事を忘れない様にお願ひしたいと思ふんであります。

最後に教育と云ふ事でありますが、皆さん方も矢張教育と云ふ任務の幾分なりとも擔つて居らるゝ方と考へるのであります。又私も同じ様に四百五十人の乗組員を預つて

居る艦長でございます。教育と云ふ事に付きましたはなかなか難かしいものであり、現在の如き時局非常の際に於ても矢張正しくない事をするものが絶へない。監獄に行つた餘り異はない位監獄に行く者が居るんであります。それを見ましても教育と云ふものが如何に難かしく人を善導し感化する事が如何に難かしいかと云ふことを私共考へさせられるんであります。それで私は現在四百六十人近い乗員をお預りして居るんであります。赫々たる武勳を立てると云ふ様な事は第二として正しき道を踏外さない、之が現在に於ける我々の最も務むべき第一歩である。云ふ事を常日國民思想の善導に少しづゝなりとも關係せらるゝ方々でありますから、殊に教育と云ふものは氣長にしなければ効果を納める事は難かしい、一日教育したからもう明日は効果が現れると云ふ事には行かんでありますから、どうか一人でも半分でも好い方へと導く様に不斷の御指導をお願いして銃後に於ける國民精神の動きなき様又日本精神を發揚する様にお務め頂きたいと思ふんであります。此の点特に皆様方にお願を致しまして私の講演を終ります。(完)





## 時艱克服の原理

九州帝國大學教授

文學博士 鹿子木貞信

### 此の重大時局を認識せよ

本日の新嘗祭の佳日に、皆様と私共の當面して居ります國難の重大なるを心に銘し、如何にすれば此の時の艱なやみに打克つことが出来るかと云ふことを深く考へまする時を得ましたことを誠に有難きことに思ふのであります。既に皆様も御承知のことと思ひまするけれども、此の度の支那事變は名こそ單なる支那事變と呼んで居るのでありますが、實際に於きましては今まで參千年の我が國の歴史に於きまして、此の度の如き大規模の戦役に従事したことは曾てそ

の例がないのであります。私共の幼時若くは青年時代我が國は露西亞と戦つとる。如何にも日露戦役は此の度の事變が起りますまでは所謂曠古の大戦役であつたです。古今未曾有の大戦役でありましたけれども、昨年の七月七日此の方此の事變の段々發展致すに伴れまして、日露戦役の如きは之を今にして思ひますると、實に小さな戦であつたと申して宜しいのであります。當時費しました戦費に致しましても之は極めて小額で、今日既に私共は殆ど百億に餘る戦費を僅か一年内外にして費はうとしつゝあるのであります。又日露戦役當時滿洲の野に戦ひました我が皇軍の將兵の數

は、今日から申しますとその何分の一にしか及ばないのであります。今日は既に約貳百萬の大軍が彼の地に戦ひつゝある。而も日露戦役當時とは全然事變つて、日露戦役當時は先づ大体に於きましてロシア一國を相手に戦つて居つたんです。ロシアと戦ふと云ふことに懸命になればそれで済んだのです。所が今日ではさうではありません。今日私共が戦ひつゝあるのは實は支那ではなく、戦場は支那でありませんが當の相手はロシアである。イギリスであります。フランスです。アメリカなんです。そのため私共は常に武力を以ちまして何時日本に襲ひかゝつて来るかも知れない之等の國々が、武力を以て襲ひかゝることの出来ないやうに手當を加へて置かなければならない。只今申しました四ヶ國の中でいつ何時でも武力を以て日本に襲ひかゝることの出来ず國はロシアと海の方からは主としてイギリス就中アメリカであります。さう云ふ譯でロシアに對しましては數十萬の日本撰り抜の精兵を北滿の野邊に備へて置きまして、何時でも出て來い、出て來れば撃滅するんだと云ふ構

へをして居るんであります。それで此の夏朝鮮國境の張鼓峰と云ふ處にロシアの軍隊が侵入して參りました時も、極く僅かな兵ではありましたがけれどもその僅かな兵を以ちまして、約五倍ばかりのロシアの軍隊を物の美事に叩きつけたんであります。而も當時こつちは飛行機は一台も使つて居らない。先方は百數十台の飛行機を使つて居ります。又こちらは殆ど戦車と云ふものを使ふて居りません。先方は之亦何百と云ふ戦車を以て攻めて來て居るのであります。而もこつちは絶対にロシア領に進撃しては不可んと云ふやうな非常に窮屈な命令の下に戦つて居るんです。而も約五に對する一の力を以ちまして物の美事にロシアの進撃の氣勢を叩き崩したんであります。之に依りましても既に御解りと思ひますが、あの颯々たるロシアと滿洲及蒙古との國境數千キロメートルに亘つて日本の最精銳軍隊を配置してある。

又海の方では御承知の通りに、イギリスは今日に至りまするまで事毎に支那を援けまして日本の軍事行動の邪魔を

して来て居るのであります。イギリスばかりではありませ  
ん。フランスもイギリスの尻馬に乗つて盛んに日本の軍事  
行動の邪魔をし、又支那の軍事行動を援助して居るんで  
あります。アメリカはどうかと申しますと、アメリカは支  
那に於ける實際の權益と云ふものが極めて悪い關係から、  
武力を以て日本をどうの斯うのと云ふことには未だ至つて  
居らぬのでありますけれども、而もアメリカ國內に於ける  
日本に對する感情と云ふものは非常に悪いんであります。  
頭から日本を悪者扱ひにして居るんです。侵略國である、  
條約を無視蹂躪する亂暴な國であると云ふやうな考へ方が  
國內に充ち満ちて居るのであります。而も一般國內の輿論  
が只新聞紙上を賑はすのであるだけならばそれで好いんで  
あります。その國內感情が往々にして責任のある大統  
領若くは總理大臣のやうな人達の演説までに現はれて来る  
のであります。さうなりますと云ふといつ何時アメリカが  
あの世界第一を誇つて居ります大艦隊を以て海を渡つて來  
んとも限らん、そこで日本海軍の主力部隊と云ふものはい

つ何時でもお相手をするよと云ふ姿勢を取つて此の國を海の上  
に於て監視しつゝあるのであります。何れに致しまして  
も海軍も陸軍も共に支那以外のものの邪魔をするものを協  
力して防止し、それに對する十分の備へを立て乍ら支那事  
變と云ふものを戰ふて居る譯なんでありませぬ。即ち一方か  
ら申しますと今日日本の敵國は只一國でないんであります  
支那を通じてソビエツトロシア、イギリス、フランス、之  
等の國々と戰ひつゝある譯なんであります。之が日露戰役  
當時と今日と格段の違ひがある所であります。日本は殆ど  
一國で以て之等の世界に於ける最も強大なる國を向ふに廻  
はして戰ひつゝあります。又日本の占領地域と云ふ点から  
申しましても、日露戰役當時とは比較にもならない程宏大  
な地域を占領し又之を占領しつゝあります。私共の若い時  
に習ひました支那の歴史の十八史略と云ふやうなものに出  
て參ります支那の有名な土地と云ふ土地は殆ど今日既に  
日本軍の占領する所となつて居る譯である。又あの廣い支  
那に於きまして今日日本の爆彈の雨を被らなかつた所はな

いと言つても好いのであります。四川省の成都と申しま  
すればもう印度のヒマラヤの山境に近い處であります。此  
の支那の奥地も奥地最も奥地である成都すら先般我が海軍  
航空部隊の空襲を蒙つて居るのであります。又蘭州と申し  
ますれば之は直ぐ西伯利の方に連絡する地であり、又ロシ  
アと連なる所の甘肅省と申します支那西北の之も奥地も  
奥地非常な奥地であります。此の蘭州と云ふ處が數日前日  
本の陸軍航空部隊の空襲に遭ふて惨々の目に會つとる。斯  
う云ふやうに日本の航空機はその強い翼の下に殆どあの廣  
い全支を蔽ふて居るのであります。我が海軍の部隊は只今  
申しますやうに太平洋の波の中に第三國の海上より加勢す  
る襲撃に備へつゝ又その一部の艦隊は、勃海灣からして、  
朝鮮の海からして、否此の玄海灘からして殆ど一千キロに  
近い所の颯々長蛇の陣を張りまして支那大陸を封鎖して居  
ります。又その一部は遠く數千キロの道程を遠しとせずあ  
の揚子江を溯つて、世界に於て一番大きい廣くもあり長く  
もあるあの川を完全に日本の川にしてしまつて居るのであ

ります。  
是等の事を回顧致しまする時に如何に今度の事變と云ふ  
ものが、殆ど昨年七月七日までは如何なる日本人と雖も夢  
にも想はなかつた大規模の戰をやつゝあり、殊に既にそ  
の結果既に何萬と云ふ忠勇なる將兵はその鮮血を君國のた  
め注いで居られるのであります。又それに何倍する我が青  
年はあたらその身を不具にして君國のため傷いて居られる  
之では私共としてはどうしても今度の戰役と云ふものを徒  
らに空しく終らせる譯には參らないのであります。どうし  
ても此の戰役をして有終の美あらしめなければならん。然  
らばどうすることが此の戰役をして有終の美あらしむる所  
以であるか、何處まで行けば之で好いと云ふことが言へる  
であらうか、此の事を私共は明かにしなければならんで  
す。即ち日本國民と致しまして此の支那事變を徹底的にや  
りつけるに際しまして、何を目標として進んで行くか、之  
を明確に把握して置く必要があるんです。而もそのために  
抑々今度の事變と云ふものはどう云ふ原因で以て起つて來

たのであるか、どうして斯う云ふことになつたんであるか、どうして支那は飽までも頑強に所謂長期抗戦と申しまして、國を燒野ケ原にしても構はない、否事實あの廣い國を燒野ケ原にしながら戦ひつゝある。どうしてさう云ふことになつてゐるんだと云ふことを私共と致しましては明確に知つて居らなければならぬです。一言致しますと、駐支大使のカーと云ふ人が先般湖南省の或る處で蔣介石に會つて二時間餘り話した。さうして再び香港に歸つて來て言つてる言葉の中に、『支那民族と云ふものは實に偉い民族だ、之だけ惨い目に遭つて居り乍ら飽までも日本に向つて抵抗する精神を失つて居らん。殊にその青年に於て實に見上げたものだ。之こそ支那の寶だ』と云ふことを殆ど無上の讚辭を支那國民及その青年に向つて呈して居るんであります。只之等のことを見若くは聞いただけでは、之だけ抵抗する限りには相當先方にも信念があり自信があるだらうと即ち支那にも相當の道理があるだらうと云ふやうなことを考へ勝なんでありませぬ。併し若し日本國民が多少ともさう

云ふことを考へたならばその時日本國民は敗けなんでありませぬ。併し只漫然とどうして此の事變が起つたと云ふことを考へずに今支那國民のやつて居ります有様を見ますとさう云ふ風な考へが日本國民の心の内に忍び寄りなるとも限らん。そこでどうして一体今度の事變と云ふものが起つた、どう云ふ譯で支那の國民黨の面々は所謂焦土抗戦と云ふものを飽までもやらうとして居るんであるか、と云ふことを少し尋ねて見る必要があるんです。そこで先づ今度の事變の因つて起れる原因を深く究めて見たいと思ひます。

### 此の背後の魔手を見よ

直接の原因は御承知の通り昨年七月七日夜丁度北京と天津の間に豊台と云ふ處があります、其處に前々から日本の軍隊が駐屯して居りましたが、豊台の日本駐屯軍が北京城の南約四五里の處に永定河と云ふ川が流れて居りまして、その川の上に蘆溝橋と云ふ橋が架かつて居り、その附近は一帯の殆ど砂丘と言つても好い荒涼たる島も何にも

ない石と砂との廣い砂漠のやうな地帯であります。さう云ふ所から何時も日本軍は其處に行つて演習をしとつたんです。丁度その蘆溝橋の側に宛平城と云ふ小さい縣城がありました。其處に支那の軍隊が又駐屯して居つた。夜間演習を日本軍隊がやつて居ります裡に支那の軍隊から小銃を撃ちかけたと云ふことが原因なんです。その後支那の軍隊には日本の軍事顧問が豫々配屬されてありまして元々仲の好い間柄なのでありますから、さう云ふ滅茶なことはやつちや不可んと言つてさう云ふ亂暴を止めさせやうとしたんであります。その時の軍事顧問の一人は福岡縣出身の櫻井中佐でありました。所がどうしても夜になるとパチ／＼やり出すと云ふ所から、或る時櫻井中佐の同僚であります中島中佐が、斯う云ふ風に何時までも梟がつかんでは甚だ面白くない、今晚は一つ俺が支那の軍隊の方に行つて見てやらう。さうして支那軍の參謀に向つて貴公は日本軍隊に來て見て居ろ、どつちが先に撃ち出すかよく吟味しやうと云ふので中島中佐は支那の軍隊の方に、支那の參謀は日本の

軍隊の方に来て様子を見とつたんです。暫くすると支那軍の方から電話がかかつて参りました。中島中佐が烈火の如き怒聲を張り上げて、『一体何をしとるんだ、撃つてゐるのは日本軍の方だぞ、あれまで互ひに撃たんと云ふ約束をして置いて甚だ怪しからんぢやないか』と言ふて怒鳴り込んださうです。所が日本軍に附いて居りました支那の參謀でも亦支那軍に電話をかけて『誠にどうも濟まん、俺は此處の日本軍に來て張番をして居るのにお前の方から撃ちかけて居る。そんなことでは日本軍に濟まんではないか』と怒つて居つたのです。段々その後の事情を綜合して見ますと何處かで以て日本軍でもなく支那軍でもない者が小銃か何かを撃つたらしい。さうして兩軍を交戦させるやうに誘導したんであると云ふことが明白に判つて來たのであります。私共の觀測ではあの七月七日の事件が段々擴大致しまして、遂にあの興安門事件と云ふものが起り北京に於ける日本の軍隊は全く包圍されてしまつた。北京市内には支那の軍隊が充満し當時北京を横行闊歩して居つたものは只共

産黨の連中だつた。殆ど北京の市内を支配しつたのは共產黨の連中だつたんです。之等の事を考へて見ますると共產黨の魔手と云ふものが此の事變を誘導するのに相當参劃しつたと云ふことが窺ひ知られるのであります。無論如何に共產黨の策謀がありましても、若し支那の軍隊に排日の精神と云ふものが蔓延して居らなかつたならば無論斯う云ふ事態には立至らなかつたのであります。不幸にして北京に参つとりました所謂第十九路軍と云ふものにも既に日本を輕蔑し、日本を憎む精神が、譬へて申しますると此の建物の床の下に既に火の手が廻つてしまつたやうに排日抗日の焰は十九路軍の青年將校、下士官及兵卒の間に燃え擴がつつたんです。それでありまから共產黨の点火がある大きな事件に爆發して行つとるんであります。而も北京で事を起しました當の責任者たる第十九路軍と云ふのは、元々日本子飼ひの軍隊と言つても差支ないものであつたのです。元々宗哲元の率ゐて居りました軍隊は今日の所謂蒙疆です。即ち察哈爾省と申しまして實に甚だしい瘡せた物

の實も餘り實らないと云ふ貧弱な處に駐屯して居りましてその頃は食ふ物もなくボロ／＼しつた着物を着た裝備の悪い極めて素質の悪い軍隊であつた。それを引抜いて北京の護りに當てたのは實は誰でもない之は周知のことです。原將軍が勝手にしなかつたのではない。日本軍の方針に従つて宗哲元の軍隊を宗哲元ぐるみ北京に持つて來てあの北京と云ふ豊穡な而も北支の首都に移駐させて肥らした軍隊だ。それでありまから十九路軍と云ふものは元々日本子飼ひの軍隊と言つて宜いなんです。それでありまから櫻井中佐と云ふやうな極めて英俊な將校をその指導教官として附けて之を強い軍隊にすることに一生懸命を折つたのであります。その日本子飼ひの軍隊と言つても宜いやうな軍隊まで排日抗日の思想が漲つて居つたので、況してや蔣介石直系の中央軍に至つては日本討つべしの意氣に燃え立つて居つたんであります。それでありまから一度蘆溝橋畔に於きましてあの事端が發生致しますると共にどんな

に日本政府も軍部も所謂現地解決、事件不擴大の方針を以て臨みましても、支那の方では愈々今度はやるんだ、今度は必ず勝つと言ふ信念を持つて居つたんです。最近約十年の間に於ける蔣介石を中心とする支那の異常な勃興を知らない方々は、一般支那青年、特に支那青年將校、進んでは蔣介石等の必ず日本には勝てることと云ふやうなことを御聴きになりますと、途方もないことであると御考へになるかも知れませんが、併し支那をして言はしむればそれ相應の理由はあるんです。と云ふのは大正の半ばから最近に至りますまでの日本の態たらくは一体どうだつたか。日本の大學と云ふ大學は悉く共產黨の巢窟となつてしまつて居つたんです。その大學から出た連中が新聞記者にもなり、代議士になり、否官吏になつて行くんだ、さうして朝野相應じて日本の赤化を企て、居るんだと、而してその日本はどうだ。やれ政友會であるとか民政黨であるとか國內の鬭争に目も之足らない態たらくではないか。共產主義の煽動に因る階級鬭争は一日々々熾烈となつて來て居る。

それならば軍部と云ふものが結束してガツチリしたものがあるかと言ふとさうでない。二、二六事件と云ふやうなものが起つて軍そのものが既に罅が入つとるんだ、愈々日本はもう下り坂だ、日本をやつつけるのは此の秋だと斯う思ふのは之は日本の國体と云ふものを知らない連中から見ますれば無理もないんです。實際又日本と云ふもの、國体が所謂永遠の常磐堅磐とこはにかきはに動かぬ大磐石が根本になく、さうして大正の半頃から最近に至りますやうなあゝ云ふ政黨政治と云ふやうな全然間違つた思想で以て此の國が治められて居つたならば、今度の事變に際して日本の運命がどうなつて居つたか、想ふだに寒心の極みであります。併し之は玉に瑕きずであります。さう云ふ假定は日本にはないのであります。どんなに表面は爛れて腐つて居りましても、大本には永遠の大磐石即ち國体の信念と云ふものがあるんであります。事あれば必ずや此の巖が永遠に動かない力を示して來るのであります。それを淺はかな支那の學者共、政治家共は知らなかつたんです。其處に彼等の誤算があるんです。

### 眞の敵は此處に在り

それならば抑々どう云ふ所から支那に只今申しましたやうな日本を輕蔑し、日本を排撃し、日本を亡ぼさうとする思想が漲つて來たのであるか、之を考へて見る必要がある。多くの共產黨かぶれをしたやうな所謂評論家、若くはイギリスやアメリカ、フランスなどにかぶれたやうな民主主義的な學者と云ふやうな人々は、斯う言ふても直ぐそれは日本が悪いんだ、今まで日本が慘々支那を虐めつけたから遂に支那は我慢がしきれなくなつて日本をやつつけやうと云ふ心を起したんだと斯う言ふんです。即ち日本が帝國主義的な侵略を支那に向つて加へるから支那は自衛的に日本に向つて反撥して來たんだと斯う言ふのでありますけれども、詳く歴史の進展そのものを検討致しまする時に、又日本の根本の國柄を顧る時にそれは全然虚偽です。寧ろ日本を轉覆せしめやうと或は共產主義ロシア、或は民主主義的である英佛米と云ふやうな國々の日本に對する罵詈譎諷

なんです。それを偶々横文字を讀めるやうな一知半解の所謂日本の學者と云ふものがその儘信じ込んで自分までがさう思つてゐるに過ぎないので。と申しますのは最近の最も著しき事例を指摘致しますると、我が國が世界大戰に参加して英佛米等の勝利に歸せしめた。之は非常な日本の貢獻であります。若し世界大戰當時日本が中立を守つて居りましたならば獨逸は恐らく敗けなかつたと思ひます。又若し日本が獨逸側に立ちまして世界大戰をやりましたならば之は必ず日獨の側に勝利があつたんです。それ程重大なる役割を日本は世界大戰當時演じて居る。それに對する唯一の償ひは所謂青島及山東省に於ける獨逸の有つて居りました權益を日本に譲ると云ふことであつた。而も大正十一年のワシントン條約に於きまして此の極く細やかな世界大戰參加の償ひすらも、日本は東洋永遠の平和のため、と云ふことは即ち日支親善のため之を無條件で支那に返して居るんであります。而も此の大正十一年に青島を支那に返したと云ふことが實は今度の事變の遠い原因をなしとるんで

す。日本の方では心から日支兩國仲良くして明治天皇の御心にありました所の東洋永遠の平和を確立しやうと思つて青島及山東省の權益を返した。所が支那の方ではさうは取らない、日本は青島も山東省も取りたいんだ、所がイギリス及アメリカが取つちや不可んと怒鳴りつけたもんだから日本はイギリスやアメリカが恐しくつて青島を返したんだ。此の分ならばイギリスとアメリカにさへ手頼つて日本を蹴飛ばすことを考へて行けば結局日本は大陸から逐落してしまふことが出來ると考へた譯であります。そこで青島還附以來實は日支の關係は表面は兎も角實際は悪くなつて來てゐるので、之に依りまして日本が支那を事毎に虐めつけるから支那が怒つて反撥し來つたんだと云ふ考へが間違つて居ることが解るのであります。又説をなす人は今度の支那全國に澎湃たる排日侮日の精神は滿洲事變の結果なんだと、滿洲を支那から奪つてしまつたため斯う云ふことになつたんだと、少くも支那の人は言ふのであります。之亦原因と結果とを取違へた言ひ分なのであります。滿洲

事變と云ふものが主としてどうして起つたかと云ふ点を検討したら排日侮日抗日の自然の結果として滿洲事變と云ふものが起つとる譯であります。さう云ふ譯でありますから支那の排日侮日抗日を以て日本の支那虐めが原因であると言ふのは全然間違つて居るのであります。それならば一体どうして支那は排日侮日抗日と云ふ思想に馬車馬のやうに驀地に進んで來たのか、之を明かに致しますため少し深く最近に至ります蔣介石の殆ど獨裁政治の下にありました國民政府と云ふものの實体を極めて見る必要があるんです。申すまでもなく今日の支那の國家は中華民國と呼んで居ります。此の中華民國と云ふ國家は實質上支那の中國々民黨と中國々民政府と云ふものが作つて居る所の國家です。簡單に申しますと中華民國の實体は中國々民政府なんでありませう。所が此の中國々民政府と云ふものは中國々民黨と云ふ一つの政黨の權力組織なんです。解り易く申しますと國民黨と云ふ政黨がありましてそれが漸次他の政黨を逐ひ退けまして殆ど支那全体を支配するだけ

の力を一手に握つて、それと共に支那の政治機關を掌握してその權を専らにして居る所のものであるんです。それならば國民黨と云ふ政黨は一体どう云ふ基礎の上に出來て居るのか、國民黨と云ふ黨を結成して居る所のものは一体何かと云ふことになるんです。之は國民黨の父とも申すべき孫文の提唱にかかる三民主義思想に外ならない。即ち國民黨を動かして居りまする魂と云ふものは三民主義と云ふ思想に外ならない。之を逆に申しますれば三民主義と云ふ魂がありまして、之が國民黨と云ふ生命をつくり、その國民黨と云ふ生命が支那の中央政府の權力を掌握して之に依つて漸次支那と云ふものを固めて行くと言ふのが此の十年の支那の歴史であつたのです。換言致しますると根本に於て支那を動かしたある所の魂は三民主義と云ふ一つの思想なんです。さうして三民主義に依る支那政府の政策と云ふものがあるんです。そこでその三民主義と云ふものはどう云ふ思想なんであるかと云ふことを日本國民たるものは悉く肝に銘じて居らなくちゃならないです。この三民主義思

想の結果として今日の支那事變と云ふ日支間の悲劇を生み出して來て居る譯です。三民主義が日本に取つては敵なんです。三民主義を叩き潰せば此の事變は直ぐその時に熄つてしまふ、此處に敵の急所があるんです。一寸の虫にも五分の魂と云ふことがあります。一寸の虫を殺すにしても、只手足を斷ち切つた所では虫は依然として動いとるです。生きてゐる。若しそれが毒を有つて居れば飽までも毒で以て自分の身を護らうとするのであります。所が五分の魂の止めを刺せば終ひです。従つて如何に武力を持ちまして支那の足や手を叩き切つた所でその魂があります間は飽までもその毒を以て日本を痛めやうとするに違ひないです。さう云ふ譯でありますから三民主義と云ふ支那の魂がどう云ふ魂か、之をはつきりと認めて居らなくてはならない。私の觀る所に依りますればまだ日本の國民が此の三民主義思想の認識が十分でないのであります。それが即ちもつと早く此の事件が片付いても宜いのに永引いて居る所以であると思ひます。

### 皮相淺薄な三民主義

それならば三民主義と云ふものは一体どう云ふ考へであるかと申すと、三民主義と申すのは第一に民族主義、第二に民權主義、第三に民生主義、此の何れも『民』と云ふ文字を以て始まり三つの主義綱領の總稱に外ならない。『民』の字が三つありますから總稱して之を三民主義と言つて居るのであります。先づ第一の民族主義と云ふものはどう云ふ主義かと申しまするに、大體民族主義と申しまするのは私共が日本民族主義と申します時の民族主義と云ふ言葉と一應は同じ意味のものであるんです。孫文は『三民主義』と云ふ書物の中で『どうして近世になつて四隣の強國悉く非常に進歩發達を遂げつゝあるに對して、獨り大國である支那のみが衰亡の坂を下つて行くのか』と云ふ問を起しました。それに對して次の如く答へて居るのです。『元來支那の社會といふものは民族を以て旨とする所の民族だ若くは社會である。即ち支那の社會は家族を旨とする所の

社會なんだ。そのため支那國民の中には一家のためには克く一身を犠牲にする人もあり、その例は尠くないけれども、更に進んで一身一家をその民族のためその國家のため捧げるといふものに至つては全く少い。所が日本を始め近代的民族國家は何れも國を以て旨とし、國のためと思へば一身は申すに及ばず一家すらも犠牲にして之を辭せないもんである。その故に近世の四隣の國家は僅か二三百年、日本の如きは數十年にして今日の強大をなし來つたんだ、所が吾々は只銘々の家あるを知つて民族、國家あるを知らず國家の事と言へば雲煙過眼視して居る。之では國を擧げて一致團結して來る所の國に對してどうして太刀打ちが出来るか。従つて今日支那の國を興さうと思ふならばもう一度民族主義といふものを興さなくちゃ不可ん。もう一度支那民族精神を振起さなくちゃ不可ん。』といふのが孫文の民族主義の第一の点なんです。此の議論に對しましては私共民族主義を以て國をなして居ります日本人と致しまして只同情同感あるのみなんです。只茲に問題になりますの

は、私共が民族主義と申しますのは只漫然日本民族主義、大和民族主義と言つてゐるんぢやない。只抽象的に一身一家を民族のため捧げると言つてゐるんぢやない。もつと具體的な事實の或るものを意味して居るのです。それは何であるかと云ふと申すまでもなく三千年の歴史を貫いて克く日本民族をして偉大ならしめ、崇高ならしめ、清からしめ、正しからしめた所のその精神、歴史的に傳統的に吾々の血と共に私共の生命を強く正しく清く守つて來た所のその精神その精神は外でもない惟神かんたの大君に對する忠誠の心なんでありませぬ。(拍手)國体の信念、之が即ち私共の民族精神の實体實質なんです。今日獨逸に於きましてはヒットラー總統の下に極力獨逸民族主義と云ふものを強調力説し、之に依つて國を興しつゝあるのであります。此の獨逸民族主義の場合に於ても内容は違つて居りますけれども依然として獨逸の約二千年の歴史を一貫して獨逸民族に襲ひかゝりました幾多の困難障害を突破して飽までも獨逸の精神、獨逸の魂、獨逸の文化と云ふものを高調し生出し以て獨逸民族

をして世界に重からしめた所の歴史的傳統的具體的な精神を意味して居るんであります。従つて孫文が民族主義を叫びますその時に於て、若し支那の民族主義なるものが本當のものでありますならば申すまでもなく支那四千年の歴史を一貫して兎も角支那の國民を高等なる道德的なる倫理的なる文化國民たらしめた所のその精神でなければならぬです。而して私共の觀る所に依りますれば、而して之は私共日本人の見る所ばかりではなく世界の識者否支那そのもの、識者の觀る所でもあります。支那國民を克く數千年の久しき間之を偉大ならしめた所の精神はあの支那第一の偉人でありました孔子すらもその生涯を捧げて之が祖述に携はらしめました所のあの所謂王道の精神、若くは孔子の仕へた所のその精神、普通世に儒教の精神と言つて居ります。此の儒教の精神と云ふものが少くも支那に於きましては最も高い大いなる又深い精神である。此の精神に依りまして支那は今日まで文化國民としてその存在を續けることが出來た。従つて孫文が民族主義を叫び民族精神を振

作力説致しまするその時に、彼は當然支那數千年の歴史を貫いて支那を大ならしめた此の精神を民族主義の實質内容として持つて來なければならなかつたのであります。所が實際孫文及其の弟子共のなした所の内容は全くその逆であつた。孔子の教の如きは徒らに保守主義、反動主義を主張するものに過ぎないものとして之を排斥し之を蹂躪してかゝつたんであります。支那の民族思想から儒教の精神を排撃致しまする時に残るものとは何も實はないのであります。而も何もなくしては事足りませんため彼等は民族主義の實質内容として第二第三の思想を提唱して居る譯なんです。換言致しますれば支那の所謂民族主義と云ふのは、單なる形式的な主義綱領に過ぎないのであります。その内容を充す所の思想は第二第三の思想であつた。而も第二第三の思想なるものが支那生拔きの思想であつたならば幸ひであつたのであります。兩者何れも之は近世西洋の思想である。それも西洋に於ける最も深い最も正しい思想なればまだしものことであります。彼の民族主義の實質内

容として採り來つた所のものは近世西洋の最も皮相淺薄な俗惡邪惡な思想で、之が即ち民主主義、民權主義でありませぬ。そこで民權主義と云ふ第二の主義であります。之は明治中期頃から大正の終り昭和の初めに至りますまで日本でも相當寄惡を流しましたあの自由民權と同じ思想であります。日本では最近では民主主義と云ふ言葉を使つて居りますが、孫文の三民主義の第二の綱領である民權主義が決して支那生拔きの思想でなく歐米傳來の思想であると云ふことは、孫文その人が繰返し々々吾々に告白して居る所の言葉であります。それならば民權主義と云ふものは一体どう云ふ思想なるか、先づその歴史を申しますれば、民權と云ふ主義思想も西洋固有の思想ではない。民權主義的思想が西洋を風靡し始めましたのは十八世紀の末あのフランス革命以來のこと、フランス革命をやり遂げましたのが所謂此の自由民權思想なんです。どう云ふ考へかと申しますると、人の世の中と云ふものは銘々個人から成立つて居るんだ。併しその銘々の一人一人の私共と云ふものは所謂天賦

人權を持つてゐる。天然自然に有つて生れた權があるんだ。だから飽までもその權利を尊重するのが吾々銘々の務めなんだ。所が只銘々で勝手にやつたんでは又争鬭心を刺戟して今度は修羅の巷と化して終ふ。それでありませうからお互ひが相談をして吾々の天賦人權に或る種の制限を加へて一緒に物事をしやうぢやないかと言つて出来た團體なるものが所謂國家なんだと斯う云ふのであります。さう云ふ譯で國家の最高の主——君とも云ふべきものは實は吾々銘々な人である。即ち自分が主なんであると云ふ思想なんです。さう云ふ所から明治年間に日本の思想運動の一の叫聲でありました自由民權と云ふ標語が出来て居りましたが、之は申すまでもなく當時の藩閥政府に對抗するために叫ばれた一の鬭争の雄叫びとして見れば多少の辯解の餘地はありませんけれども、日本の國体に照合せて見る時は斯の如き不忠な非日本の思想と云ふものはないのであります。(拍手)

### 孫文の歐米心酔

段々考へて見ますと、此の世の中と云ふものは私共銘々があつて始めて出来て居るのではないのであります。世の中があつて始めて吾々が出来て居るのであります。私共自分が自分を生出したのではない。自分で自分を哺み育てたものでもない。自分で教へ導いたものでもない。親から生れて来たんだ、生れたばかりではありませぬ、親の一通りならん心盡しに依りまして、即ち愛に依りまして私共は哺み育てられたのであります。赤ん坊の時不心得の親が居つて二十四時間自分を抛出して置いたならば吾々はもう此の世からお去らばでありました。不斷の親の心盡しに依りまして始めて吾々は育つて来て居る。私共が人並に兎も角も至らんながら人らしくなつて来たのは之れ皆親の恵みである。又先生の教導に依つて今日がある譯なんだ。而して先生なり親なりも之亦その先生その親があつて始めて親たり先生たる事が出来てお在になりますのであります。

す。私共の祖父母の前にも斯の如き非常な血の繋りがありまして初めて私共の肉體が生れ育つことが出来て居る。精神的には先生であるが、その先生も只獨り自分で以て自分を造つたもんぢやないのであつてその先生がお在りになる。思想と云ふものも日本に於きましては參千年の發展傳統と云ふものに依つて出来て来て居る。それに依りまして私としての存在を保ちつゝある譯なんです。日本の民族、日本の國家、日本の國體、皇尊の御恵みに依つて私共初めて茲に生活が出来つゝある譯なんです。それでありませうから君は飽までも君に在しますのであります。私共は飽までも皇御民なんです。皇御民として飽までも皇尊に仕へ奉り又皇尊に在します所の天津日嗣の大御神に對しておろかみ齊き奉る本務を有つて居る譯であります。之は獨り必ずしも日本人ばかりの心理ではないのであります。何國の民族でも人の生命と云ふものはその在るが儘に究めて参りませうばさうなんです。民主々義と云ふが如き思想は獨り日本に於て人の道に外れて居るばかりでなく實は何處の國だ

つてさうなんです。然るに孫文は近世西洋諸國が多く民主々義の政治体系を有つとる所から、又それ等の近世歐米諸國が隆々たる進歩の跡を示しつゝある所からたわいもなく民主々義に耽溺し崇拜したんであります。さうして新しき支那を此の民主々義的政治体系の下に固めて行かうと云ふ考へを起した譯なんです。之を簡単に申しますればどうして孫文が民主々義を以て支那を治めやうとしたかと言へば、全く彼の歐米崇拜の心情から出て居る。彼は或る處で、吾々は歐米諸國の思想を模倣するため完全なる民主々義國家をつくつたと申して居ります。眞似をするために支那の國家を民主々義にしたんだと云ふのであります。所謂中華民國——民國とは民主々義國家と云ふのであります。——にしたんだと言つて居ります。所が眞似をする者の心理に立入つて之を考へて見ますと、眞似をするると云ふのは崇拜することに基くのであつて、孫文がイギリス、フランス、アメリカ等の民主々義國家を崇拜することはその國の人が自分の國を崇拜すること以上に勝るものがあるのみな



らず、眞似ると云ふことはどうかすると自分は無い者にならうと云ふ自分すらも之を抹殺するのでありますから、自分が眞似やうとするものがないものに對する侮蔑の念と云ふものは一層深刻なものがあります。斯う云ふ所から孫文及その弟子共が日本の國家を觀ます時に、日本は先づ第一に民主主義國家でなくして天皇の御在します君主國家である。君主國家と云へば民主主義國家から言へば極度の時代遅れの國家なんだ。そればかりぢやない、まだ日本人は天皇を皇尊の神様として拜んでるんだ。日本では神様を君主に仰いでる國家だ、斯の如きは時代遅れも時代遅れ、之は昔も昔大昔の政治体系なんだ、日本と云ふ國はさう云ふ古ぼけた到底今日在り能はない國家なんだと、斯う孫文は明かに言つてるんであります。彼は斯の如く日本の國體に對し此の上もない侮蔑を無遠慮に曝け出してる。換言致しますれば支那が日本を輕蔑するのは單に一時の行懸りではなく全く支那國家の根本に存する所の思想感情なんであります。従つて中華民國と云ふ國家がある限り永久に之は日本

を侮蔑するものなんです。さう申しますると汝の議論を以てすれば日本は世界に於ける總ての民主主義國家と戦はねばならんぢやないかと云ふ議論が起つて参ります。結局に於てはさうなんです。それを吾々は覺悟しなければならん。それでありまして今日イギリス、フランス、アメリカ、ソヴィエツトロシアが日本に敵對して來てゐるんです。何が故に伊太利及獨逸が日本に敵對せず寧ろ日本を支持し日本の味方となつて居るかと言へば、彼等が民主主義の非を覺つて伊太利の如きは十五年前から、獨逸も五年前から日本の國體國家を手本にしてその國をつくり替へつゝある。それなればこそ私共に同情もし支持しつゝある譯なんです。結局に於て日本は全世界の民主主義國家を敵として戦はなければならぬ。けれどもそれは將來の事で當面は其處まで行かなくても宜いのです。差當り吾々は純粹な民主主義國家だけを敵とすれば宜い。それは支那とロシアなんです。同じ民主主義國家と言つてもアメリカと支那との間には實質的に格段の差があるのであります。と申します

のはアメリカにては政治は生活の一方面なんでありまして生活の總てではない。政治の外に倫理、道德があり宗教があるんであります。又長い社會の風俗、習慣、傳統がある。此の如きものに依つて政治的には民主主義國家であるけれども尙且民主主義的でないものが澤山ある。之がイギリスに参りますれば尙更で、フランスもさうであります。此の宗教、倫理、道德、風俗、習慣の間に於ける民主主義的ならざる即ち人間らしい思想が、政治の上に於きまする民主主義的の理論を矯めつゝあるのであります。所がソヴィエツトロシアに行けば政治が全部なので即ち政治が道德であり倫理であり又宗教であり社會の風俗習慣をつくる力なのである。そんな政治が民主主義と云ふことになればその民主主義思想が人間生活の全部になつて來る。支那がさうなんです。三民主義と云ふ思想を以て國民黨が支那の國民生活の全面を支配しるのであります。教育は無論のことと道德、宗教等に至るまでその思想を以て支配せられるのであります。その故に此の間違つた畜生的な思想の影響が

支那に於ては殊に深刻です。乃ち日本が遂に此の大戦を始めるに至つた所以です。之を以て支那人の間にどうして侮日の思想が出て來るかが御了解になつたらうと思ひます。と云ふのは此の三民主義を以て國民政府は支那四億の民を教育して來たのです。特に青年層を鼓舞、作興、鍛鍊、指導し來つたんであります。斯くして支那四億の民殊に青年に心から日本を輕蔑する、而も全然間違つて輕蔑する思想が湧いて來た所以であります。

### 三民主義と共產主義

次の民生主義と云ふ思想であります。之は元々支那國民の生活をどうすれば向上せしむることが出来るか、又豊富ならしめることが出来るかと云ふ問題に答へんとして提出された所の主義綱領であります。然らばその民の生活を安固にし豊富にする所以の道として彼の提唱しました民生主義とは一体何か、之は深く探究するまでもなく孫文その人が私共に所謂民生主義の何たるかを教へて居ります。曰

く民生主義は即ち社會主義である。即ち共產主義であると言つて居ります。それならば孫文は直ぐマルクスの思想を以て支那の經濟を興さうとしたかと言ふと、其處まで甚だしき誤謬に彼自身は進まなかつたのであります。孫文は何と申しましたもあの新しい支那國家を興さうとしただけの人でありまして、その實際的經驗に對しましては相當な眼識をば有つとつた人です。そこで思想的にはマルクスの共產主義に傾倒して居りましたけれども、之を直ちに支那に實行することはどうかと躊躇した。さうして申しますのに『マルクス主義を支那に行ふことは無理な注文だ。と言ふのはマルクス主義の主眼として居る所は富の分配だ。マルクス主義は階級闘争を説くが階級闘争は一体何を目標とするかと言へば、富める者の富を奪つて之を貧乏人にやることなんです。所謂富の分配と云ふものがマルクス主義の眼目として居る所なんです。故にマルクス主義を實行するためには富がなくちやならん。然るに今日の支那を見れば富はない。今日支那のやうな貧乏な國は殆ど世界にない、斯

う云ふ所にマルクス主義は實行出来ない。マルクス主義を行ふにしても吾々は先づ支那を富ませなければならん。富ますためには然るべく他の手段を取らなければならん』と云ふのが彼の考へだ。その考へを實行したんです。けれども思想的に理論的には彼の内心は共產主義だつたんです。それでありまして三民主義を固執して居ります彼の所謂民生主義と共產主義との違ふ所と同じ所を論じまして次のやうに申して居ります。共產主義は民生主義の理想で民生主義は共產主義の實行だと斯う言つて居るんです。さうして結局に於て兩者は同じもんだと斯う言つて居るんです。さう云ふ所から彼のマルクス主義を提唱し出したあのカー、マルクスと云ふ最も邪惡なユダヤ人でありまして、之を人もあらうに支那第一の聖人であります孔子と比較して居るんです。そればかりではない彼はマルクスに就て次のやうなことを言つて居る。マルクスの生涯とマルクスの理論とは人類數千年の經驗を集大成せるものであると云ふやうな途方もない讚辭をあつて居るのであります。さ

ういふ譯で此のマルクス主義を以て國を立て、居りますソヴィエツトロシアに對する彼の崇敬の念は又一入で、丁度十餘年前孫文が日本に参りまして將に故國に歸らんとする時、神戸の或る高等女學校で以て聴衆は神戸の實業團體、之に向つて『大亞細亞主義』と云ふ演題の下に演説をやつて居ります。その内容の結論は今後支那はソヴィエツトロシアと提携して東洋の始末をして行くつもりだ。日本はどうなさるか。吾々と一緒にやつて行かれるかそれとも吾々の反對側にお立ちになるか、斯う云ふのです。さうしてソヴィエツトロシアこそ世界に於て正義人道の行はれる唯一の國だ、少數の者が權力を以て多數の者を壓迫することのない國だ、所謂王道の行はれる所はソヴィエツトロシアあるのみであると云ふ途方もない世迷言を場所もあらうに日本まで持つて來て説いて居るのであります。併し處もあらうと申しましたけれども當時の日本はそれよりもつと甚だしい先生方が勅任何等と云ふ風な偉い高官の大學の先生で日本の學生に教へて居る時なんですから、孫文を責めるの

は無理かも知れません。何れに致しましてもさういふやうな考へを孫文は有つとつたので、此の思想が實は所謂聯露容共の政策として國民政府の一貫して居る思想なんです。如何にも中途に於て蔣介石は聯露容共政策を一擲致しまして共產黨を國民黨から追出して更に進んで共產黨及共產軍を征伐するため相當努力をしたのであります。所が一昨年冬のあの有名な西安事件此の方又再び國民黨本來の面目に立歸りまして共產黨と握手し又ソヴィエツトロシアと私かに抗日戰を策謀して居る状態なんです。斯の如きことは孫文その人にちやんと種子が蒔かれて居るのであります。偶々日本は宮崎滔天とかそれ等の人々が孫文と個人的に交はつて居つた關係から、日本には殊に九州には孫文最負の人達が多いのであります。之は私の事は別ですが、少くも日本臣民として見る時は孫文は今度の事變の張本人であります。それを忘れてはならないです。

### 中華民國の實質

支那が無上の盟邦として待つツヴィエツトロシアと云ふ國は日本の國体と全然相容れざるマルクス主義を奉じて居ります國家である。何故マルクス主義は日本の國体と相容れないかと言ふに、マルクス主義なるものは先に申しました民権主義——民主主義に尙一段の輪をかけた思想なんです。民主主義と共產主義とは本質的には何處にも違ひないのであります。若し違ひがあるとすれば量の違ひのみであります。民主主義の思想形体に依りますと民主主義の前提とも見るべき自由主義と云ふものが伴ふて居るのであります。此の自由主義的な民主主義的な政治態勢の下に於きましてはどうしてもその經濟的活動は銘々の利益私の利益を計る營利と云ふことが行はれて行く譯なんです。先般も我が總動員法第十一條の發動如何に付て大藏大臣と軍部との間に意見の相違が見えましたため一時内閣の動搖すら噂されたのであります。どうして第十一條の發動がさう云ふ大きな影響を與へるのであるかと申しますと、今日の日本の經濟、産業の建方と云ふものが依然として尙自由主義的な

建方を取つてゐるからであります。即ち皆が工業を起し産業を發展させるその動機は國のためでなくて一身一家の利益のためであります。従つて何百萬の人々がその生命を君國に捧げて戦ひつゝあるに拘らず、日本の産業界の人は配當が今まで二割であつたのが一割にならなければならぬと言ふことは大變ぢやといふので反對しとる、之が今尙日本の産業の根本精神といふものが本當の御國振りになつて居らない証據です。一身一家の利益といふものが生産力になつて事業を起し商賣をする、それぢやまだ本當の日本人になつちや居らない。日本の陸海軍の技術將校は、又その指導者は陸海軍の工廠等に於て民間の工業界の人と同じやうに働きつゝある。それ等の人は決して自分が金を儲けやうと思つて働いて居る者はない。皆國のためだと思ふて働いて居る。然らばその結果果して陸海軍の工場は能率が悪いかと言へば、残念乍ら悪い点もありますけれども最も優秀な技術、機械等は寧ろ陸海軍の工廠等から出つゝある譯なんであります。之に依りまして工業とか産業とかいふも

のは必ずしも營利に基かなければ出来ないと言ふことはないことが判ります。私共は無論一身一家を蔑しらにしちや不可ん。けれども國の利益と一身一家の利益とが對立する場合には潔く一身一家を擲たなければならん、それが日本人たるの道なんです。(拍手)此の事は既に獨逸などでは實行しとるんであります。公益は私益に先だつと言ふ公益の方が大事なんだ。公益を起してその線に沿ふて尙私益を上げることが出来るならば飽までも上げなさいと言ふのが今日の獨逸の建前なんです。然るに總動員法第十一條の發動が傳へられるや大恐慌を來して株式の暴落を見るが如き醜態は、少くも今日の日本の産業界が未だ公益が私益に先だつといふ獨逸だけの所まで行つて居らない証據ではないかと私は悲んで居るのであります。何れに致しましても自由主義的の民主主義の社會機構の下に於きましては私益に依つて産業が行はれ富が生産されるのであります。従つてどうしても富が少數の人特に富をつくることの上手な人々の手に集注して行きます。さうすると大多數の人々は僅か

な俸給なり賃銀なりに依つて營々とその生涯を遂げなくちやならん。總ての時間を衣食のため働いて行かなければならんといふことになる、自由とは言ひ乍らその自由を享樂する富がない。それで不自由になつて來る譯だ。所が共產主義の方は同じく人生に取つて一番有難いものは自由だといふ考へがあり、先に申しましたやうに此の人の世の中は銘々が基で出來て居るんだと斯ういふのであります。従つて銘々は元々自由なんだといふ考へがある。従つて自由を飽くまでも尊重する、自由に生きることが一番大事なのであります。私共の考へは全然それと反對しとる。祭ることが吾々の勤めなんです。おろかみ祭るといふことが人としての本當の道で自分の氣儘勝手にやることは人間としての道を踏外して居るのである。所が自由主義的民主主義的經濟組織ではそれが出來ません。我が儘勝手に酒を飲まうと思へば飲み、したいことをするといふのは極く僅かの資本家ばかりで富のないものは出來ないのであります。それを皆に一樣にさういふ風にさせやうといふのが共產主義で

す。それでありますから本質は全然同じなものであります。自由といふものを皆の者にさせやうといふのが共産主義であるが、自由主義の下ではそれが極く少数の人にしか出来ん。それが所謂資本主義となるのであります。我が儘勝手な仕放題なことをすることが本當の人間としての務に背いた鬼畜の行爲である以上、之を多くの人に振撒かうといふ共産主義は獨り少數の資本家のみならず人生を擧げて鬼畜の域に叩き落さうとすることなんであります。之に反して日本の國柄はさうではありません。日本の國は皇尊の治しめす國なのであります。又知らせ給ふ國なのであります。知らせ給ふ國と言ひますのは、一つには正しき教を以て國民に知らせ給ふといふことなであります。即ち正しき真理を國民に知らせ給ふといふことなであります。それでは如何なる真理を御知らせになりますかと言ひますれば、それは伏ふといふことなであります。日本の國の政治の根本は、國民悉くに伏ひの心を教へることにあるのであります。ソヴェエツトの方は國民悉くに我が儘勝手をさせや

うといふのでありますから之は全然相容れないのであります。而も事實に於ては我が儘勝手の教へといふものは爲政者そのものが我が儘勝手をするのでありまして結果は要するに権力あるものゝみが思ふ存分に我が儘なことをやり、之に逆らふものは悉く銃殺の刑に處して行くといふのが今日の現狀で即ち鬼畜の境涯である。畜生の境涯は當然修羅の巷とならざるを得ない。斯の如く何れにしてもソヴェエトロシアと日本とは之は不具戴天の關係にあるのです。その不具戴天の關係にあるソヴェエトロシアと支那とが一緒にならうといふのでありますからソヴェエトロシアが日本に對して企らんで居ります陰謀即ち國家を崩壊に導くやうな策謀といふものは、自然又支那に移つて來る譯であります。乃ち抗日の精神といふものは共産主義であり、民生主義を奉ずる所から必然支那國家の源泉に於て培はれるのである。斯くして三民主義といふものを譬へて申しますると民族主義といふ一の外設の中は空虚である。その中に民權主義といふ日本を侮る思想を伴ふ所のものと、その半分は

民生主義といふ抗日思想感情を伴ふ所の思想を以て充されて居る一つの爆弾にも譬へることの出来るものであります。即ち中華民國といふ國家の推進力、その魂は排日、侮日、抗日の爆弾といつても宜いのであります。さういふ排日、抗日の爆弾を推進力とし動力とする中華民國でありますから、中華民國の勢力が漸次擴大し強化發展して日本の生命線と觸れる時に茲に爆發することは當然のことなればならぬ。それが即ち七月七日のあの蘆溝橋の事件だつた之を以て今次の支那事變の真相、眞因が何處にあるかを御話し申上げた譯なんです。

### 我が日本の大理想

さういふ譯でありますから此の民權主義に連るイギリスフランス、アメリカ等が支那の排日、侮日、抗日政策を後方から援助し、又民生主義に連るソヴェエトロシアが共産主義の實質的關聯に基き抗日政策を後援支持しつゝある譯で、私共と致しては飽までも三民主義の擊滅に向つて努

力しなくてはならないのであります。然るに萬一之が支那國民の心ばかりでなくて、日本國民の一部の心の中に三民主義的思想が尙巢喰つて居りましたとしたらばどうでせう。前途頗る寒心すべきものがあると言はなければなりません。然るに今日果してそれが杞憂であると言つて安心して宜しいか、私は未だ必ずしも安心するのは早いと思ふのです。何と申しましたも明治の中葉から最近に至りまするまで日本の政治は民主主義的思想に依つて形成された政黨に依つて指導され來つた所の時代であります。大正から昭和の初めにかけては所謂政黨内閣、政黨の政府といふものすら出來た。滿洲事變以來政治的には著しく變革を見つゝありはありますけれども、今日尙古い政黨政治者流の中には尙その前非を禳ぎ被ひする斷乎たる日本的な悔ひ改めと祈り直すといふことが十分に行はれて居らんと私は見るのであります。又多くの高等教育を受けました人々の間には、約十數年の間マルクス主義教育の結果と致しまして、依然として共産主義、民生主義と云ふものが恰も

全部であるかの如く考へて居る人が少くないのであります如何にも今日表にはそれは現はしては居りませんけれども往々にしてその言動が仄見えなないこともない。斯の如くでは到底支那四億の民の心から三民主義を一掃することは出来なないと思ふです。日本國民そのものが確たる信念を以て支那の思想的指導に任じない限り此の支那事變をして有終の美あらしめることは出来なないと思ひます。而して此の事は必ずしも私自らの一言言ではありません。去る十一月三日の明治節の佳節に當つて我が帝國政府は次の如き實に記憶すべき重大聲明を中外に對してなして居られるのであります。その主要なる一節を申し上げますと

今や 陛下の御稜威に依り帝國陸海軍は克く廣東、武漢三鎮を攻略して支那の要域を裁定したり。國民政府は既に地方一政權に過ぎず。然れども尙同政府が抗日容共政策を固執する限り之が潰滅を見るまで帝國は斷じて戈を輯めることなし。

と言つて徹底的に國民政府が抗日容共政策を固執する限り

今日の言葉を以てすれば三民主義を以て固執する限り斷乎潰滅するまで戈を納めなないと言つて居るのであります。然らば三民主義を一掃し國民政府の抗日容共政策を排除したる後我が帝國の希求する所は何であるか。それに對する答は次の言葉に現はれて居ります。

帝國の希求する所は東亞永遠の安定を確保すべき新秩序の建設にあり。今次聖戰究極の目的も亦茲に存す。

斯う書いてある。即ち東亞細亞の世界に今までと全然違つた新しい秩序を建設しやうと云ふのが今次聖戰の目的なんです。然らば此の東亞の世界に新しき秩序を建設するに際してその據るべき順序、據るべき原理は何處にあるかと言へば、之は既に今まで御聽き頂きましたことに依つて皆さんの胸にはつきり寫つてるものと思ひますが、我が國体の原理を措いて東亞建設の原理はないのであります。而して之も亦私の一言言ではなく今となりましたは帝國政府不動の方針となつて居ることは次の言葉に依つても明かであり

惟ふに東亞に於ける新秩序の建設は我が立國の精神に淵源し、之を完成するは現代日本國民に課せられたる光榮ある責務なり。

惟ふに東亞に於ける新秩序の建設は我が立國の精神に淵源すとある。乃ち時艱克服の原理即ち東亞新秩序の建設の原理は取りも直さず我が立國の大精神に外ならないのであります。(拍手)然らば謂ふ所の立國の精神とは一体何を指してお在でになるか、此の間に答へる最も良き又最も明かな答は之を古事記の言葉に見ることが出来るんであります。古事記は 神武天皇が多年に亘る御聖戰の結果大和國を御平げ遊ばされまして橿原の宮に天が下治しめし給へるその時の御精神を次の如き言葉を以て傳へて居ります。

故此の如荒ぶる神等を言向け平和し、伏はぬ人等を退ひ撥げ給ひて敵火の白檣原の宮に坐しませして天の下治しめしき。

言葉は簡なりと雖も此の一行の言葉の中に日本の國体の大

精神と云ふものが日月の如く明かに映出されて居るのであります。即ち 神武天皇は荒ぶる神等を言向ける、言葉を向けて邪しまなる不正の心を教に依つて導き以て之を平和し伏ふものとし遊ばされる。併し飽までも戈を取つて双向ふものは已むを得ない伏はぬ人等を退ひ撥げる。之も退ひ亡ぼすと云ふのでなく撥げるのである。撥げるとは撥かにすると云ふことで伏はぬ者を伏ふ者たらしめるのである。

それが出来たので天の下治しめし給ふたと云ふのです。斯くして出来上りました日本の國家と云ふものは伏ひの國家と云ふことが出来る。伏ふと云ふことは今日の言葉を以て申しますれば己を空しく私を擲つて大君に御仕へ奉ることなんです。即ち皇孫に仕へ奉ることでありませう。皇孫は申すまでもなく天津日嗣で、皇孫も天照大神を齊き拜み奉るのであります。而して天照大神は無論その御後ろに伊弉諾伊弉冊の尊は申すもおろか天津神が在しますのであります。乃ち神を敬ひ神に伏ふ私共は茲に私なるものを空しくして傾け盡して永遠の中心である天津日嗣の皇孫に仕へ盡し奉る

のであります。斯くして日本の國家と云ふものは天壤無窮金剛不動の強さと固さとを有ち常堅に盡きざる生命の泉たることを得つゝある譯なんだ。即ち此の興國の原理、肇國の精神と云ふものが、獨り日本國內の建設の原理であるのみならず之が體て今日東亞細亞の新しき秩序建設の原理となりつゝあるのであります。(拍手)否そればかりではありません。明治節に近衛内閣總理大臣は此の聲明の説明敷衍としてラヂオ放送を試みてお在になりますが、その放送の中に次のやうなお言葉がありました。既にもう御讀みのことと思ひますが、非常に重要なことでもありますから尙御記憶の喚起を致したいと思ふのです。日本の支那事變遂行に對する新精神を御述べになりました後、世界の列強も克く日本の眞意を諒解すべきであると云ふことを言はれて、次で支那事變勃發以來終始一貫日本の行動を諒解し是認し支持しつゝある伊太利及獨逸に對して感謝の意を述べられました末、獨逸及伊太利と日本との關係を次のやうな言葉で以て言つて居られるのであります。「幸ひにして防

共の盟邦獨逸及伊太利は日本の東亞に於ける意圖に共感し今次事變に對して兩國が寄せたる精神的援助は、我が國々民を鼓舞する所大なるものありしは吾々の深く多とする所であります。事變を通じその盟約に愈々緊密なる必要を感じるのみならず、進んで共通の世界觀の下に世界秩序の再建に努力せんとするものであります」と、即ち近衛内閣總理大臣は日本と獨逸と伊太利とは共通なる世界觀の下に更に進んで新しき世界秩序を建設するものだと斯う言つて居られる。之は無論日本の立場の上に立つて獨逸と伊太利が共通の世界觀を有つて來るものであると言ふことでありまして、日本の世界觀と云ふものは先に申しましたやうに私を傾け盡して皇孫に仕へ奉ることなんであります。さうして獨逸や伊太利が日本と共通の世界觀を持つと云ふことは獨逸や伊太利が日本國民の特色である伏ひの精神に通ふ所があると云つて居られるのであります。斯く見て参りますれば、此の肇國の精神は獨り日本國家の建設の原理であるのみならず延いては東亞の新しき秩序を建設する際の原理

であり更に進んで今日は全世界を此の日本國体の原理の上に築き直さうと云ふ時代になつて來て居るのであります。此の事を私共は暫くも忘れてはならない。その秋に若し日本國民の内に依然として民主々義を奉じたり、共產主義に未練を有つたものがあつたんではその新世界と云ふものは

いつ何時私共の掌中から逸脱し去らんとも限らないのであります。之を思ひまする時に皆様はやうに惟神の道に御仕へになつて居る方々に充分の御覺悟と御盡力を御願ひ致しますして今日の不束な講演を終ります。

(完)





## 明治維新の精神と神道

九州帝國大學教授

竹岡勝也

### 一、維新の改革に於ける神祇行政

明治維新の改革は我が國の歴史に於て非常に重大な改革であることは申すまでもないのであります。單に歴史的に重大な意義を有つ改革であるといふのみならず、直接現代日本の出發點をなす所の大改革であつたのであります。現代に於ける我が國の國情なり思想なりその他一切の文化は悉く此の明治維新の改革に出發すると申上げることとも出来るのであります。従つて此の明治維新の改革に就ては今日色々の方面から研究が進められまして、優れた研究が續々

出て居る状態であります。而して本日茲に私がお話し申上げんとする所のは、此の明治維新の改革を指導した精神、即ち我が國の歴史上最も重大なる改革と謂はれる所の維新の改革なるものが如何なる精神、如何なる思想に依つて指導されたものであるかと云ふ問題にかゝつて居るのであります。明治維新の改革の指導精神とも言はるべきものを一言を以て申上げるならば、是れは神道的精神が我が歴史を一貫して我が國民に大きな力を植付けまして、換言すれば國民の間から大きな力を引出して参りまして、此の神道的な精神に依つて明治維新の改革が導かれ、且その改革

が行はれたと云ふことを吾々は歴史的な色々な研究に依つて申上げることが出来るのであります。此の關係を順序を逐ふて申上げますと、政治的關係に於ては徳川幕府が新政を朝廷に返上せられる即ち王政復古と云ふ形に於てこの改革は行はれたのであります。即ち明治元年の前年慶應三年十二月に朝廷は王政復古の大號令を發せられたのであります。その王政復古の大號令の中に『神武創業の初に基き』云々と云ふ御言葉が拜せられるのであります。即ち神武天皇が國の基を定められた古に立復つて維新の改革は行はれなければならぬと云ふ意味の御趣旨が王政復古の大號令に示されて居るのであります。然らば神武創業の初に基くとは何を意味するものであるかと申しますと、後に續々と現はれて来る神道興隆の精神、神道を興隆せしむる政治に依つて之に答へることが出来るのであります。即ち明治政府が標榜した政治は御承知の通り祭政一致の政治即ち祭と政とは一つでなければならぬと云ふ趣旨に基く政治であつたのであります。さうして祭政一致の政治を行ふためには當

然神道を盛んにしなければならぬ。どちらかと申しますと、中世衰へた神道的精神を呼び覺して神道的政治を行ふて、始めて茲に名實共に祭政一致の政治を完成せしむることが出来る、斯う云ふ趣旨の政治が續々として明治初年の我が國の社會に現はれて來たのであります。

### 祭政一致時代

祭政一致の政治を行ふためには先づ第一に神祇官を再興しなければならぬと云ふ問題が起つて來るのであります。御承知の通り、王朝の昔、つまり奈良朝或は平安朝の昔に於ける我が國の政治は、神祇官が神を祭ると云ふことを基として行はれたのであります。太政官と云ふ政治を掌る役所と並んで神祇官があり、神祇官は神々を祭る役所であつたのであります。所が中世武家の政治が榮えると共に此の神祇官なるものは衰へまして、明治維新の改革が行はれる當時には最早神祇官なるものは朝廷にはなかつたのであります。そこで維新の改革が行はれ祭政一致の政治を行はん

となさるに於きましては、先づ第一に問題となつて來たのは神祇官の再興であつたのであります。そして遂に神祇官は王朝の昔よりもつと盛んな姿に於て再興されたのであります。その経過を一通り申上げて見ますと、先づ神祇に對する事務を掌る役所の變遷から申上げなければならぬのであります。明治政府が組織されるに當りまして、最初に神祇行政の中心として現はれて來る役所は神祇科と云ふ役所であつたのであります。明治元年正月太政官に——太政官と云ふ言葉はまだ明瞭ではありませんでしたが——七科が置かれた。その一科として神祇科なる役所が出來たのであります。神祇科に於ては神社或は神道に對する行政を掌つて居つたのであります。所が此の時代は頻々として官制の改革が行はれた時代でありまして、その二月には神祇科が神祇事務局と改稱せられました、之が總て神祇官再興の前提をなすものでありまして、此の神祇事務局なるものが間もなく神祇官に變つたのであります。それは明治元年閏四月でありまして、此の時始めて明治維新の改革當初

に於て問題となつたのであります。然し乍ら此の時の神祇官なるものは名稱こそ神祇官でありましたけれども、その實質は多年國學者或は儒者等が求めた所の神祇官ではなかつたのであります。何故かと申しますと、此の時に政治の中心に太政官が出來まして、太政官の下に七官——現在の七省——が置かれたのであります。その太政官の下に屬する所の七官の一として神祇官なるものが現はれたのであります。それで此の神祇官なるものは王朝の昔にあつた神祇官とその内容を同するものとは言はれなかつたのであります。そこで尙此の神祇官に對する再興の機運が繼續されました。明治二年七月の官制大改革に依つて始めて王朝時代の神祇官が再興されるの機運に到達したのであります。此の時の官制は神祇官は全然太政官より獨立致しまして、實際に太政官の上に位するといふ地位まで神祇官は引上げられたのであります。さうして神祇官の中に神殿が設けられました。東の神殿には天神地祇が祭られ、中央の神殿には八神、西の神殿には歴代の皇靈が祭られたのであります

之は誠に王朝時代の神祇官に勝る大なる規模を有つた神祇官であつたのであります。斯の如くに明治維新の精神は神祇官再興の方向に向つて大いに働いたのであります。之は神道興隆の精神即ち祭政一致の政治を行ふための官制の問題でありましたが、此の神祇官の再興に伴ひまして次に如何なる思想が現はれて來たかと申しますと、次に問題となつて参りましたのが有名な神佛の分離であります。

御承知の通り我が國の神社は、中世以降佛敎と習合致しまして、或は本地垂迹の説でありますとか、或は神宮寺を建立するとか、色々神佛混淆の状態が千年以上に亘つて行はれたのであります。さうして我が國古代の神様の本來の御姿が分らないと云ふ状態に陥つて來たのであります。所が明治維新の改革は先に申上げましたやうに、神武創業の初に復古すると云ふ復古の精神に依つて行はれた政治であるが故に、先づ神佛を分離して明治維新改革の根本精神とも言はるべき地位に位する日本の神様の御姿を、未だ神佛習合しない以前の古代の純乎たる御姿に復元せしめなければ

ばならない。斯う云ふ主張が明治政府の意見を支配致しまして、有名な神佛の分離が行はれることになつたのであります。神佛分離の事業は明治政府に取つて極めて困難な事業であつたのであります。明治元年三月に別當社僧の復飾、即ち僧侶の姿をして神社に奉仕して居つた別當、社僧の類を復飾せしめ、還俗せしめると云ふ命令が明治元年三月に發せられたのを初めとして、續々として改革の大綱が示されて來たのであります。本地垂迹説に支配されて御神休と同時にその神様の本地である所の佛像を祀ると云ふやうなことがあつたのであります。之等の佛像、佛具を神社の境内より一切取除くこと、佛號を冠した所の神社から一切の佛號を取除くこと、又岩清水、宇佐、箱崎に見られるやうな大菩薩、此の大菩薩の稱號を禁止した。神職の佛葬を禁止すること、之まで神職であり乍ら佛葬を行ふものが少くなかつたのであります。それを禁止した。同時に會て別當社僧、即ち僧侶の形を以て神社に奉仕した人が還俗して從來通り神社に奉仕することを求める場合にはこ



れを許す。又僧侶として止まることを欲する者は直ちに神社の境内から退去して神社に關係してはならんと云ふ命令が下されて居ります。即ち明治元年三月から閏四月の間に大休明治政府の神佛分離の大綱が決定されたのであります。さうして之を全國に布告すると同時に全國の神社に於て此の大事業に着手しなければならなかつたのであります。

之は餘談であります。神佛習合は先程申し上げましたやうに、千年以上我が國の神社を支配した思想であります。従つて中世に於ける神佛混淆の状態は甚だしきものであります。中には神社であるか、或は佛堂であるか、その區別を明瞭にしないものが尠くなかつたのであります。それで斯うした問題に突當り神佛分離の實行に當つては色々の困難を経験しなければならなかつたのであります。その一例を挙げますと、神佛分離に際しましては非常な困難を極めた一つの神様に「藏王權現」と云ふのがあります。之は御承知の通り吉野或は四國の石槌山などに祀られて居る神様であります。所が此の藏王權現は神様であるか佛様であ

るか云ふ問題が起つて來たのであります。此の吉野及石槌山が問題になつて居る時偶々此處に越後長岡に在ります古志の藏王權現なるものが問題になつたのであります。此の藏王權現には別當の靜觀院と云ふ天台の寺があつたのであります。そこで神佛分離の布告が下されますと共に、靜觀院の坊さんは復飾しまして、神官に變ると云ふことを申出たのであります。所が當時社僧が續々として神官に變る現象が起つて参りましたので、天台宗の本山延暦寺に於て非常に之を憂ひまして、全國の天台の寺院に向つて布告を發したのであります。それを見て一度復飾を願出た靜觀院の社僧は藏王權現は佛であると言ひ出し、佛であるが故に自分も矢張僧侶として此の權現に仕へたいと云ふことを申出たのであります。そこで問題が紛糾し始め藏王權現は神であるか佛であるかと云ふ大問題が起つて來たのであります。遂に縣廳の役人が實地檢分に参りましたが、本堂を見ると佛堂でありそれからすると佛でなければならぬやうであるが、その社に華表がある所からすれば神社らしくも

ありどつちに判斷して宜いか分らなかつたが、最後に一の妙案が考へ出された。それは此の藏王權現に昔から不開の神祕な箱があつた。白木の二重箱に釘付けされ本殿の奥深く厨子の中に藏はれ見ることの出来ない箱であります。此の箱を開いて見たら恐らく神であるか佛であるかが判明するであらうと云ふことになりまして、縣の役人、神職、靜觀院の社僧、氏子の人々等が一堂に集まりましてその箱を開けて見たのであります。所が開いて見ますと中から現はれて來たものは一体の佛像と一本の御幣であつた。そこで又結局分らなくなつた。遂に縣廳の役人の頭では藏王權現が神であるか佛であるか判斷することが出来ないから政府が宜しく判斷して頂きたいと申出たのであります。その時既に吉野と四國石槌山の藏王權現が問題になつて居た時で政府は飽までも之を神として決定しようと思ふ態度であつたのであります。そこで政府では、假令藏王權現が胡佛であるとしても、此の神國に渡つて神徳を發揮した以上神であるとして申されよう、又日本の名山大山と云ふものは元來神

地である。其處に後から佛様が渡つて來て堂宇を建設したとすれば、それは神地にあるものであるからとの神の社に還元しなければならぬと云ふやうな態度立場から悉く斯う云ふものを神と判定致しまして、藏王權現と云ふ稱號は廢止して新しく金峰神社と云ふ名目に變へ此の問題は落着致したやうな状態であります。斯うした問題は全國を通じて頻々として起つて居るのであります。例へば秋葉權現の問題、又出羽の羽黒山がさうなであります。斯くして明治政府の神佛分離といふ大英斷も四五年の間に段々と解決せられまして、今日見るが如き所謂神佛分離の状態を實現するに至つたのであります。

斯うして神佛分離の状態に至るまでの經過を考へて参りますと、その裏に潜む力と云ふものは、即ち先程申し上げましたやうな神道興隆の精神即ち神道的精神である。此の神道的な精神に立脚して神佛の分離が行はれたのであります。是に伴つて一面また排佛の運動が起つて來た事も見られるのであります。——排佛毀釋の運動——之は佛教側か

ら観れば日本始まつて以來最も大きな打撃であつたのであります。而も此の運動を援けたもの、一つは政府の役人で當時の教部省などの役人の頭には慥に排佛の思想があつたのであります。今一つは地方官——知事などの中には又排佛運動の先鋒をなした人が多かつたのであります。それに神官が従來の神佛習合時代にはともすれば佛教僧侶の下に屬しなければならぬ状態に置かれて居つたため、此の神道興隆期に際會して排佛運動を行ふと云ふこともあつたのであります。その一例を申しますれば、信州松本の藩で盛んな排佛運動が起つたのであります。その運動を起したのは誰であるかと申しますと、之は松本藩の知事であり、地方長官自らその權力を以て藩内の寺院を廢止させ、藩民は一切神道に之を轉向せしむると云ふやうな仕事をやつたのであります。その時知事が各寺院に對して下した説諭があります。之を讀んで見ますと此の時代の排佛思想が窺はれますから一讀して見ませう。

人の天地間に在るや必ず世業あり以て天祿を食む。茲に

於てか素餐の罪を免れて而して人分たる、若し世業なくして浮食するは俗に所謂穀潰しなるものにて、偷安浮食の巨賊その罪最も大なり。元來僧侶は教戒を掌り且葬祭を掌り以て天祿を食せしものなるに、今や教の施すなく葬祭の兼、檀家悉く神祭に歸する時は一の世業なきものなり。然るに尙偷安浮食するは豈天地に恥ぢざらんや、依つて夫々世業を始め浮食の罪を免れ度きことにあらずや。

之が明治三年八月に松本藩の知事が藩内の寺院に對して發した教諭であります。さうして仕事がなくつた僧侶達を悉く還俗せしめ或は百姓に或は町人に復せしめて世の營みを與へ、之に依つて所謂偷安浮食の巨賊の名を免れしめようとしたのであります。斯うした運動が諸方に現はれたのであります。之は正に佛教側に取つては一大恐慌時代であつたのであります。それ程一方に於ては神道的精神が當時の國民の血を沸したのであつて、其處に矢張り此の維新の改革が導いた所の烈々たる神道的精神の迸りを見ることが

出来るのであります。

斯うした運動に見られる程維新の精神と云ふものは神道的精神に燃えたのであります。従つて此の神道的精神は更に異つた形に於て全國に働かなければならなかつたのであります。それは何であるかと言ふとその次に現はれて來る所の大教宣布であります。大教を國民に宣布する大事業が矢張り明治政府に依つて始められたのであります。此の由來を申上げて見ますと、大教の宣布なるものが最初に政府に依つて行はれましたのが明治二年四月であります。即ち明治二年四月に教導取調局なるものが太政官に設けられまして、先づ之から發展する所の大教宣布の第一歩が踏出されたのであります。所が明治二年七月に先程申上げた通り官制の大改革があつて神祇官の再興となつたのであります。が、此の官制改革は矢張り此の問題にも及んで参りまして、此の時所謂宣教師なる役所が再興されて神祇官の外局の如き地位に置かれて現はれて來たのであります。神祇官には屬して居りませうけれども一方に於ては神祇官とは獨立した

やうな形に於て内外呼應した地位に置かれたのであります。宣教師が中心となつて大々的に國民全般に向つて大教、要するに神道であります。神道的精神なるものを布教する。斯う云ふ仕事がこの宣教師を中心として明治二年七月政府の手に依つて行はれたのであります。一休何故政府自ら斯の如く國民に向つて神道を宣布したか、それは如何なる精神に基くものであるかと云ふことを申しますために、茲に明治三年の正月に發せられた所の『宣布大教の詔勅』を拜しなければならぬのであります。之を拜しますと政府が何如なる目的を以て大教の宣布を行はれたか、明瞭に示されて居るのであります。

詔勅の御趣旨を申上げて見ますと、つまり之は全く近世の儒者、國學者の主張に基く所の復古の精神であつたのであります。先に私は、明治維新の改革はその劈頭に神武創業の初に立復ると云ふことを宣布されたと申しましたが、之即ち復古の精神であります。此の復古の精神を徹底せしむるため此の大教の宣布が行はれたことがよく詔勅に示さ

れて居るのであります。乃ち大詔の御趣旨を申し上げて見ますと、『我が國上代の社會にあつては祭政一致、億兆心を同うして治教上に明に風俗下に麗しかつた。』斯う云ふつまり上代讚美の辭が茲に示され居るのであります。『所が中世以降時に盛衰あり道に顯晦あり』歴史に興廢は免れないのであります。或る時は衰へ、或る時は榮え、上代の治教も或は顯はれ或は晦れ、さうして段々衰へて今日維新の時に到達した。『然るに今や天運循環して百度維新の機運に到達した。此の時機に際會して大いに明にしなければならぬのは上代の我が道である治教である。さうして治教は即ち惟神の道である。此の惟神の大道を宣揚しなければならぬ。之即ち宣教師を任命して全國に向つて布教せしむる所以である』とかう云ふ意味の御言葉が示されて居るのであります。即ち大詔は復古の精神を貫かれたものであります。つまり我が上代の社會に於ては祭政一致而も神道は日本の國民を支配した根本精神である。所が中世に於て段々國民の風俗が紊れ國民思想が紊れまして、曾て上

代に現はれた所の神道的精神と云ふものは段々衰へる方向に向つて來た。所が今や再び維新の改革と云ふ大きい革新の機運に際會して茲に再び中世を飛越へて上代に立復つて惟神の大道を現代の日本に宣布して國民を此の精神に依つて指導しなければならぬと云ふ意味の御精神が茲に維新の社會に輝いたのであります。

所がその後當時の情勢を眺めますと、必ずしも斯うした御精神に依つて我が國の社會が動いと云はれないやうな状態が一方に現はれて來たのであります。或は學問の方面に於て、或は經濟的な方面に於て、或は政治の方面に於て、或は宗教的の方面に於て色々新しい西洋の文化が我が國の社會に流れて參りました。此の新しく迎へた西洋の文化なるものが侮り難い勢力を發揮して來まして、曾て維新の改革を指導した根本原理であつた所の復古の精神なるものが、ともすれば動搖しなければならぬやうな状態も見られて來たのであります。其處に於て時の政府の役人、或は役人の一部と申しましても宜からうと思ひますが、到底

我が國の進運は此の状態に任せることは出來ない、斯う云ふ一種の意見が政府内部から起つて來たのであります。さうして又茲に大教の宣布が新しく問題になつて來たのであります。即ち先づ明治三年九月に神祇官員一同の政府に對する建言がありまして、祭政一致の實を確立し同時にキリスト教の防止を徹底せよと云ふ意味の意見が現はれて參りました。キリスト教は御承知の通り我が國ではキリシタンパレンの法と申しまして邪宗門なりとして判斷されて居りました。此の状態は明治維新の改革に於ても變りはなかつたのであります。明治維新後も之が禁止の札が國々に建てられたにも拘らず、當時キリスト教は私に勢力を養つて居たのであります。西洋との交通が開け西洋の文化が段々這入つて參りまゝと當然茲にキリスト教が興つて來ること判免れ得なかつたのであります。そこで之を此の儘是認する如きは不可ないと云ふので神祇官員一同よりキリスト教防止の建言を行つた譯であります。此の明治三年九月の神祇官の建言は何等その實を結ばなかつたのであります。が、

引續明治四年十月には寺院省を設けて頂きたいと云ふ建言が現はれて參つたのであります。何故寺院省の設置が問題になつて來たかと申しますと、その精神は前の建言と同じでありまして、矢張りキリスト教の防止のためであります。邪宗門であるキリスト教が我が國の社會に勢力を得て來て居る、之は放任することが出來ない。今一つは西洋の思想である自由民權思想が段々勢力を得て來た。此の自由民權思想は到底我が國體と相容れることの出來ないものがその中にある。此の思想こそはフランスの革命を導いた思想であつて、ルツソーの自由民權論或は天賦人權論と稱されて居ります。之が我が國の社會に流れて來た。此の状態を放任すれば或は我が國體を動搖させるかも知れない、斯うした思想上の危機を自覺して之は到底放任することが出來ないと云ふ見地から此の建議となつたのであります。何故かと申しますと、思想を制するには思想を以てしなければならぬ、一方に於て之を抑へる思想を確立するに越したことはない。斯うした立場から寺院省を設置して前の宣教師

と共につまり佛教側の僧侶も加はりまして合同して天下に布教せしむる。斯うした目的を以て寺院省の設置なるものが建議致されたのであります。此の建議も實現せられなかつたのであります。そこで引續いて更に新しく教部省の設置建言が行はれましたのであります。その目的は全く寺院省設置の場合と同一でありまして、之が漸く實を結んで明治五年三月教部省なるものが設置されるに至りました。

### 政教一致時代

教部省の設置は實は神祇行政の立場かな申すと一大變動の時機に際會したのであります。先程私は明治初年神祇行政の機關として、或は神祇科或は神祇事務局が設けられたと申上げましたが、神祇科及事務局なるものは要するに神祇官再興の前提をなしたのであります。神祇官の再興に向つて之等の役所は進んで來たのであります。さうして神祇官が愈々實現されますと、此處に八神殿、天神地祇、或は歴代の皇靈などを祭られまして祭政一致の政治が確立され

て居る。その後神祇官が神祇省と云ふ名稱に變りましたが名稱は變つても昔の神祇官の姿が保たれて來て居つたのであります。所が明治五年三月神祇省を廢止して教部省を設置することになりまして、從來の祭の政治から教の政治に變つて來たことが見られるのであります。從來は祭であつた祭政一致であつた。従つて神祇官に神殿を設けられまして神を祭り、祭と政と一致した政治が行はれたのであります。所が教部省になると今度は祭にあらすして教である。政教一致と云ふ建前を取つて参つたのであります。之まで神祇省に祭られて居つた八神殿その他の神殿は此の時宮中に遷されたのであります。同時に宣教師も當然廢止されたのであります。それは教と云ふことが非常に必要であり刻下の急務となつて來たので教部省が現はれて來たと言へるのであります。さうして神官僧侶が手を携へて國民を教導することとなり全國の神官僧侶を教導職に任命した。さうして教導職が教部省を中心として國民の教導に従事するのであります。神佛の教導職が合同して大教院を東京芝

増上寺に設け之を中心として教導を行ふことになつたのであります。大教院は如何なる仕事を行つて居つたかと申しますと、教學の講究、教書の編輯、教導職の人事、教育、教會講社の取締等が行はれたのであります。さうしてその分院が地方に設けられ中教院、小教院と稱へて居りましたのみならず茲にその教導職を中心として結ばれる所の教會講社があり、教會講社は要するに道を實際に行ふ一つの訓練を行ふ團體であります。斯うした教會講社の組織が全國に擴がつて参りまして、教導職が中心になつて一つの宗教團體とも言はれる大きな組織が我が國の社會に現はれて参つたのであります。教部省が教導職の國民教導の根本精神として示されたものが有名な教則三條でありまして、三條の教則を申上げますと、第一條は敬神愛國の旨を休すべきこと。第二條は天理人道を明にすべき事。第三條は皇上前奉戴し朝旨を遵守せしむべきこと。此の三條條であります。此の教則三條を根本精神として國民に布教しなければならぬと、斯う云ふやうな組織で全國民の教導に當つた

のであります。之も全く神道精神に基く所の教であります。が、殊に一方神社の方を見ますと氏子調と云ふものが行はれて居ります。教部省が出來る一寸前の明治四年七月に氏子調の布告が下されまして、日本國民は生れると必ず或る神社に屬しなければならぬと、氏神即ち産土神を中心として國民の團結が結ばれて居つたのであります。それが氏子であります。さうした氏子調の布告が下されて居る。其處へ以て來て教部省の斯の如き國民教導の組織が作り上げられることになると、全く此の時代は神道の全盛時代でありまして、神道的精神が國々に行渡つた時代であると言はなければならぬのであります。只此の問題には一つ斯うした必要もあつたと云ふことを附加して置かなければならぬのであります。一休明治維新の改革と云ふものは、一方只表面だけを見ますと、朝廷と幕府の勢力争ひのやうに見られるのであります。之まで幕府が有つて居つた政治上の權力を朝廷に返上した。それを返上するには薩長のやうな地方の雄藩が之に與つて居る。それで尙更勢力争ひのや

うに見られる譯であります。それで之では維新の改革は行はれても民心の安定を求めることが出来ない。そこで政府は、維新の改革なるものは只朝廷と幕府、或は幕府と薩長との間の勢力の争ひではない、我が國の政治と云ふものは當然朝廷にその権力があるべきもので、之は我が國体に依つて決定された事實であると云ふ觀念を明にすることに依つて、始めて維新の改革なるものは單なる勢力の争ひではなくして當然あるべき朝廷に政治の實權が立復つたのである。復古したのであると云ふ所以が明瞭になつて來る譯であります。斯うした理解を國民全体に行渡らしめることに依つて始めて維新の改革を歴史的に意義あらしめる譯でありますから、斯うした必要も之に加つて免に角全國に向つて教導職の大活動が始つた趣旨を茲に見なければならぬのであります。

然らば此の教部省を中心とした新導職の國民教導の事業なるものは如何なる結果に到達したか、果して期待した効果を擧げ得たかどうかと云ふことを茲に又新しく顧なければ

は佛教それ自身に自分々々の宗旨を有つて居る。例へば眞宗であるとか、禪宗でありますとか、夫々宗旨を持つて居る。所が政府が僧侶に要求する所のものは斯うした眞宗の宗旨或は禪宗の宗旨を説教することではないのであります。自派の説教は差措いて三條の教則を布教することである。三條の教則なるものは先程申上げましたやうに敬神愛國を旨とし云々と言はれるやうに神道の精神で、僧侶自ら神道の説教を行はなければならぬと云ふやうな状態に置かれて來たのであります。而も一方に於て此の布教も造化三神、天照大神の四柱の神を祭らなければならぬ。寺院に於て説教を行ふ時は本堂に四柱の神を祭らせるのであります。神佛混淆は罷りならん時代でありますから本堂から佛像その他を他へ運んでしまつて、本尊の佛像の代りに四柱の神を祭つてその前で僧侶が説教を行ふと云ふ斯う云ふ状態が現はれて來た譯であります。斯うなるとどうも佛教側が納まらぬものがある。一体此の時代に於ては佛教はどちらかと申しますと餘り熱を有たなかつたのであります。けれ

ばならない順序となつて來るのであります。先づ斯の如き組織を以て斯の如き精神を以て行はれた教部省の國民教導事業のその後の経過を眺めて見ますと、此の教導事業は必ずしも期待した程の効果を擧げることが出来なかつたのであります。何故期待した程の効果を擧げることが出来なかつたかと申しますと、茲には少くとも三つの問題を擧げることが出来るのであります。此の時代の神官即ち教導職に任命された所の神官には無學の人が多うかつた、而して方々の教導職の説教を聽いて居りますと甚だ醜態が見られ、教導職にして國民教導の説教をなす言葉を知らない。神官の説教が甚だ未熟であると云ふ問題が起つて來たのであります。今一つは神佛の關係で、先程教部省は神佛合同して布教を行はせたと申上げましたが、一体神佛合同で仕事をすると云ふことは何を意味するかと申しますと、例を申上げて見ますと、茲にどうしても問題の起つて來るのは佛教であります。神官の方は當然自ら奉ずる所の神道を國民に布教するのであるから問題はないのであります。所が佛教

ども、衰へた明治初年の佛教界で免に角一脈の熱血を傳へ來つたものは眞宗であつたのであります。そこで眞宗の僧侶などは斯う云ふ状態に堪へられないものがあつたのであります。そこで斯う云ふ伺ひが教部省に達するやうになりました。教導職の説教を聽いて見ると、三條の教則の事は一言も言はないで地獄極樂の話をして居る。一体さう云ふことで許されるのかと云ふやうな伺ひが出て參りました。そこで教部省はそれは甚だ怪しからんと云ふことになり教導職を鹹にしてしまふと云ふやうな問題も起つて居るのであります。免に角斯う云ふ問題が頻々として起つて參りまして、遂には神佛合同の大教院を分離して頂きたいと云ふ願出が起つて參りました。つまり神道は神道、佛教とその立場に立つて然る上で三條の精神を布教しなければならぬ、斯う云ふ意味の歎願が眞宗側から起つて參りまして大教院の中は相當混亂して來ました。今一つはキリスト教の問題であります。先程申上げましたやうに、教部省設置の目的はキリスト教の防止であつたのであります。邪宗門で

あるキリスト教が國民の間に擴がつて來ては一大事である  
そこで教部省を作つて、思想を制するには思想を以てする  
の建前から教部省の布教が行はれたものである。所がその  
以後のキリスト教の状態を見ますと、當時我が國の状況は  
どうしても西洋との交際を行はれない譯に行かない状態に陥  
つて來た。西洋と交際を行へばその間に自からキリスト教  
が段々我が社會に浸潤して來る。而もキリスト教の宣教師  
が説教を行ふ場合に三條の教則を誹謗する者がある。神道  
の話は嘘偽だと云ふやうな意味の説教を行ふものがあつた  
そこで教導職も黙つて居る譯に行かない、政府に伺ひを出し  
たのであります。キリスト教の説教を聞いて居ると吾々が  
行つて居る三條の説教を誹謗するものがある。一体之を放  
任して宜いのか、同時に吾々も説教を行ふ場合公然とキリ  
スト教を反撃しても構はないかと云ふ意味の伺ひが教導職  
から教部省に達したのであります。併しその時代の政府の  
立場は餘程前と變つて來て居り、教部省はキリスト教を排  
撃することを當然の任務としたのであります。その後段

々情勢が變つて参りました。外國との交際上色々問題が起つ  
て参りました。段々キリスト教を黙認しなければならぬ  
やうな状態に陥つて來たのであります。それで教部省はそ  
れ等の伺ひに對して、キリスト教を反撃することは構はな  
いが、問題を起さないやうに排撃せよと云ふやうな達旨を  
出して居るのであります。斯うなると教導職も困つて來る  
反撃しても宜いが問題を起さないやうに排撃せよと云ふこ  
とはなか／＼困難であります。之はつまり斯うした困難を  
伴はなければならぬやうな情勢に向つて我が國情が動い  
て來たのであります。斯うなつて見れば最初の教部省の  
仕事である國民教導は甚だ困難になつて來て、神佛の問題  
キリスト教の問題と内外極めて他事と云ふべきで、そこ  
で教部省設置當初の意氣込を失つて参りました。到底最初  
の精神を以て教導の仕事を繼續することは出来ない状態に  
立至つて來たのであります。そのため此の問題を解決する  
一つの方法として神佛合同の大教院を解散すると云ふ問題  
が起つて來た。明治八年四月に神佛合同の大教院を解散致

しまして、神道側は神道事務局の中に神道大教院を設けま  
して、神道は神道として布教する。又佛教側は各宗に分離  
して夫々説教に従事すると云ふ状態が起つて來たのであり  
ます。

大教院解散以後の事は皆さん御承知のことと思ひますか  
ら省略しますが、その後の経過だけを併せて見ますなら  
ば、明治十年一月に教部省が廢止されました。代つて新し  
く出來ましたのが内務省の社寺局であります。斯うなると  
最初神祇官再興問題に熱中した時代と大分様子が變つて來  
た。太政官の上に神祇官を再興した明治初年の勢ひが驟て  
明治十年一月には教部省の廢止と共に内務省の一社寺局に  
移つてしまつたのであります。而もその後明治十五年一月  
には、之亦重大問題であります。神官の教導職兼業務廢  
止とまでなつた。神官は布教を行ふ教導職を兼務してはな  
らない。之は所謂宗教と神社との分離であります。その上  
その時はまだ教導職は官吏であつた。役人であつたのであ  
りますけれども明治十七年八月になると政府は神佛の教導

職を廢止した。教導職は神道なら神道の管長に屬すると云  
ふやうに、政府の立場から離れて宗教として獨立する方向  
に向つて來たのであります。政府としては之を以て國民へ  
の布教を打切ると云ふやうな状態に終つてしまつたのであ  
ります。斯うして教部省は廢止される、神官の教導職兼務  
は廢止される、神佛教導職の廢止と云ふやうに一筋に歩を  
進めて來た反面に於て、明治十年以來所謂歐化主義の全盛  
時代が茲に現出し來り、教部省が防止しやうとしたキリス  
ト教或は色んな政治思想と云ふものが流入して参りました  
今度は日本それ自身の固有の物は悉く棄て、しまつて専ら  
歐化の方向へと進む機運に導かれたのであります。斯う考  
へて見ますと、明治維新の改革を指導したものは純乎たる  
神道精神であつた。然るに維新後の状況は段々その精神を  
失つて、之に代る所の近世西洋の科學的文化が我が國社會  
に大なる勢力を張つて参りました。最初明治維新の改革を  
導いたその立場と全く異つた立場に於て日本の歴史が導か  
れたやうな状態に移つて來て居ることを見るのであります

その間に残されたものは政府の立場から離れた神道各派の教導でありまして、之が御承知の通り所謂十三派神道として段々獨立して参りまして、今日に至るまで宗派神道に國民の神道的な教導が全部委託された形になりました。政府としては自ら陣頭に立つて國民を教導すると云ふやうな事は廢めてしまつたと云ふやうな状況に移つて來たのであります。

斯の如くにして世の中は思想、教育、社會萬般に亘つて西洋的になり、その間時に色々の運動もありましたけれども、大勢は西洋文化の吸収に一路邁進したのであります。所が最近に至りまして我が國民の間に斯うした状態に對する反省の機運が起きて來た。果して此の状態が我が國民としてあるべき状態であるか、果して我が國の歴史の進み行くべき方向であるかと云ふやうな反省が各方面に見え初めて來た。此のことは一方から見ますならばつまり明治維新の改革以來、段々歐羅巴の文化が流入して來て近世西洋の精神なるものが我が國民の精神生活を支配するやうになつ

文化現象が連つて居り互ひに關聯して居るその關聯であります。今一つの關聯は發展の關聯でありまして、昨日が今日になり、今日が明日になります。之を歴史的に申しますと發展であります。明治維新の時代が現代に連つて居る。之を歴史的發展と申します。之が發展の關聯であります。つまり今日の吾々と昨日の吾々とは別々の存在ではないのであります。矢張昨日の吾々が今日の吾々に連つて居るのであります。従つて今日の日本の文化、現代の日本の精神は矢張明治維新の文化、明治維新の精神と連つて居る。斯うした連りは更に明治維新から江戸時代、江戸時代から鎌倉時代、更に古代へと連る所の精神であります。斯うして時代的に連り、發展的に連る大きな組織の連りに依つて吾々は茲に存在するのであります。斯うした組織を明瞭に自覺して此の組織の上に存在の價値を發見する時、始めて吾々の存在と云ふものが歴史的地盤を確立することが出来るのであります。一人を一人とする吾々あるならば、吾々の力なるものは極めて微々たるものでなければならぬ。吾

て來て、どちらかと申しますならば我が國の歴史より古い西洋の昔の精神、例へば遠く遡るならば希臘の昔から近世の西洋に流れ來つた。西洋的精神の方が、寧ろ吾々國民に近い精神であるかの如く考へるやうな状態も見ることが出来るのであります。併し此の状態と云ふものは言ふまでもなく當然あるべき状態ではない。斯うした西洋文化の力が吾々日本國民の精神を支配する状態と云ふものは、一面から見るならば吾々國民の力の弛んだ状態、吾々が文化的に祖國を失ふた状態である。現代の凡ゆるものは突如として現代に現はれて來たものではない。バラ／＼に散らばつて居るが如きものであつても、現在見ることに出来る一切の文化現象なるものは、悉く關聯を有つたものであると言はなければならぬ。今日吾々が此の社會に見る色々の事柄をよく眺めて見ると、互ひに連つて存するものであつて箇々バラ／＼に存在して居るのではないのであります。歴史的に見れば此の關聯に二つの形があります。その一は時代の關聯、つまり現代と云ふ時代に依つてその時代の凡ゆる

々が一箇の吾々があり乍ら而も時代的に、發展的に、大きな連りを有つた此の更に大なるもの、一つの表現としての吾々である。その自覺に立つ時に始めて吾々は大きな力を發揮せしむることが出来るのであります。それで明治以後西洋の文化が段々流入して來て我が國民の精神を支配する力が強くなると共に此の關聯が段々失はれて來たのであります。吾々の精神をこの關聯に依つて連つて見ますと希臘の昔に遡つて行く、さうして神武天皇創業の精神には遡つて行かないやうな状態が導かれて來た。そこで之ではならん、我が國民は文化的祖國を失ふて居る。精神の祖國を恢復せねばならんと、斯うした自覺が今日目覺めて参りました。一種の復古運動が現在の我が國に盛んに起つて來た所以は茲にあるのであります。つまり復古運動とは一面から見れば失はれた祖國を恢復することでありまして、併し現在復古運動を理解するためには今一つ遡つて明治維新の改革の歴史的意義を考へて見なければならぬのであります。明治維新の改革は先程申上げましたやうに神道的な精神に

依つて指導された。所が實際の歴史の歩は此の神道的精神の支配から寧ろ西洋の科學的精神の支配へと段々導いて行つたやうな状態を現出したのであります。それに對して今日復古運動が起つて來て居るのでありますから、此の復古運動を理解するためには今一つ明治維新の改革よりもつと古い時代に遡つて、維新の改革を指導した神道的精神なるもの、歴史的な立場を理解して置く必要がある。斯うした立場を理解することに依つて一層今日の復古運動なるものは根を深く歴史の上に張ることが出来る。斯うした關係を見る事が出来るのであります。そこで今度は明治維新の改革から遡つて維新の改革を指導した根源の思想上の運動を一通り申上げて見たいと考へるのであります。

## 二、明治維新の原動力

維新の改革が斯の始く神道精神復古的精神に依つて指導されたと云ふことは、決して偶然ではなかつたのであります。此の偶然でないと云ふことは矢張突如として斯の如

従つて儒學の精神なるものは一言以て説けば、修身、齊家、治國、平天下の道である。つまり身を修め家を齊へ國を治め天下を平にする、之が即ち儒道であります。さうして此の修身、齊家、治國、平天下は悉く世間にかゝつた問題であります。所が佛教はどうであるかと云ふと、佛教は儒者の言葉に従ふならば出世間の教である。世間を出でて出家する。例へば親子の關係を斷つて出家する。或は社會から離れて出家すると云ふやうな教である。その對象が全然異つて居るのであります。此の故を以て彼等は盛んに佛教を排斥したのであります。さうして此の儒者を排斥する反面に於て神道と提携するの態度を取つて來たのであります。儒學は御承知の如く日本の國に始まつた學問ではない。支那に發した學問である。その儒學を學ぶ儒者が何故我が國の神道と提携の態度を示して來たのであるかと申すと、それには先づ此の儒者なるものが一体神道をどう考へたかと云ふことを見なければならぬ。仰々儒者の神道に對する理解に一つの手引を與へたものは北畠親房の神皇正統記であ

き思想が現はれて來たのではなくして、之を導いた思想上の運動が更に古く遠くにあつたことを示すもので、此の關係を古く辿つて行けば先程申上げたやうに神武創業の初にまで立復らなければならぬのでありますけれども、この運動に一時機を劃する問題を捉へて見ますと、之は近世頭初に於ける學問の勃興であつたのであります。つまり江戸幕府が開かれて戰國の社會が統制せられると共に次第に新しく學問が我が國の社會に勃興して來たのであります。此の學問勃興の機運に乗じて先づ擡頭したものは儒學であつた。此の儒學の勃興を導いたものは言ふまでもなく儒者であつたが、之に伴ふて茲に不思議な現象が生じて來たのであります。不思議な現象と申しますのは、此の儒者の内部から排佛運動が起つて來た。之には色々の理由があるのでありますけれどもその一つの理由を擧げて見ますと、此の儒者なるものは如何なる立場に立つて道を説くものであるかと申しますと、儒者が對象とする世界は現實の世間である。人間が集つて營む社會、國家、斯うした世間であつた

つたのであります。此の神皇正統記に北畠親房が神道を説いて居るのであつて、『大日本は神國なり』と云ふことかから神國の説明を行つて居るのであります。神皇正統記に依つて親房が説いて居る神道を見ますと、神道とは要するに政治の道である。之は天照大神の神勅に依つて我が皇統に傳はる政治の道であると云ふことを言つて居るのであります。その政治の道を託したものが三種の神器である。三種の神器は鏡、玉、劍である。此の三種の神器に天祖が三種の道を託した。鏡は正直の本源であり、玉は慈悲の本源であり、劍は智慧の本源である。正直の本源として鏡、慈悲の本源として玉、智慧の本源として劍と、此の三種の徳をつまみ三種の神器に於て北畠親房は酌み取つたのであります。此の三種の徳である三種の神器が我が皇統に託された政治の本で、その基く所は神勅である。之が即ち我が神道であると神皇正統記に申して居るのであります。儒者は此の神皇正統記に依つて斯うした意味の神道を知ることが出來た。斯うして眺めて見ますと、全く神道は儒道と其の精



神を同くするものである。その神道なるものが會て我が國の上代の社會を支配したのであると、斯う云ふ理解が近世儒者の頭に出來て來たのであります。今一度申しますと、日本の神道と云ふものは、天照大神に源を發するものであつて、その精神は正直と慈悲と智慧とである。此の三徳が我が國の皇統に傳へられた政治の道であつて、此の道を象徴したものが三種の神器である。斯う云ふ理解であります。斯う云ふ理解が導かれて参りますと、今度は儒者が次々に神道に注目した。全く神道が斯う云ふものであるならば吾々が説く所の儒道と全く同じ精神のものである。斯う云ふ風に考へて來た。斯うして段々日本の神道を研究し始めますと、次第に儒者の關心は我が國の上代に導かれて來たのであります。日本の上代は吾々の儒道と同じ精神の神道に依つて支配された時代である。斯うした政治の道である神道が會て我が上代に存在したと云ふことに彼等は驚いたのであります。斯うなると彼等の關心は次第に上代に導かれまして、儒者の間から我が國の上代研究が起つて参つたの

であります。その研究の結果として彼等の間から日本主義精神が發達して來た。日本は立派な國である。優れた國である。既に上代の昔に於て政治の道と言はるべき神道が存在した。斯うした立場から彼等は次第に日本主義的な精神に移つて來たのであります。さうして此の儒者を中心として日本主義運動なるものが近世の初に我が國の社會に渦巻いたのであります。その代表的な學者を申しますれば、先づ神儒合一の主張を初めて唱へたのは藤原惺窩、之は近世儒學の親と言はれる立場の人であります。即ち神道の精神は儒道と同じであると云ふことを注目した最初の人が藤原惺窩であります。その次は惺窩の弟子である所の林羅山であります。林羅山の思想を更に神道的に發展せしめた有名な學者が山崎闇斎であります。以上は悉く朱子學者であつたのであります。此の朱子學と異つた立場から更に此の問題に注目して一層儒者の日本主義的な精神を深め且強めたものは山鹿素行であります。斯うした學者が續々として現はれて來た。さうして茲に單に神道が彼等の奉ずる所の

儒道と精神を同くすると云ふのみならず、今度は先程申上げた日本主義運動を導いて來たのであります。

そこで彼等に依つて導かれて來た日本主義的な思想とは一体如何なるものであるかと云ふことを大体申上げて見ますと、此の近世の初に現はれて來た儒者の日本主義運動なるものは、次の關係に依つて構成されて居る。日本主義運動の思想の基く所は矢張神道であつた。次に國體であつた次に歴史であつた。次に義の精神であつた、次に風土論であつた。斯う云ふ關係に依つて儒者の日本主義は構成されて居つたのであります。此の關係を少しく申上げますと、神道は我が上代を支配した天照大神の道である。天照大神の道は我が國體の基礎を定められた。即ち神勅と三種の神器が我が國體の基く所であつて、我が國體の基くものは全く神道である。さうして神道に立脚した我が國體の時間的な展開、つまり古代から現代に至る國體の時間的展開を彼等は我が國の歴史に於て見たのであります。即ち我が國の歴史は皇統連綿萬世一系の歴史でありまして、斯の如き歴

史は世界中何處にもない、此の世界中見ることの出來ない唯一つである我が國の歴史、此、歴史は何に依つて現はれて來るかと申しますと、歴史の基くものは我が國體であり神道である。斯う云ふ一つの組織を作つたのであります。のみならず彼等は彼等の奉ずる神道の義の精神に依つて日本主義を根據付けたのであります。義の精神とは何であるかと申しますと、『義』には色々意味がありますけれども一つは物のけちめである。つまりそれ／＼の位に應じて現はれて來る道それが即ち義であります。吾々人間社會は悉く位に依つて作られて居る。例へば師の位、弟子の位、或は君の位、臣の位、斯う云ふ風に人間が澤山集つて社會を作るのでありますけれども、社會と言ふものは人間が必ずしも平等の立場に立つて結合して居るものではない。皆位があつて位に應じた地位を得る事に依つて人間社會と言ふものが構成されて居る。君あり臣あり、師あり弟ありと言ふ風になつて居る。さうしてこの位に應じて現はれて來る

道が即ち義である。従つて君には君の道があり、臣には臣の道がある。師には師の道があり弟には弟の道がある。斯うして此の位と言ふものが本となつて夫々の道が現はれて来る。茲に始めて義の精神が成立するのであります。従つて儒者の言葉に従ひますれば、先づ吾々は自らの親を愛する。その次に他人の親を愛すべきである。之即ち義である。若し自らの親を愛することを知らずして他人の親を愛するのはそれは不義である。斯う言ふやうに我が國を愛することを知らずして他の國を愛するものは不義である。先づ我が國を愛して然る後その愛は他の國に及ぶべきである。之が義である。此の順序が轉換すれば不義である。斯うした立場に於て儒者は義の精神を唱へて居るのであります。さうすると儒者は先づ支那の學問も大事でありますけれども義の立場から見れば彼等の第一に問題になつて来るのは支那でなく日本でなければならぬ。先づ日本が問題となつて然る後に支那が問題になつて来る。斯う言ふ風にして支那から日本へと彼等の關心は移つて行つたのであります。

斯うなると問題は先づ日本であつて支那ではない。従つて山鹿素行などは日本が中朝であつて支那は外朝である。斯ういふ關係を明瞭にして居る。斯うして義の精神が日本主義思想を根據付けるものとなつて来た。しかも此の思想の科學的な根據を示すものとして彼等は日本の風土に注目した。日本の國に斯の如き立派な思想が発生し、斯の如き立派な國体が作られ、斯の如き立派な歴史が導かれた所以は何處にあるかと云ふと、日本の國の土地柄にある。日本の國の風土は萬國に比類がない立派なものであるが故に斯の如き精神が発生したと、國土を以て彼等の日本主義思想を根據付けた。斯うした理由を以つて儒者の間に盛んに日本主義運動、祖國運動と謂はれるものが發展して參つたのであります。

所が此の儒者の祖國運動、日本主義思想なるものは、學問的に之を點檢すれば茲に大分問題があるのであります。例へば先程申上げましたやうに、我が國上代の神道は天照大神の掟でありさうしてそれは三種の神器に象徴されて居

る、即ち正直と慈悲と智慧である。或る場合には智仁勇を以て之が解釋される。併し斯の如き解釋が果して學問的にどうであるかと、斯うした反省が一方から起つて来たのであります。さうして斯うした儒者の考へを批評するため先づ日本の古語、古典を研究しなければならぬ。日本の古い言葉、古典である萬葉、祝詞、斯うしたものを理解することが出来ないで本當に當時の道である所の神道を論ずることは出来ない。斯うした立場から古語、古典の研究に立脚した新たな神道の解釋が一方から起つて来たのであります。それは何處から起つて来たかと申しますと、つまり國學者の間から起つて来たのであります。近世の後半になりますと儒者に代つて國民精神の指導的立場に位したものは國學者であると云ふやうな状態を茲に示して来たのであります。そこで國學の問題を一通り申上げなければならぬのであります。一体然らば國學とは如何なる學問であるか、之は皆さん御専門の問題でありますから立入つたことは申上げませんが、歴史的な關係を申上げるならば、先づ

國學なる學問が導かれて来る直接の關係をなすものは中世和學にあつたと云はれるのであります。然るにこの中世和學なるものは先づ公家社會に起り和歌、物語の研究、つまり文學の研究を主とするものでありましたが、それが近世に這入つて参りますと段々性質を變じて来たのであります如何に變じて来たかと申しますと、國學は和歌を母体とするものでありますけれども、その和學は次第に古學の性質を發揮して来たのであります。例へば中世和歌に於ては研究對象は大體に於て平安朝文學であつたのであります。それが近世になりますと段々平安朝から萬葉に廻り、萬葉から更に古事記に廻ると言ふ風に、段々研究の對象が平安朝から奈良朝へ、奈良朝から古代へ、古代の中に於ても古事記を目標として國學者の研究が導かれて来たのであります。即ち古學の性質を發揮して来たのであります。併乍ら單なる古學では未だ満足されるには至らない。古學の中にあつて更に發展して来た處のものは古道學の性質でありました。古道學に至つて始めて國學は完成されるのであります。古

道學とは一体何であるかと申しますと古道は神道である。神道は何に依つて研究されるかと申しますと先づ之は古事記に依つて研究される。古事記だけではないのでありますが、特に國學者の古道學に於て重要な地位に置かれたのは古事記の研究であつたのであります。斯の如く段々國學者の研究は古事記を目標として進んで來た。而して古事記の研究を完成したのは有名な本居宣長先生であつたのであります。宣長は有名な古事記傳四拾四卷と云ふ大著を完成された。茲に至つて之まで讀むことの出来なかつた古事記なるものが始めて近世の社會に送られたのであります。本當に古事記の意味が理解されるやうになつたのであります。そして正しく古事記を讀むことに依つて始めて古道即ち神道の本當の姿が明瞭にされて來たのであります。此の立場から見ますと、先程申上げた儒者の神道と云ふものは決して神道の正しい姿を得たものとは云はれなかつたのであります。斯う云ふ立場から盛んに國學者は儒者の神道及儒道を排斥しまして、専ら御國の學である所の國學即ち古道の

學を主張した。本居宣長の國學は更に平田篤胤に移つて行き、篤胤の國學は幕末から更に明治初年の社會にかけて發展したのであります。

斯う考へて参りますと、明治初年維新の改革を支配した神道的精神と云ふものは甚だ淵源する所が遠いものである。その基く所は我が國の古典古事記にある。その古事記を近世の社會に呼戻して古事記の精神なるものを酌み取つて、茲に古道學を完成せしめ神道の本當の姿を完成せしめたものは國學者の力であつた。斯うなると先づ之まで佛教や儒教に依つてその姿を歪めて來た所の神樣の本當の姿が恢復された。同時に神樣に依つて作られた日本人の本當の心、所謂清々しい御國心、神直毘の直き心、此の心を儒教や佛教の支配から解放せしめようとした。しかも我が國の上代の社會に於ては天皇を現人神として仰ぎ奉り、天皇の仰せの下に國民は悉く穩かに樂しく世を送つて居つた。此の古代の神々を恢復し、御國心を恢復し、天皇の權威を恢復しまして、茲に古代の姿を近世の社會に實現せしめる運動が

國學者の内部から興つて來た。尤もその時代は幕末でありまして、幕府が權力を有つて居るその時代に露骨な運動を行ふことは出来なかつたが、一度機熟し明治維新の改革に際しては、その指導精神としてこの國學の精神が維新の政治を指導することになつたのであります。斯う考へて來ますと、明治維新の改革の精神と云ふものは、實に古い遠い所の淵源を有つものであることが理解されて來るのであります。さうして茲にこそ吾々は我が國の歴史を一貫した國民の精神の流れを見ることが出来る。遠い古代、神代の昔に根を卸した所の國民精神の發展の經路、その姿を茲に把握することが出来るのであります。然るに明治維新當初に於ける勃々たる此の精神もその後明治の歴史に於て沈潜して終つて、社會の表面に浮上ることが出来なかつた。此の精神を再び呼び覺してさうして此の精神を基とした所の我が國の文化、祖國の精神を再現し我が國發展の基を作り

上げやうとするのが今日吾々お互ひの精神運動でなければならぬ。斯う考へて見ますと、今日に於ける復古運動と云ふものは、古に復るだけでなく古の精神を呼び戻して來ることに重點が置かれるのでなければなりません。今後我が國の歴史を指導するものは、我が國の精神でなければならぬ。我が國の思想の根底を流れ常に歴史的に大きな力を發揮して來た神道的精神なるものを顧みて、互ひに手を携へて今後日本の發展の基を作り上げなければなりません。又我が國の發展が基く精神的根據を深め、固め、強めて正しき日本の姿を換言すれば光輝ある神の國を現出することがお互ひに託された所の使命でなければならぬと云ふことを感ずるものであります。(滿堂拍手)本日は甚だ亂れまして十分意を盡さない點もあつたのでありますけれども、一通り私が申上げる精神は御解り下さつたことと思ひます。(拍手)



## 戦争と国民生活

大阪朝日新聞社経済課長

岡崎 主計 氏

私は只今御紹介を受けました岡崎でございます。私の話は此の講習會の前後を通じまして一番地味な問題で、皆さんも平素餘りお觸れになつて居ない様な問題であります。殊に私は本來話の上手な方でございませぬから御退屈であらうと思ひますが暫の間御辛棒をお願い致します。

現代戦争の最も大きな特色は『物資の異常なる消費』であります。戦争程莫大な物資を消耗するものは世の中にないのであります。先づ兵力の點から云ひましても、日本が初めて國を賭しノルカソルかの戦争をしましたのは日清戦争であります。其の時の兵力が約三十萬でありました。

それから十年後の日露戦争、あれも實際に日本としましては本當の國を賭しての戦争でありました。今度の戦争は初めからどつちが勝つか負けるかと云ふ事は全然問題になつてゐないのであります。日露戦争の時には本當に國を賭しての戦でありました。あの時の大官連中の戦争後に於て告白して居る所を聞きました。本當に勝つると云ふ自信は絶対に無かつたのであります。勝つてない戦争を何故するかと云ふことになりませんが、併し戦争は必しも勝敗の算盤を弾いてやるとは限らないのであります。崖の上の一本道で虎に出會ひましてどつちも逃げる事の出来ない進退谷

まつた際には、此の虎と闘ふて勝てないかと云ふ事を考へて虎に組みつきはしかいのであります。日本が日露戦争で戦ひましたのも丁度同じであります。兎に角勝つてと思ふから戦つた譯でもなく、日本は切羽詰つて嫌でも應でも戦はなければならぬ絶體絶命であつたのであります。其の時の日本の兵力が約百二十萬でありまして、日清戦争の時の四倍であります。

明治維新以來日本は前後六回の戦争をやつて居りますが日清、日露、さうして今度の日支事變之が一番大きな戦であります。其の他は大した戦争ではなかつたのであります。歐洲大戦には日本も形式上参加して居りますが、之も大した戦争はやつて居りません。あの時に一体各國はどれだけの兵力を動員したかと云ひますと、一々此處に申上げる必要もありませんが、大抵の國が一千萬人内外の兵力を動員して居ります。ドイツは千二百萬人、ロシアの如きは千八百萬人の兵力を動員して居ります。之を各國の人口に對する動員割合を見ますと百人に對して二十人乃至二十五人の

兵隊を出して居ります。之は殆ど不具者でない以上男は殆ど全部出切つた事になるのであります。常識的に考へになつても解ります様に百人の人口の内半分は女でありません。そうすると男五十人の内で老人が居り、子供が居り、不具者が居り、病人が居る。さう云ふ者を引いて後に残る者は結局二十人か二十五人である。それで歐洲戦争には各國共男は全部出切つた譯であります。

以上は兵力の動員であります。其の他の物資はどうであるかと申しますと、日露戦争の際に一番大きな戦闘をやつたのは御承知の奉天の會戦であります。この戦ひに於て日本軍が發射しました砲彈の数が三十三萬發であります。歐洲戦争で一番大きな戦でありましたソムムの會戦に於ては佛軍だけで三千四百萬發の砲彈を射つて居る。丁度日本軍が奉天の會戦で費ひました砲彈の百倍程費つて居ります。戦争は斯の如く莫大な砲彈を費ひますから一方に於てそれを補充しなければならぬ。フランスでは戦争の始まつた當時には一日に砲彈を一萬五千發ばかり拵へて餘裕綽々たる

ものでありましたが、戦争末期には一日三十萬發を拵へても未だ追いついて行けない程大きな消費をする様になつて居ります。

之は只砲弾に一例を取つたに過ぎませんが、御承知の様近代科學の發達に伴ひまして兵器の進歩と云ふものは實に目まぐるしいものがありまして、歐洲戦争には飛行機、タンク、潜水艦が始めて登場しますし、大砲、鐵砲、爆彈其の他の兵器にしましても實に非常な進歩であります。昔の戦争に於ては講談本や歴史の本に書いてある様に、武器と申しましたら刀を中心として槍、弓、鐵、冑などが全部でありまして、しかも之等の武器は消耗品ではないのであります。何十回でも何百回でも同じ刀、同じ槍、同じ弓を持つて戦争に出たのでありますから至極簡單なものであります。昔の戦争の勝敗は軍隊の訓練が如何に届いて居るか、將兵の頭数が如何に多いか、又士氣が如何に旺盛であるかと云ふ事に依つて決せられたのであります。しかるに現代の兵器は昔の兵器に比べたならば、その種類に於ても

又威力に於ても何百倍、何千倍と云ふことが出来るが、しかも現代の兵器は殆ど全部が消耗品であるから、これをどん／＼補充して行かなければならぬのであります。

歐洲戦争の時にドイツが國境からフランスのバリーを目撃して有名なベルタ砲と云ふ三十哩も飛ぶ大きな大砲を撃ち込んで聯合軍をアツと云はせた事がありました。之は他に例のないもので製造費が幾らかゝるか知りませんが、恐らく一つの砲を拵へるに何百萬圓と云ふ費用がかゝるに違ひないのであります。此の大砲は十四五發撃つたならば廢品になつてしまふのであります。之は極端な例でありまして、其の他の大砲にしても飛行機にしても一切の兵器は總て消耗品で且つ壽命が非常に短いのであります。だから現代の戦争に於きましては片一方でどん／＼消耗するのを片一方で補給して行かなければならん事になります。歐洲戦争以前の戦争に於ては第一線に出てる軍隊以外には直接には關係が無かつたのであります。かゝる國を賭しました日清戦争の時に於きましても、軍隊は戰場に出て生命を

賭けて戦つてゐるに拘はらず、銃後の一般國民は國內に於て平常通りの營業なり職業なりに従事して行く事が出来たのであります。歐洲戦争以後の現代の戦争に於きましては國民全部を擧げて戦争に参加しなければならぬのであります。所謂國民總動員、國家總力の戦争でありまして、之は現在の日本に於てもさうであります。

其の極端な例は矢張り歐洲戦争を見ればよく解るのであります。日本は御承知の様に食糧だけは自給自足が出来る事になつて居りますが、歐洲戦争の時に各國が一番に困つたのは食糧で、殊にドイツの如きは四面全部敵に圍まれ、外國との貿易を封鎖されて食糧の輸入が出来なくなると同時に、國內に於ては國民の殆ど總力を擧げて軍需資材其の他の戦時必要の爲動員されて居ましたから、國內に於ても食糧の生産力が非常に低下して、戦争が二年、三年と續くに從つて食糧の缺乏を來し、最後にはパンの中へ木材の粉を交ぜて製造する。其のパンさへ全部に腹が膨れる程行渡らなかつた。だから戦争中及び戦後にかけまして國民殊に

子供等は殆ど骨と皮だけの身體になつたのであります。之は食糧の方面であります。其の他衣服類にしましても最後には紙で拵へた衣服を着、底を板で造つた靴を履くと云ふ様な事で國民生活は滅茶々々な状態になつたのであります。

斯う云ふ莫大な物の消費をします一方に於て、戦争にはこれを賄ふための莫大な資金を必要とするのであります。日本だけの例に見ましても日清戦争の時には二億圓の費用を費つたのであります。十年後の日露戦争には十倍の二十億圓の費用を費つて居ります。更に、それから十年後の歐洲戦争に於て各國の費つた軍費は實に莫大なものであります。ドイツ、イギリスが日本の金にしまして七百億圓、フランス、アメリカが六百億圓、イタリー五百億圓の軍費を費つて居るのであります。

今度の日支事變に日本がどれだけ費用を費つてるかと思しみますと、去年の七月に戦争が始つて半年間に二十五億圓、それから今年の豫算で既に費ひつゝあり又今後費ふべ

きものを合して五十億圓、合計七十五億になつるのであります。之を日露戦争に比べて約四倍に上つてゐるのであります。日本が昭和六年まで約六十年の間に國家として出来ました借金、即ち公債の總高が六十億圓であります。昭和六年にかの濱口内閣と井上藏相が日本の借金がどんく増へては一大事である。六十億圓から一步も増やしてはならんと頑張つたのでありますが、本年一年間に發行します公債が約六十億圓でございます。過去六十年間に出来た國家の借金と同じものが本年一年の間に出来て行くのであります。

何故戦争の費用を公債に依るかと申しますと、勿論増税で賄つたら將來へ禍を残さないで好いではないかとも思はれますが、しかし實際問題として斯かる大きな戦費を租税で調達する事は殆ど及びもつかん事であります。今度の戦争が始りまして約五億圓の増税をしました。五億圓の増税だけでも國民殊に資本家連中は悲鳴を上げて居ります。況や其の十倍以上の戦費を増税によつて賄ふと云ふ事は絶對

に出来ない。此の七十五億圓を國民全部各戸に割當て、見ますと、一戸當り五百圓になります。其の日暮しの水呑百姓、ルンペンに到るまで五百圓の金を出すと云ふことは之も及びもつかんことでもあります。そんなら三井、三菱、住友の様な大きな富豪から出させたら好いではないかと云ふことになるが、富豪から取つて見た所が取るお金と云ふものは殆ど知れたもんであります。昭和十年に日本の第三種所得税を五十萬圓以上納めて居る者が二人あります。其の位納める様な人は所得の五割乃至六割が所得税に取られて居ります。だから百萬圓の所得の有る者は五十萬圓乃至六十萬圓の所得税を徴られて居りますが、其の五十萬圓以上の所得税を納めて居る者が二人しかありません。二人合せて百萬圓しか無いのであります。之では五十億、六十億から見たら雀の涙の様なものであります。又五十萬圓以上の所得のある人は昭和八、九、十年頃には大体十人位から二十人位有つたんでありますが、之等の富豪からトコットンまで絞り上げて見た所で、本當に知れたものであります。兎に角莫

大なる消費を賄ふて行く戦費を増税で徴る事はとても出来ない相談でありまして、借金でやつて行くより仕様がなしい之は日本だけでなく何處の國でもさうであります。

此處で皆さんに良く聞いて置いて頂かなければならぬのは、其の借金を何處からするかと云ふことであります。國民の懷中にそれだけ大きな金はありませんから、其の借金は中央銀行から借りるのであります。中央銀行と云へば日本では日本銀行であります。日本銀行はどうして其の莫大な金を貸せるかと申しますと、紙と印刷機によつて要求されただけのお金をドシ／＼造るのであります。百圓札一枚に幾らかゝるか知りませんが恐らく五厘か一錢位のものでありませう。そんな簡単な事でお金が出来たらば戦費がどれだけ要らうが騒ぐ必要は無いではないかと云ふことになりませんが、併し問題はさう簡單には參らぬのであります。皆さんは餘り産業とか經濟とか云ふ事に平素お觸れになつておいでにならぬと思ひますし、従つてかういふ問題については御承知にならぬお方が多いと思ひますが、日本の國

に平素どの位なお金流通して居るかと申しますと、約二十億圓の紙幣が出て居ります。之は何の新聞でも經濟面の一番下の所に日銀帳尻と云ふ標題で掲載されて居りまして日本銀行は毎日之を公表しなければならぬのであります。此の數字は毎日少しづつ動いて居りますが平均しまして平時二十億圓の紙幣が出て居ります。此の金が全部國民の必要を賄つて居るのであります。尤も此の外に補助貨幣として銀貨、銅貨が約五億圓有りますが、之は増減がなく、所謂兌換券と申します普通の紙幣は常に必要に應じて伸縮して居ります。此の二十億圓の紙幣は單に此の位で良いだらうと政府や銀行當局が勝手に決めたものではないのであります。此所に其の理論は直接皆さんに關係も有りませぬし又少々六ヶしいので申上げませんが、兎に角之だけが日本の國民經濟、日本國民全部の生活上なり營業上なりに必要なお金であり、多くもなければ少くもない分量であるのであります。必要以上のものが出たならば直ぐそが廻り廻つて日本銀行に歸つて来る。又必要が出来れば自然に日本銀

行から流れ出し、必要に応じて殖へたり減つたりして、現在の日本の文化の程度、経済の程度に丁度適ふて居るのであります。

ところが今度の戦争の爲七十五億圓の戦費が要る。殊に其の内の約六十億圓を事變公債で賄ふのであるが、即ち日本銀行から國家が借りるのでありますが、しかし六十億圓を一遍に出すのではなく、必要に応じて五億圓とか十億圓づゝ公債を發行するのであります。かくして必要に応じて六十億圓の紙幣が日本銀行から政府の手に渡り、政府はそれを以て軍需工場なり會社へ代金として仕拂ひ又給料として支拂ふのであります。それが廻り廻つて國民各人の懐中に入つて行くのであります。

若し、この日本銀行から出たこのお金が、その儘民間に止まつてしまつたならば大變な問題が起るのであります。何故かと申しますと、お金が急激に殖えたならば物價が暴騰するからであります。一休物價が上るのは二つの原因が有るのであります。第一に、お金の高が變らなかつたなら

ば、商品の供給が減れば其商品の値段が高くなります。米は日本で六千萬石内外出來ますが、それが三千万石しか出來ないとすれば米價は膨脹します。第二に、商品の方が變らなくて金が殖へたならば物價は下ります。お金が殖へると云ふ事はお金の値打が下る事でありまして、お金の値打が下れば物の値打が高くなります。だから、假に此處に二十億圓の紙幣が日本銀行から國內に出てそれで現在の様な物の値段が定まつて居るとすれば、其の紙幣の高が二倍になつた場合は物價は當然二倍に上らなければならんし、紙幣が三倍になつたならば物價が三倍に上るわけでありまして勿論、理論通りには動きませんが、理屈はさうなります。二十億圓しか現在要らないのに六十億圓に殖へて來る事になれば、紙幣の高が三倍になりますから物價も三になるべき理屈であるが、其處に思惑も起つて來ますし、紙幣に對する信用が動揺しますから、恐らく物價は八倍にも十倍にも暴騰して行くのでありませう。所謂其處に悪性インフレが起つて來ます。インフレとは正しく云へば英語のインフレ

インフレーション」で日本語では「通貨膨脹」と譯されてゐます。政

府が公債を發行して日銀から借りた紙幣をどん／＼出してその紙幣が民間にその儘残りましただらば、此處に大きな悪性インフレが起る事は免れる事が出來ないのであります。ところが、實際にはさうした現象は起つて居ないのであります。つて現に物價もさう上つてはしません。之は何故であるか無論政府が日銀から借りた金をどん／＼國內にバラ撒いてゐる事は事實であります。之は今年だけでも約六十億圓の公債を發行しなければならぬのであります。今年だけではありません。昭和七年以來政府はどん／＼公債を發行して居ります。所謂赤字公債と云ふものであります。我々が一年一千圓の收入があるのに千五百圓の生活をすれば五百圓だけ足らんから何所からか借りて來る。之が赤字であります。此の赤字公債をどん／＼發行して現在の國債は高は百四十億圓ばかりあります。昭和六年から八十億圓殖へた譯であります。ところが來年三月の年度末までに豫定されてゐる借金全部を入れたならば年度末に於ける日本の借金

總高は二百億になる勘定になつて居ります。

そんなに澤山の紙幣を政府がバラ撒いてゐるに拘らず、日本銀行の發行してゐる實際の紙幣は殖へてゐない。それはどう云ふ譯であるかと申しますと、日本銀行から出したお金が工場に支拂はれ、それが個人に行きまして日本國民の誰かの懐中に入る。それが今度は預金とか貯金とかの形を取つて、郵便局に入り銀行に入つて來ます。預金になり貯金になつたお金は郵便局なり銀行なりは、利子を拂つたお金を寝かせて置く譯に參りません、さうかと云つて莫大な金を借手もないのであります。借手が無いからといつて金庫に寝かして置く譯に行かんから厭でも應でも日本銀行に持つて行つて公債を買はせて貰はなければならん。かうして日本銀行から出した紙幣が、政府の手に入り、國民に渡り、それから銀行に入り、銀行かな日本銀行へと又歸つて來て居るのであります。かくして、現在日本の國民生活上又は經濟上必要のない金は廻り廻つて殆んど全部が日本銀行へ歸つて行つてゐるのであります。それで政府がどれだ

け大きな公債を發行して、それだけの紙幣をバラ撒いても日本の國內にはお金が殖へてゐないのであります。

併し注意しなければならん事は、現在日本の經濟は幸にもかゝる何等不安のない状態の下にあります。必しも永久にさう云ふ状態で行くとは限らるのであります。現にこの資金の循環作用が自然に行はれてゐるわけではないのであります。現在、政府から出たお金が日本銀行に歸らなければならん様な法律が澤山出来て居ります。例へば「資金調整法」が出来て會社が増資をしたり拂込を取つたりする事は政府の許可を得なければ出来ないのであります。それを勝手にやらせる事になれば、成績の良い會社の株を持ってば八分なり一割の配當が取れるために、銀行に預けるより餘程有利であるから株を買はうと其の方に流れて行きます。又「貿易統制法」と云ふものが出来て、外國から物を勝手に買ふことが出来ない。其の他色々な法律が出来て、政府から出たお金が他所に廻らないで、どうしても銀行に遣入つて行かなければならんであります。銀行は亦嚴重

な法律で監督せられてをるために、勝手に會社等に貸す事が出来ない様になつて居りますが、しかし預金者には利子を拂はなければならんから嫌でもそれ以上の利子の着いた公債を買はなければならん様な仕掛になつてゐるのであります。

今までは政府から出た紙幣が、紙幣の洪水を起さず順調に日本銀行の金庫へ歸つて行く運動をして居りますが、しかし色々な法律を拵へて見ましても程度問題も絶對的のものではないであります。如何に國家が獎勵し、また國民各自が非常時局を認識して消費節約をするつもりであつても、現實國民各自の収入が今までの二倍なり、三倍になつたら、知らず覺えずの内に生活費が膨脹するのであります。例へば、今までは家が半分破損してをりながら直す金も無いから辛棒してをつたが、大分預金も殖へたんだから、この際修繕しておこうか、又娘が嫁入りをしなければならん、長女の時には大した支度も出来なかつたが、収入も大分殖へたんだから今度は二千圓ほど奮發しようかと云ふ様に、

知らず覺へず支出が若干づゝ殖へて行くのでありまして、個人としては僅かなものでありまして、國民全体としては大變なものであります。だから、今後戦費がどん／＼國民の間にバラ撒かれて行くに従ひ、それを永い間繰返して行きます間に其のお金が途中で漏れて行きました所謂悪性のインフレが此處に起つて来る恐れが充分にあるのであります。

一体インフレが起つて来たならばどう云ふ事になるかと云ふ事をこゝで簡単に申上げて置きます。インフレと云ふ事は先刻申上げました様に、一口で申しましたならば「お金の洪水が起つて物價の暴騰を誘發する」と云ふ簡単な事柄であります。物價が五割なり、十割上つた程度でありましたならば、またそれが徐々に起りましたならば之は悪性どころではなく、寧ろ好景氣が起るのであります。國民一般は寧ろ喜ぶのであります。一般の商品の値段が上りますと生産者はどん／＼儲かります。商賣人も儲かります。又職工の給料も上るし、社員の俸給も上ると云ふ事で好景氣

が出るのであります。之が極端に行きました場合には好景氣どころの騒ぎでは濟まないのであります。歐洲戦争が済みまして三年目にドイツに極端な悪性インフレが起りますし、フランスにもイタリアにも各國に起つたのであります。其の中でも一番極端なのはドイツでありました。

インフレが起るときには、坂から車を落す如く初めは比較的徐々に三割、五割と物價が騰貴して行くが、急激に速度を増して、終には一ヶ月に三倍となり、一日に五倍となつて國民生活を破壊に導くのであります。さういふ際には一体國民の利害はどうなるかと申しますと、階段、職業その他の立場に依つて非常に違ふのであります。之を大雑把に申しましたならば、債権者が損をして債務者が得をする事になるのであります。物價が二倍になり、三倍になると云ふ事は、お金を有つてゐる側から云ひますと、お金が二分の一になり、三分の一になる事でありまして、之が極端に行つて物價が五倍になり、十倍になつた時に一体どうなるかと申しますと、物價が十倍になつたならば同じ物を買ひ



ますのに、物價が上る前の十倍のお金が無ければそれが買へないのであります。此處に百圓の月給を取る人があつて假に物價が二倍になつた場合を考へましたならば、丁度月給が五十圓になつたと同じ事でありませぬ。何故かと云へば總ての商品が二倍になれば今まで百圓で買へた商品が二百圓なければ買へない事になつて、お金の値打が其の物價が上る前の半分に下つてしまふのであります。

だからインフレが起つて物價が五倍になり、十倍になつた場合には、債権者の債權が十分の一になつたのと同じ事になるのであります。つまり金の形で有つてゐる者が一番損をする。債券を有つてゐる人、銀行に預金してゐる人、俸給生活者、恩給生活者、斯う云ふ部類の人々が一番打撃を受けるのであります。其の半面に借金を負ふてゐる人は得をするのであります。例へば、此所に一万圓の土地を有つてゐる人が、それを擔保に入れて銀行から一万圓の金を借りて居ると假定しました時に、物價が十倍になりましたならば其の田地の値段も十倍の十萬圓になります。イン

フレが起る前には、一万圓の田地を有つて一万圓の金を借りてゐるから差引其の人の財産は零であるが、インフレで物價が十倍になつた際に其の田地を十萬圓で賣つて一万圓を債権者に返へしたならば、九萬圓の金が自分の懐中に残る關係になり、借金を負ふてゐる人が得をする事になります。物を有つとる者は元々であります。何故かといへば物の値段が十倍に上つても、その間にお金の値打が十分の一になるからであります。

しかし斯様な損得の關係は物價が五倍、十倍程度の時の問題で、インフレが極端化して行つた場合には債権者も債務者もあつたものでなく國民の全生活が目茶々々になるのであります。之は机の上の理屈ではありません。歐洲戦後ドイツに於いては物價が一兆倍になつたのであります。一兆倍と云ふ事は一寸我々の頭で想像する事さへ出來ない天文的數字であります。恐らく一の次に零を十二も附けなければならぬ程の大きな數字であります。之を裏から云へばお金の値打が一兆分の一に下つた譯であります。之だけ

では未だ充分解りませんが、之をもつと解り易くいへばお金の値打がタダになることとあります。三井、三菱にどの

位の財産が有るか、私は別に他家の財産を勘定して見た事がありませんが、世間では十億圓とか十五億圓と云はれて居ります。假に兩家の財産がそれ〴〵十億圓あるとして、若し之を全部お金の形で有つて居りましたならば、物價が一兆倍に狂騰した場合には兩家の財産が全部御破算になるのであります。之は事實ドイツに於いてあつたのであります。ドイツに於ては百万長者、千万長者が片つ端から丸裸体になり、ルンペンになつたのであります。のみならず國民の生活は根こそぎひつくり返へされて、あの恐ろしい歐洲戦争以上の責苦をドイツ國民は受けたのであります。勿論之はドイツが五年間の戦ひで國力の全部を傾倒し、其の上戦敗國として大きな賠償の負擔をおはされてトントンまで虐め抜かれた爲、之だけの大きなインフレが起つたのであります。こんな極端なインフレが起る事は他の國、殊に日本に於ては想像する事さへ出來ないのであります。

悪性インフレが如何に恐るべきものであるかはこれで充分に解るのであります。

御承知のやうに、昭和六年末に六十億圓しか無かつた日本の國家の借金が今年度（十三年度）末には二百億圓になります。國家の借金が鼠算的にどん〴〵殖へて行きます。無論現在は戦時中でありませぬ。所謂非常時局であります。國力を擧げて東洋平和の爲闘つて居るのであります。國民全部が緊張して居りますし、政府の統制も宜しきを得て居ります。爲日本の經濟はビクともして居ないのであります。併し油断は大敵であります。ドイツにしましても戦争中にはインフレは起らなかつたのであります。フランス、イタリ―其他の國も戦争中には起らないで、ドイツは戦後三年目、フランスは四年目に起つて居ります。戦争中は國民が緊張して居りますし、又完全に統制せられて居る爲インフレの起る憂ひは無いのであります。戦争が済むと國民の緊張も弛み戦争の爲の統制も徐々に解かれなければならぬ。一般の統制としては恐らく今後益々強化されるので

ありませうが、戦争の爲の統制は戦争が済んだならば當然何等かの形で解かれなければならぬのであります。斯うなると矢張此所に油断が起り種々の摩擦が起る。其間際に乘じて悪性のインフレが起り易いのであります。

今度の日支事變に於いて兩國の基本的戦畧は、支那は長期抵抗であり、日本は速戦速決であります。支那の長期抵抗と云ふ事を之を裏から砕いて見ますと、「武力に於ては日本に敵はないが経済力に於ては自分の國が強い」と云ふ事になるのであります。何故かと云へば、自分の國が武力において強かつたならば永く引つ張る事はないのであります。だから永く引つ張ると云ふ事は自分の方が武力に於て弱いことおよび経済力において自分の國が強いことを前提として居るのであります。最初に申し上げた様に現代の戦争は「異常な消費」であつて、その勝敗を決するものはこの消費を賄つて行く経済力であります。之は私の理屈ではありません、世界中の専門學者が皆認めて居る所でありませう。又歐洲戦争に於てドイツが何故敗れたかを皆さんがお

が現代の戦争は武力で極まらない、最後の解決をつけるものは経済力であります。其處で武力では到底敵はんから戦争を何處までも長引かせ、日本の占領地が擴大すればする程武器が餘計に要り、兵力が餘計に要り、かくして経済力の消耗によつて日本をドイツのやうに敗戦に導かうといふのが、支那の唯一のまた最後の狙ひどころであります。皆さんは新聞を御覽になつて無敵皇軍が支那の重要據点を悉く蹂躪して居る事を御覽になつて、兎角日本軍が徹底的に支那軍をやつつけると簡單に考へてをられるのでありませうが、併し之だけで戦争の解決がつくのではないのであります。蒋介石かヘトクになつて居るのをイギリス、フランス、ロシアが尻をひつばたいて飽迄援助し、勢をつけて戦争をやらして居るのは、支那が考へて居ると同じ目的を有つてゐるのであります。ロシアの第一に目の敵にして居るのは日本であります。何とかして日本を倒してやりたいと云ふ事は永年の念願であります。武力で立ち向ふた所がとて勝目はないのであります。所が支那軍の尻をひつば

考へになつても解る事でありませう。歐洲戦争の勝敗を決したものは米國の参加であるといはれます。米國は武力が強い事はありませんが、金を有ち、軍需品を有ち、物を有つてをり、それを聯合國にどんく供給したのであります。武力戦においてはドイツは完全に聯合國を壓倒し、自分の領土へは聯合國の一兵も踏み込ませなかつたのみならず、東のロシア、西のイギリス、フランス方面、南はイタリアの方面に於ても總て他國の領土へ出つ張つてをつたが、しかし終にドイツは倒れました。武力に勝つて何故ドイツが敗れたかと云ふにそれは経済力に於て敗れたからであります。あの戦争が済みました時に、カイゼルが「ドイツは決して戦争に敗けてはゐない、ドイツは物資の欠乏に敗れたのだ」と云ふ事を叫んでをりますが、何もカイゼルが叫ぶまでもなく、それは世界の専門家が總て認めてゐるのであります。

支那が長期抵抗を叫ぶのは此處から出發してをるのであります。武力に於ては恐らく日本が世界一であります。所

たいて支那と闘はして置いたならば、自分の方は一兵をも殺さないで目指す敵の日本を倒す事が出来る。ロシアもフランスもイギリスも、支那が勝つとは夢にも思ふて居らぬのであります。今度の事變はどつちが勝つかと云ふ事は最初から問題になつてゐないのであります。一億の日本國民の中只の一人でも支那が勝つかも知らんと思つてゐるものはないのであります。日本國民だけでなく世界中の者が皆さう思ふて居るのであります。尤も支那は廣い國でありませう。支那には自分の國に於いてこんな大きな戦争が行はれてゐる事を知らない國民も奥地の方にはあるといふぐらゐだから、日本の實力を知らぬ者の多いのも當然かも知れませぬ。殊に中堅以下の青年將校は日本と一戦したら勝てると思つたのが相當多かつたのであります。日本は日露戦争以後一回も實戦の經驗をもつてゐないが、支那は年中國内で戦争をやつてゐる。それだけでも日本軍より余程強いと思つてゐる認識不足の連中が澤山居るのであります。しかし恐らく支那を除き今度の戦争で支那が勝つかも知れん

と思つてゐる者はないのであります。

しからば支那が敗けるに極つてゐるのを知りながら何故支那を應援して日本と戦はしてゐるか云ふに、これは先刻申しましたやうに戦争を長引かせる事によつて日本の經濟力及び兵力を消耗させて最後の敗戦に導かう、假りに敗戦とまで行かないでも再び起つ能はざる状態に追ひ込んでやらうといふのが本當の目的であります。之は日本國民として最も注意をして置かなければならん問題であり又最も重大な問題であります。この戦争が日本に取つて過去の日清、日露戦争に劣らぬ、寧ろそれ以上の重大な戦争であると云ふ意味も此点にあるのであります。今度の戦争は武力と云ふ点からいふたならば別に問題はないのであります。まるで嬰兒の手を捻る様なものであります。初めから勝つ事は判り切つてゐる。現に無敵皇軍は大陸の重要據点を悉く占領してしまつたのであります。しかしそれにも拘はらず何故支那が長期抵抗をやつてるか、何故ロシアや、イギリスや、フランスが支那の尻を押して居るか云ふ事を考

へましたならば、この際日本國民たるもの決して氣を弛め  
ることは出来ないであります。

「武力戦」は大體武漢攻畧を以て片がついた様であります無論蔣介石が何處までも敗けましたと云はん以上は「戦争」がやんだ事にはならぬのであります。併しもう後へ残つてゐるものは長沙邊りを叩き上げて置く必要があるのと、共産黨の根據地西安を攻畧して置く必要があるのとありませう。併し大體に於て最う武力戦の片はついでしまつて、従來の戦争であつたならば之で終りであります。併し敗殘兵の掃蕩とか、小規模の戦鬪は、今後相當長期に渡るでありませう。滿洲に於てさへ未だに匪賊の討伐をやつてゐるのでありますから、あの廣い支那に於いてさう急に片をつけてしまふ事は不可能であるが、併し大體の武力戦は一段落ついたと云つて差支へないのであります。所がそんならそれで終りかと云ひますればさうは參らぬのであります。今後に於きましては所謂占領地域の建設復興をやらなければならぬ。其の爲今後益々大きな資金を注ぎ込んで行かな

ければならぬ大きな仕事が残つてゐるのであります。だから武力戦は済みましても廣い意味の戦争と云ふものは今後當分終らないと見なければならぬのであります。

來年の日本の豫算が幾何要るか云ふ事は今各省に於て豫算の作成を急いで居りますが、今までの狀勢から見ますと來年も今年と大差の無い約九十億圓位の豫算が出来上りかけてゐるのであります。之を以て見ても武力戦の片がついたと云ふ事を以て戦争の終りと見る事は出来ないであります。今後に所謂長期建設の大きな仕事を擔つてゐる譯で、此所に益々國民として本當に緊張しなければならぬ重

大な問題が残つてゐる譯であります。恐らく今後に於ても當分の間は國家は大きな公債を發行して行くでありませうから、若し國民が緊張を欠ぎ、油斷をしたならば、先刻申し上げた様な悪性インフレが起り、國民經濟が破壊されな  
いまでも國民生活に大きな打撃を受ける様な問題が起り、支那なり、ロシアなり、フランスなり、イギリスの思ふ壘にはまつて行く形になる恐れがあるのであります。國民はさう云ふ意味で益々緊張して行かなければならぬのであります。長々取りとめない地味な話を致しまして御清聽を煩はした事を感謝致します。(拍手) (完)



392  
330

昭和十四年四月十日印刷  
昭和十四年四月廿四日發行

印刷者 小倉市船場町五三番地 岩田眞金

印刷所 小倉市船場町五三番地 岩田印刷所

電話 ⑤ 七三三五番  
小倉市德力三五七番地

發行者 佐野豊

終

